

結婚・出産・子育て及び
まちづくりに関するアンケート調査
【調査結果報告書】

令和2年3月

あ ま 市

目 次

第1章 調査の概要	- 1 -
1. 調査の目的	- 1 -
2. 調査の実施状況	- 1 -
3. 報告書の見方	- 1 -
第2章 調査結果	- 2 -
1. 回答者の基本属性	- 2 -
（1）性別	- 2 -
（2）年齢	- 2 -
（3）職業	- 3 -
（4）居住地域	- 4 -
（5）居住年数	- 5 -
（6）家族構成	- 6 -
（7）住まいの状況	- 7 -
2. あま市への居住意向について	- 8 -
（1）居住意向	- 8 -
（2）転居理由	- 9 -
（3）暮らしの場に求める条件	- 11 -
（4）あま市に住み続けるための条件	- 14 -
3. 結婚について	- 17 -
（1）結婚の状況	- 17 -
（2）結婚の意向	- 18 -
（3）結婚したくない理由	- 20 -
（4）結婚を考える時に気になること	- 23 -
4. 子どもについて	- 26 -
（1）理想的な子どもの人数	- 26 -
（2）今後希望する子どもの人数	- 27 -
（3）子どもの人数の見込み	- 28 -
（4）現在の子どもの人数	- 29 -
（5）理想よりも少なく子どもを見込んでいる理由	- 30 -
（6）妊娠、出産、育児において利用したいサービス	- 33 -
5. 進路について	- 35 -
（1）卒業後の進路希望	- 35 -
（2）卒業後に住みたい場所	- 36 -
（3）あま市から転居したい理由	- 37 -
（4）将来的なあま市での居住意向	- 40 -
（5）あま市での就労のために必要な支援	- 42 -
（6）地域の担い手としてやってみたいこと	- 44 -
6. あま市の施策について	- 45 -
（1）結婚希望者への結婚支援のために必要な施策	- 45 -
（2）妊娠・出産の環境整備のために重要な施策	- 48 -
（3）子育て支援のために重要な施策	- 51 -
（4）まちづくりワークショップ等への参加意向	- 54 -
（5）自由意見	- 55 -

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

次期「あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定や関連施策を講じるための資料として活用するために、結婚・出産・子育てに関する意識や、まちづくりに関する要望などに関するアンケート調査を実施しました。

2. 調査の実施状況

① 調査期間

令和元年9月

② 調査対象

- ・市内から五条高校、美和高校に通学する高校生：427人
 - ・18歳以上40歳以下の市民：2,573人
- 計3,000人

③ 調査方法

五条高校、美和高校に通学する高校生については学校を通じた直接配布・回収、18～40歳以下の市民は郵送による配布・回収

④ 回収状況

発送数	回収数	有効回収数	有効回収率
3,000票	1,010票	1,009票	33.6%

※回収票のうち、1票は白票であったため、有効回収数からは除外し、有効票＝1,009票で集計を行っています。

3. 報告書の見方

○図表の中のnは回答者の総数を意味しています。設問によっては、回答者が制限される（別の設問である選択肢を選んだ回答者のみ回答する場合など）ため、nの数は一定ではありません。

○比率は、nを100%とした百分比で算出し、小数点以下第2位を四捨五入しています。そのため、表示されている百分比の合計が100%にならない場合や、複数の回答の回答数を合計して計算した百分比が、表示されている当該回答の百分比の合計と異なる場合があります。

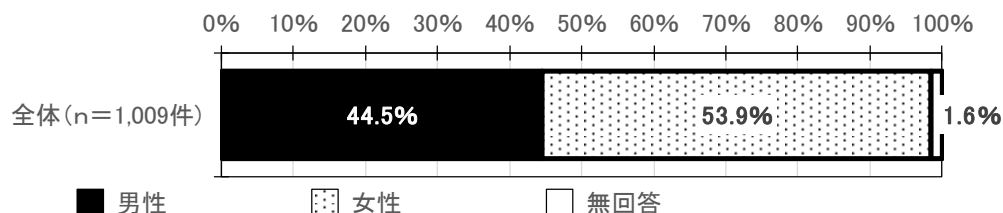
○複数回答が可能な設問では、その比率の合計が100%を上回ることがあります。

第2章 調査結果

1. 回答者の基本属性

(1) 性別

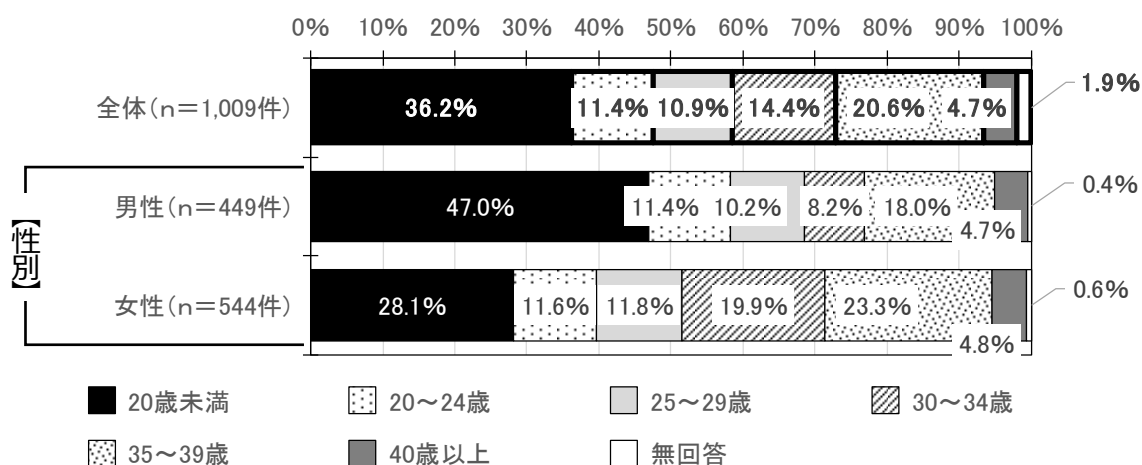
■ あなたの性別を教えてください。



回答者の性別は、「男性」が44.5%、「女性」が53.9%で、女性の占める割合が高くなっています。

(2) 年齢

■ あなたの年齢（回答時の満年齢）を教えてください。（数字を記入）

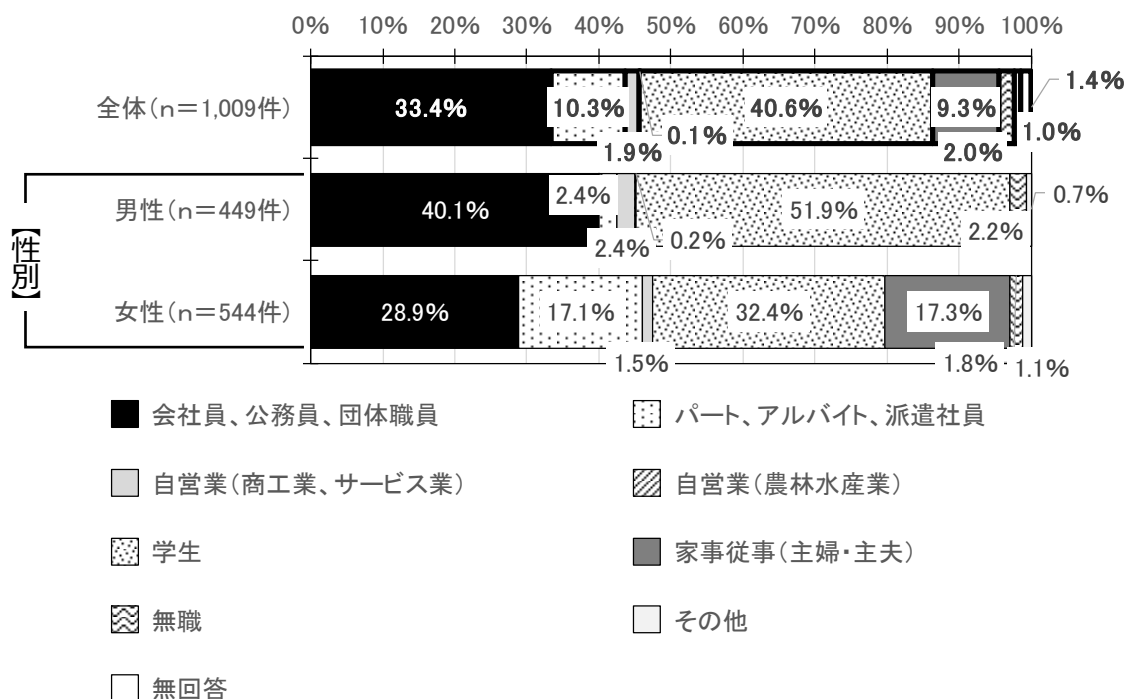


回答者の年齢は「20歳未満」が36.2%でもっとも多く、ついで「35～39歳」が20.6%となっています。

性別にみると、“男性”では47.0%が「20歳未満」で“女性”よりも割合が高くなっています。“女性”では「30～34歳」が19.9%、「35～39歳」が23.3%と、30代の割合が“男性”よりも高くなっています。

(3) 職業

■ あなたの職業を教えてください。(〇は1つだけ)

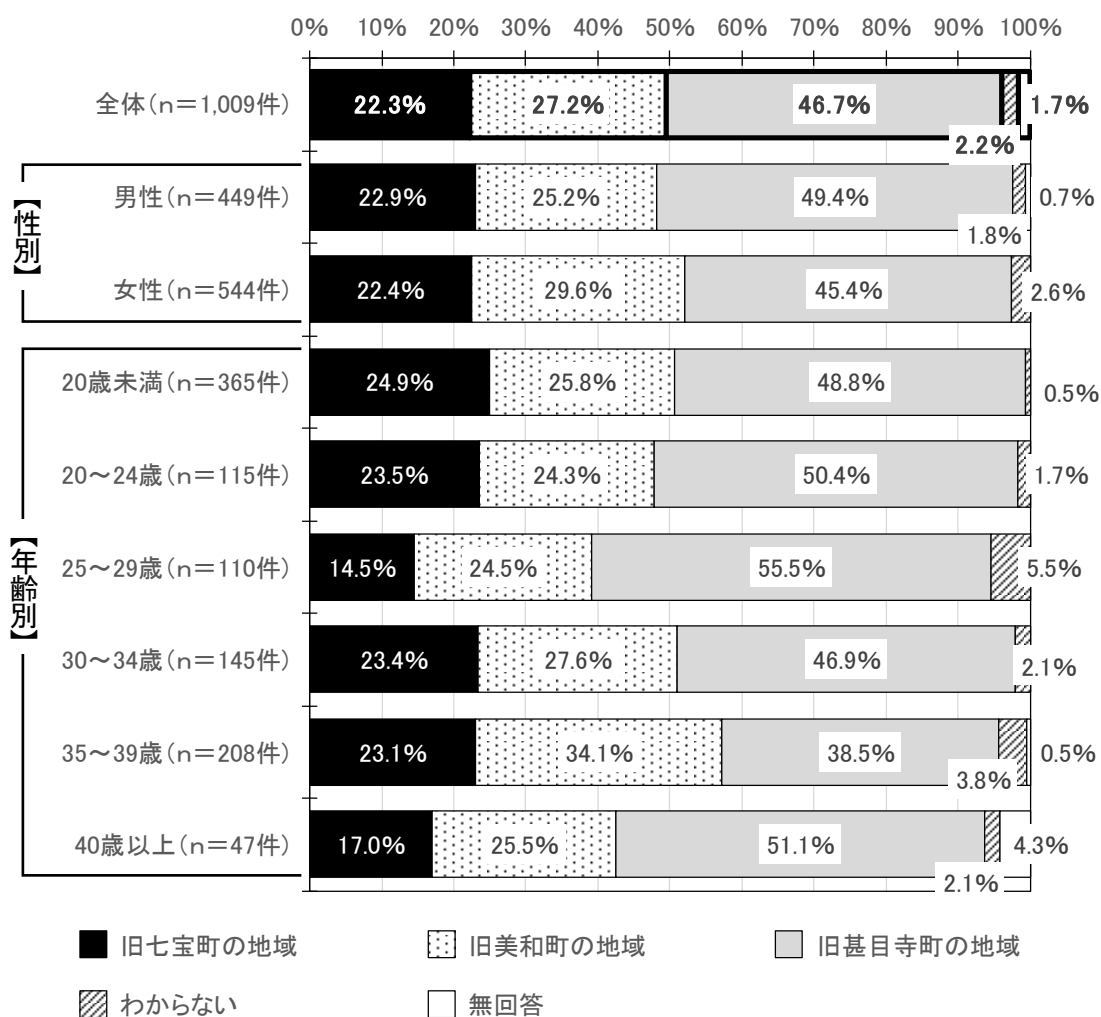


回答者の職業は「学生」が 40.6%と全体の4割を占め、ついで「会社員、公務員、団体職員」が 33.4%となっています。

性別にみると、“男性”では「学生」が 51.9%、「会社員、公務員、団体職員」が 40.1%で、ともに“女性”よりも割合が高くなっています。“女性”の中でも「学生」(32.4%)、「会社員、公務員、団体職員」(28.9%)の占める割合が高くなっていますが、「パート、アルバイト、派遣社員」(17.1%)と「家事従事(主婦・主夫)」(17.3%)の占める割合は“男性”よりも高くなっています。

(4) 居住地域

■ お住まいの地域を教えてください。(○は1つだけ)

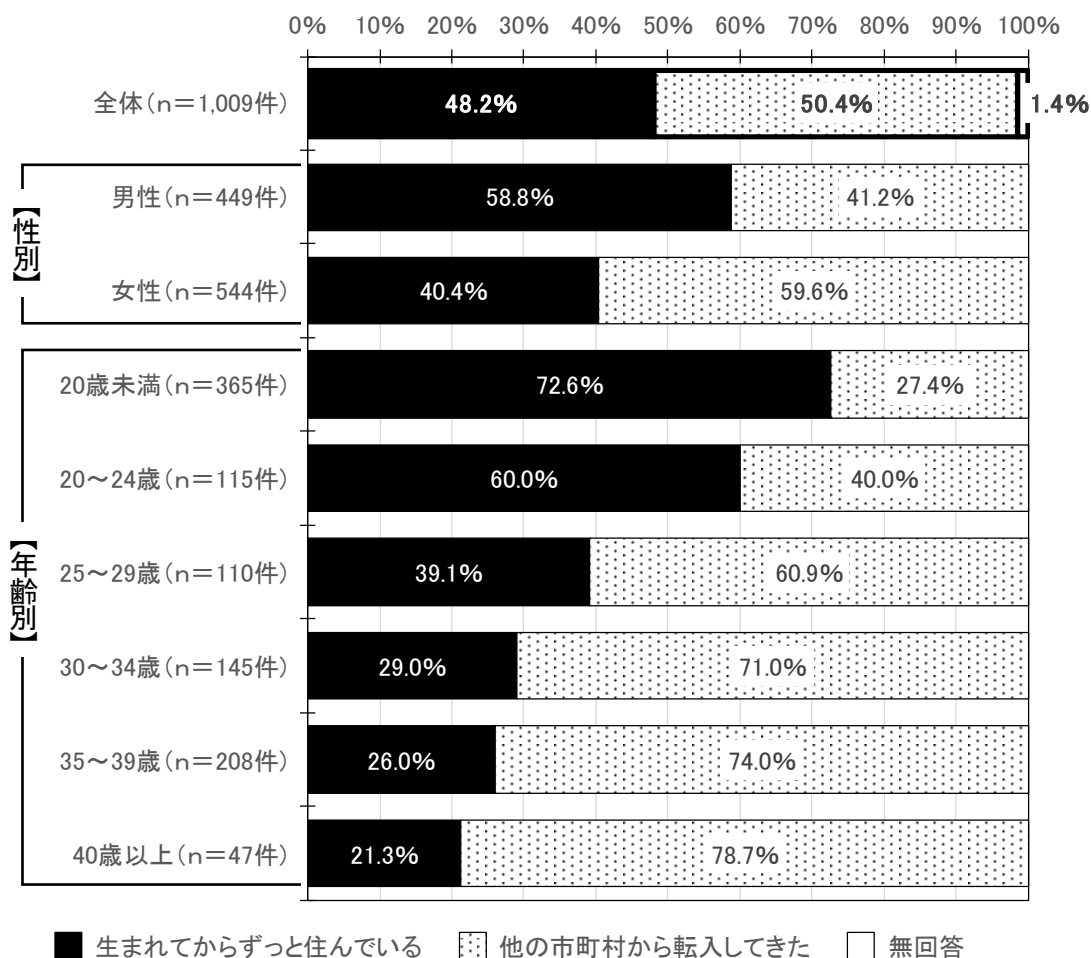


居住地域は、全体では「旧甚目寺町の地域」が 46.7%でもっとも多く、「旧七宝町の地域」(22.3%)、「旧美和町の地域」(27.2%) はともに 2 割台でほぼ同じ割合となっています。

性別、年齢別にみても「旧甚目寺町の地域」への回答がもっとも多くなっていますが、“35～39 歳”では「旧美和町の地域」が 34.1%でやや割合が高くなっています。

(5) 居住年数

■ あなたは、いつからあま市（旧町時を含む）に住んでいますか。（○は1つだけ）



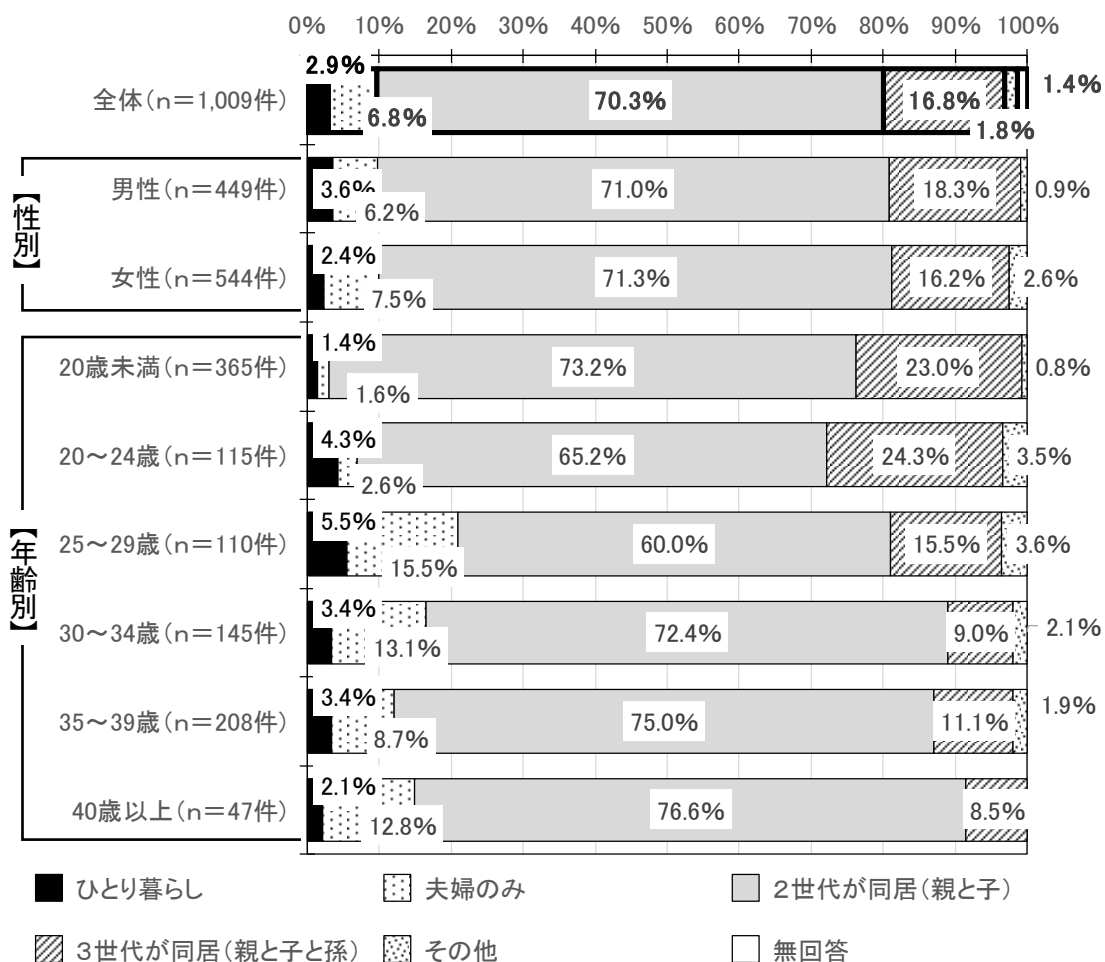
本市への居住歴は、全体では48.2%が「生れてからずっと住んでいる」としています。

性別にみると、“女性”では「他の市町村から転入してきた」が59.6%と約6割を占めています。

年齢別にみると、“20歳未満”では「生れてからずっと住んでいる」への回答が7割を超えていますが、年齢が上がるにつれて回答の割合は減少し、“25～29歳”では「他の市町村から転入してきた」への回答が60.9%、30歳以上では7割以上が「他の市町村から転入してきた」としています。

(6) 家族構成

■ あなたの家族構成を教えてください。(○は1つだけ)



「その他」回答の内容

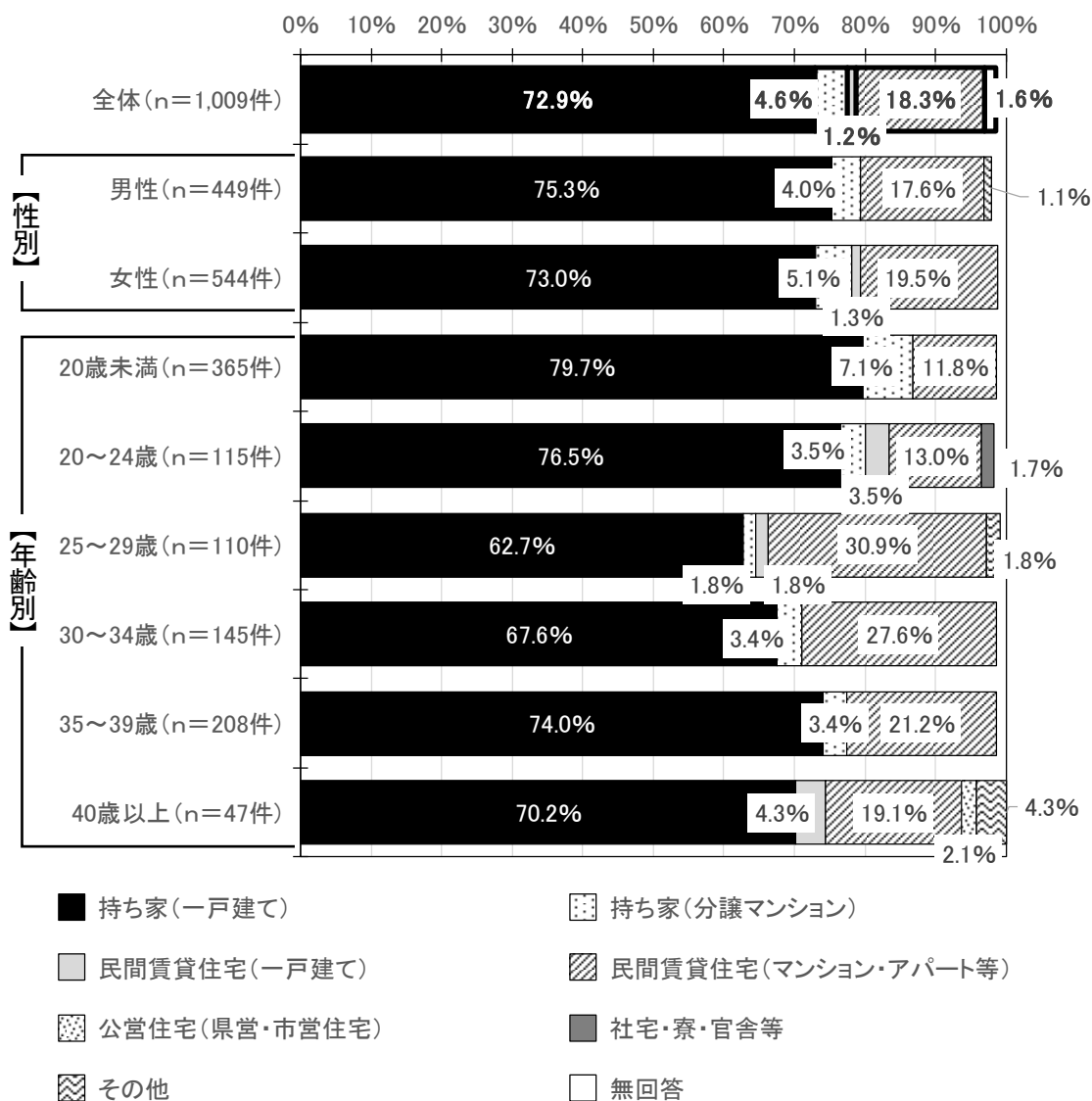
- ・祖父と孫
- ・4世代同居
- ・同棲 など

家族構成をみると、全体では70.3%が「2世代が同居(親と子)」としています。

性別、年齢別にみても、「2世代が同居(親と子)」回答がもっとも多くなっていますが、“20歳未満”と“20～24歳”では「3世代が同居(親と子と孫)」への回答が2割台を占め、他の年齢層よりも割合が高くなっています。

(7) 住まいの状況

■ あなたの住まいの状況を教えてください。(〇は1つだけ)



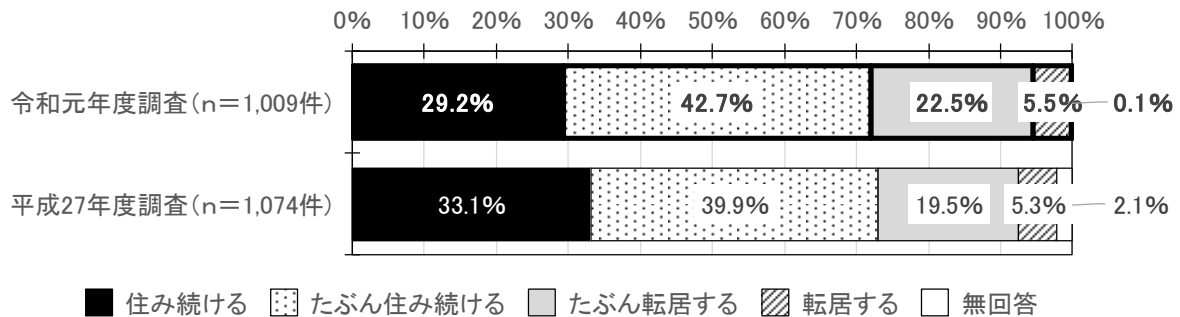
		n	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (分譲マンション)	民間賃貸住宅 (一戸建て)	民間賃貸住宅 (マンション・アパート等)	公営住宅 (県営・市営住宅)	社宅・寮・官舎等	その他	無回答
全体		1,009件	72.9%	4.6%	1.2%	18.3%	0.5%	0.3%	0.6%	1.6%
性別	男性	449件	75.3%	4.0%	0.9%	17.6%	0.4%	0.4%	1.1%	0.2%
	女性	544件	73.0%	5.1%	1.3%	19.5%	0.6%	0.2%	0.2%	0.2%
年齢別	20歳未満	365件	79.7%	7.1%	0.8%	11.8%	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%
	20～24歳	115件	76.5%	3.5%	3.5%	13.0%	0.0%	1.7%	0.9%	0.9%
	25～29歳	110件	62.7%	1.8%	1.8%	30.9%	0.9%	0.0%	1.8%	0.0%
	30～34歳	145件	67.6%	3.4%	0.0%	27.6%	0.7%	0.0%	0.7%	0.0%
	35～39歳	208件	74.0%	3.4%	0.5%	21.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%
	40歳以上	47件	70.2%	0.0%	4.3%	19.1%	2.1%	0.0%	4.3%	0.0%

住まいの状況をみると、全体では72.9%が「持ち家（一戸建て）」としています。性別、年齢別にみても、「持ち家（一戸建て）」回答がもっとも多くなっていますが、「25～29歳」と「30～34歳」では「民間賃貸住宅（マンション・アパート等）」への回答が3割前後を占め、他の年齢層よりも割合が高くなっています。

2. あま市への居住意向について

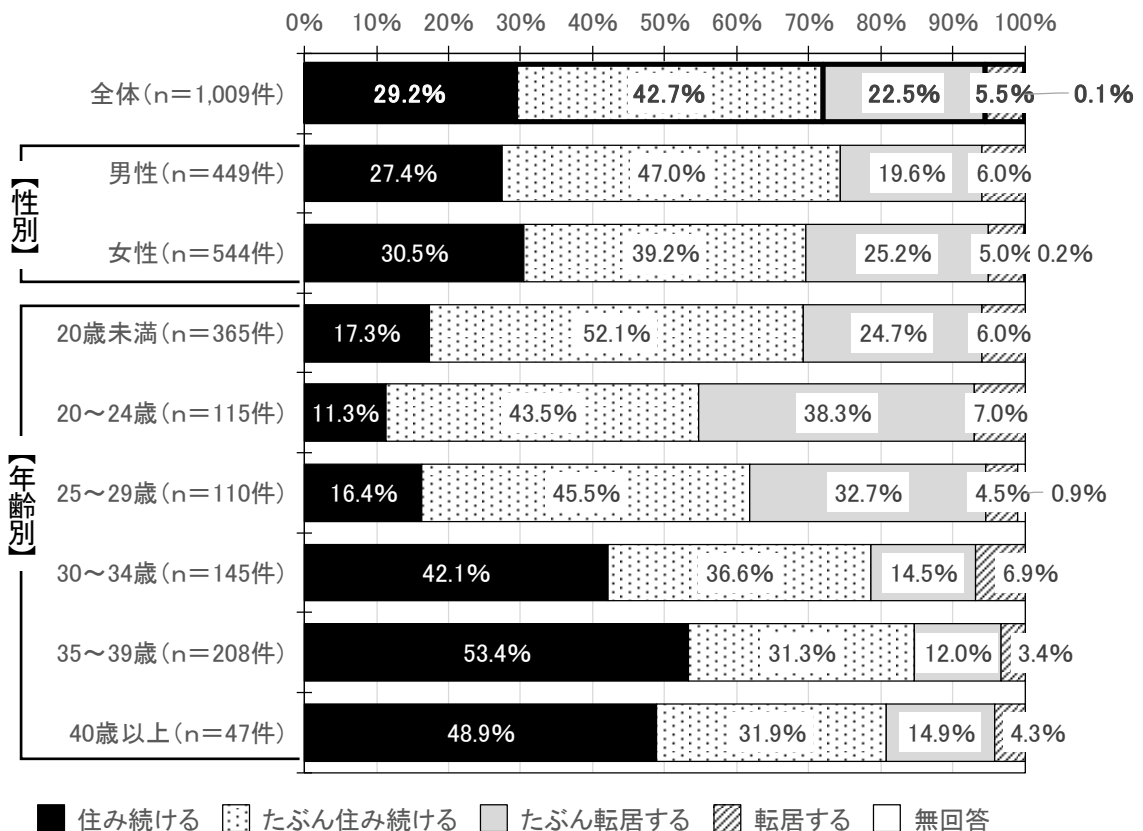
(1) 居住意向

問1 あなたは、これからもあま市に住み続ける予定ですか。(〇は1つだけ)



あま市への居住意向について、29.2%は「住み続ける」、42.7%は「たぶん住み続ける」としており、あわせると72.0%が居住意向を示しています。

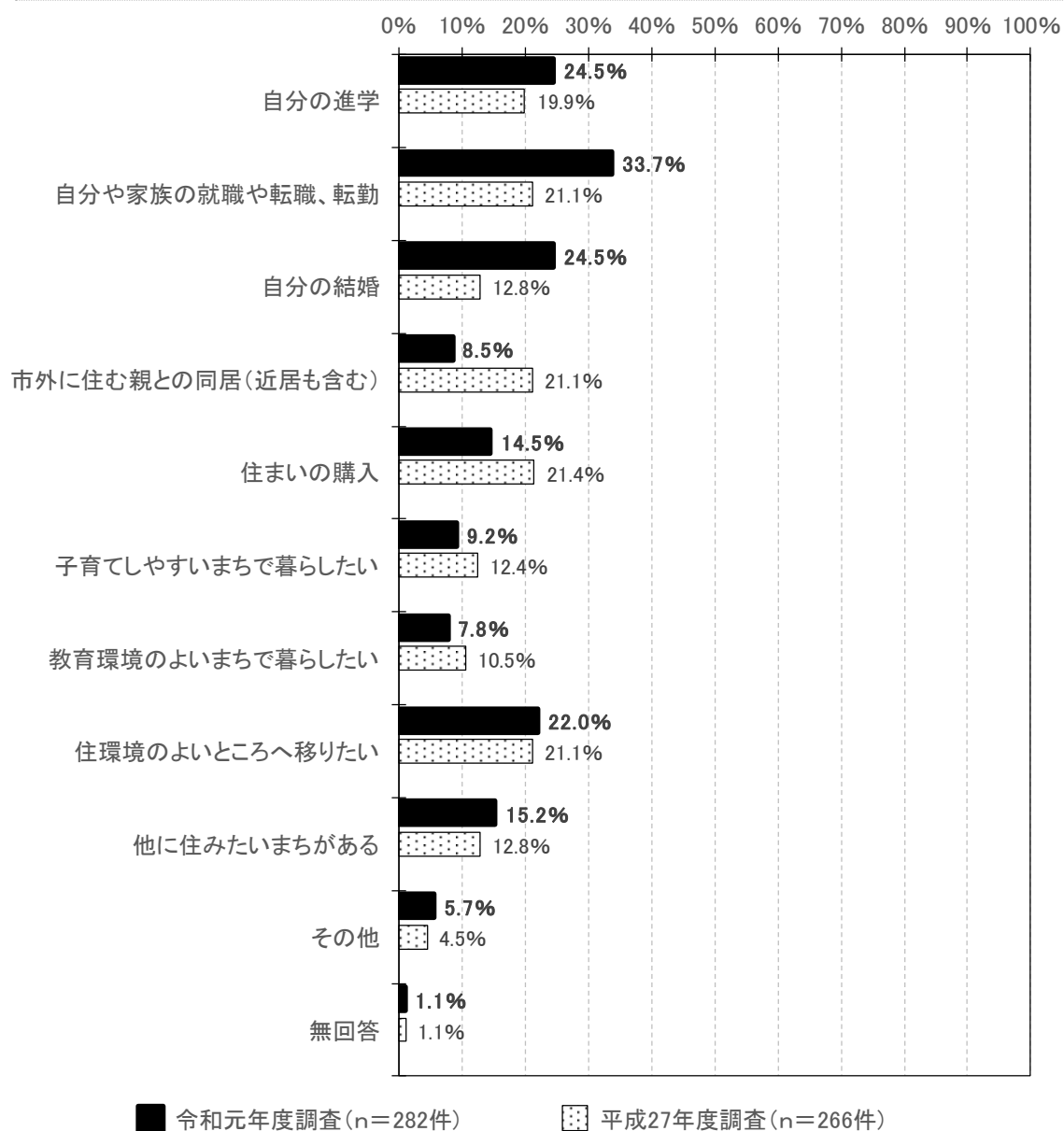
前回調査（平成27年度調査）と比べると、「住み続ける」という回答の割合はやや減少していますが、「住み続ける」と「たぶん住み続ける」をあわせた居住意向（前回：73.0%）に大きな変化はみられません。



性別にみると、“男性”（74.4%）よりも“女性”（69.7%）の方が居住意向が低く、年齢別にみると、“20～24歳”では居住意向が54.8%と他の年齢よりも低くなっています。一方、30歳以上では「住み続ける」という回答が4割を超え、居住意向も8割前後を占めています。

(2) 転居理由

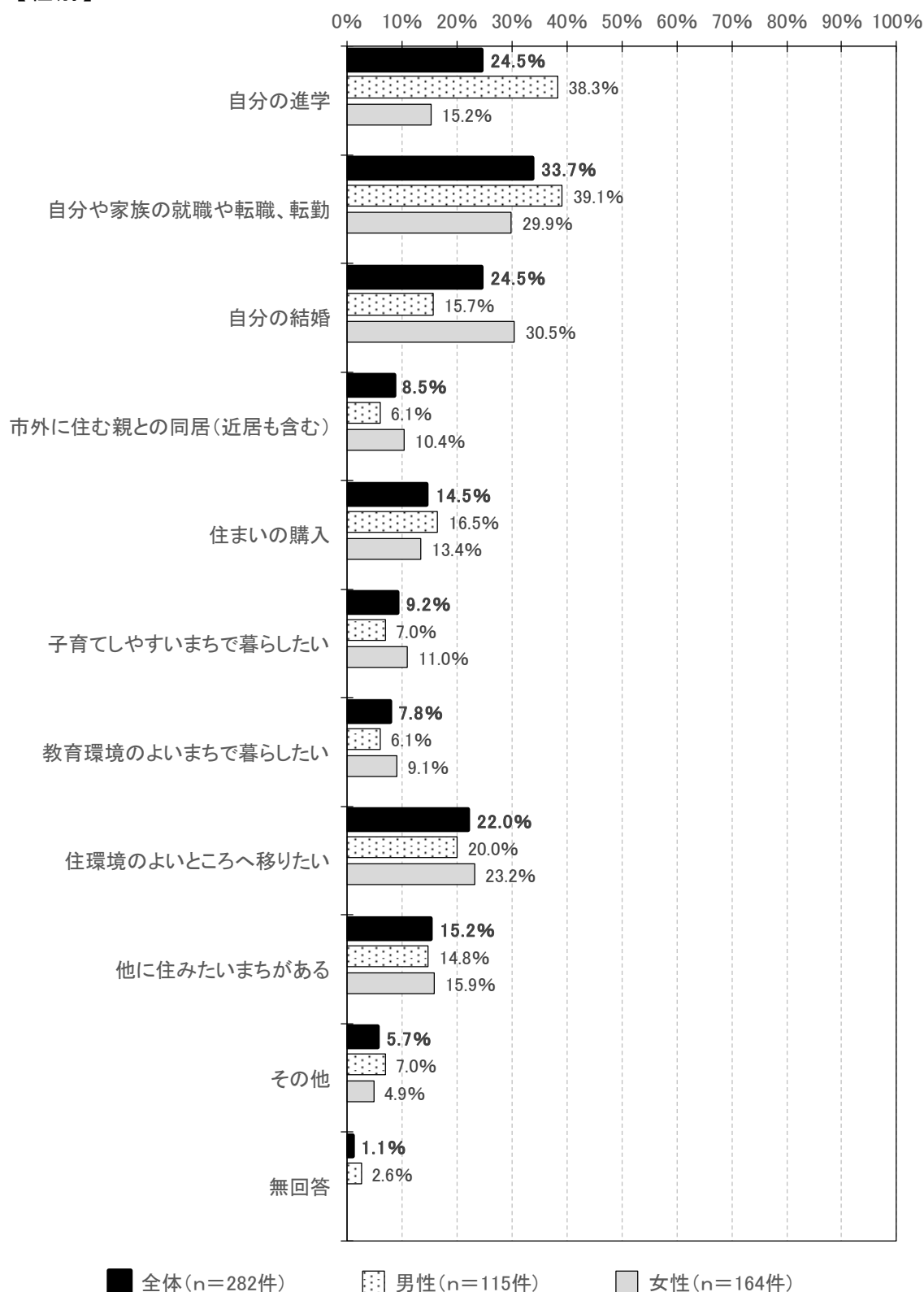
問 1-1 転居する理由は何ですか。(〇はいくつでも)



居住意向について「たぶん転居する」、「転居する」とした転居意向のある回答者に、転居の理由について聞くと、「自分や家族の就職や転職、転勤」(33.7%)への回答がもっとも多く、ついで「自分の進学」(24.5%)、「自分の結婚」(24.5%)、「住環境のよいところへ移りたい」(22.0%)などへの回答が多くなっています。

前回調査(平成27年度調査)でもっとも回答の多かった「住まいの購入」(前回:21.4%)への回答は14.5%と減少し、「市外に住む親との同居(近居も含む)」(前回:21.1%)についても8.5%に減少しています。一方、「自分や家族の就職や転職、転勤」と「自分の結婚」などについては前回調査よりも回答の割合が増加しています。

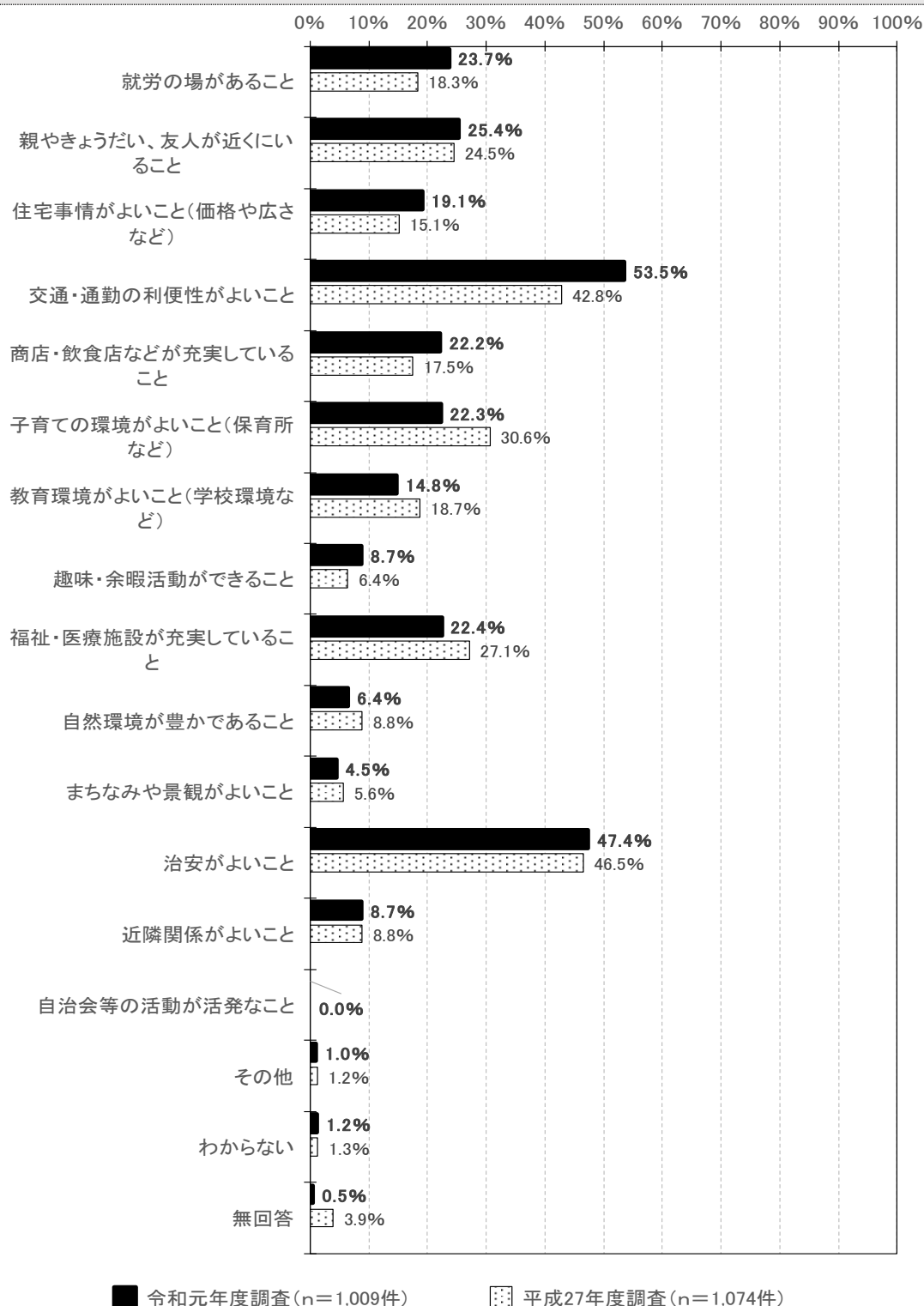
【性別】



性別にみると、「自分の進学」や「自分や家族の就職や転職、転勤」については“女性”よりも“男性”の方が回答の割合が高く、反対に「自分の結婚」については“女性”の方が回答の割合が高くなっています。

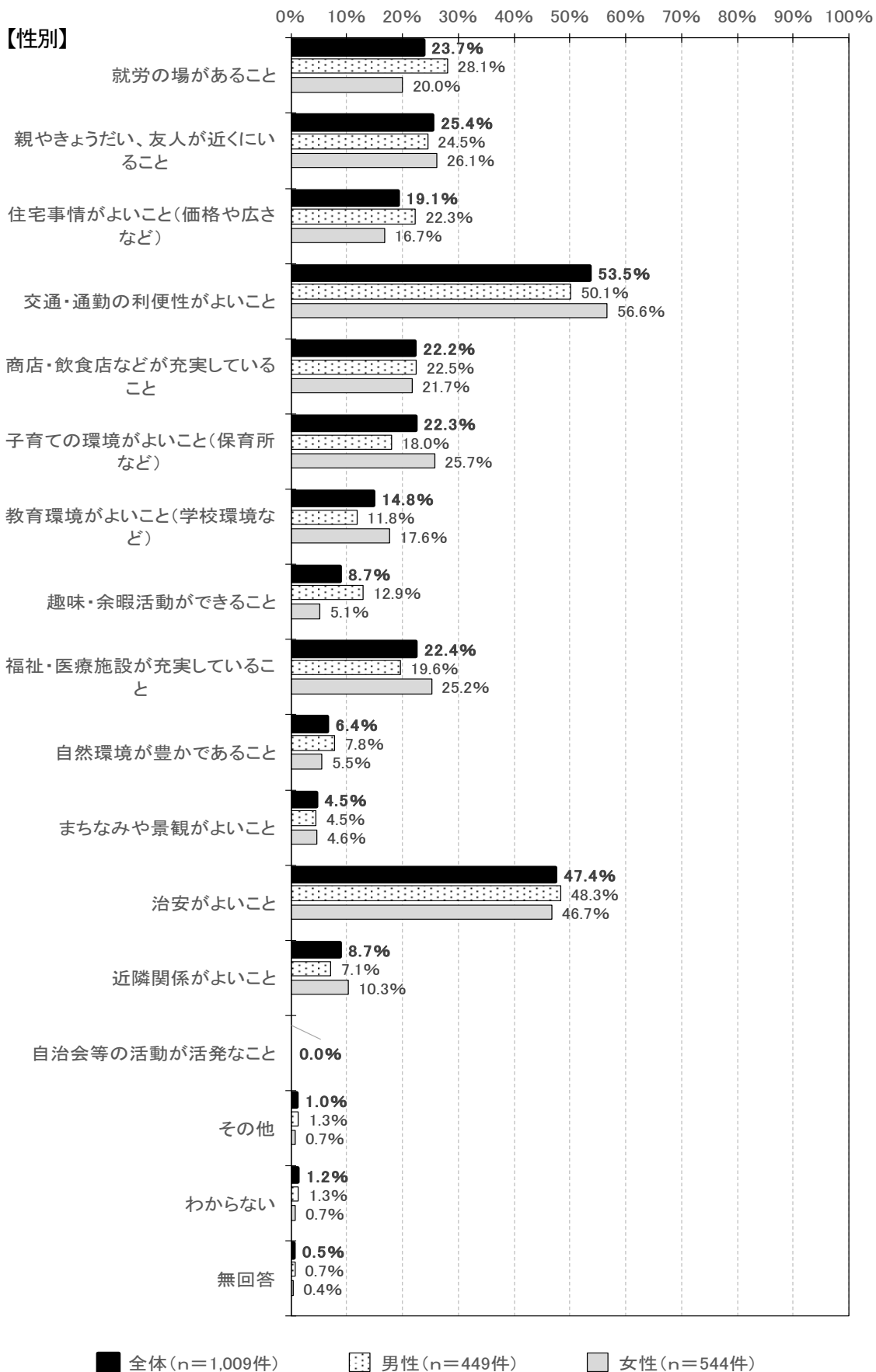
(3) 暮らしの場に求める条件

問2 ずっと暮らしていく場に求める条件は何ですか。(主なものを3つまでに○)



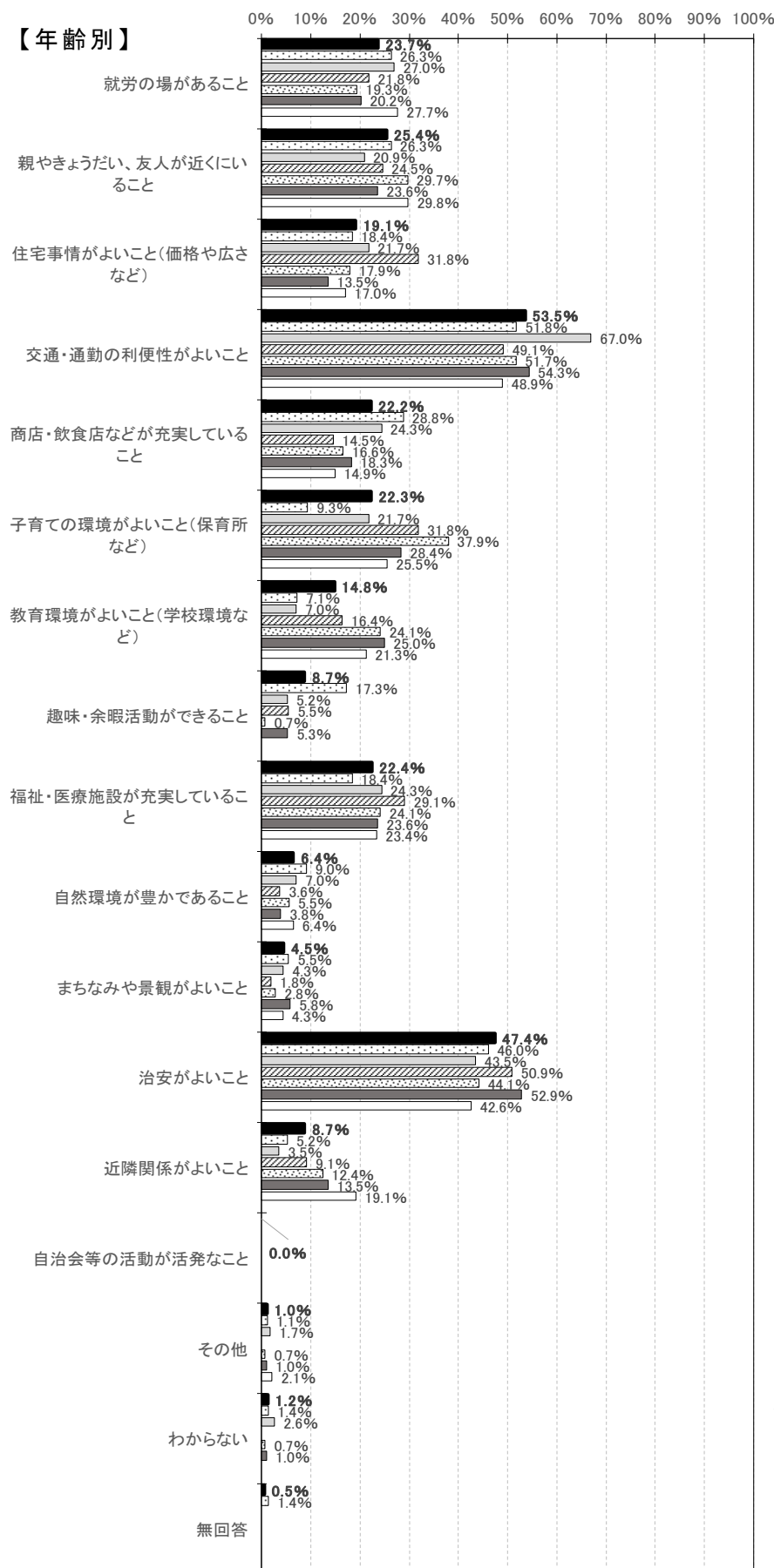
暮らしの場に求める条件としては、「交通・通勤の利便性がよいこと」への回答が半数以上を占め、「治安がよいこと」についても47.4%となっています。とくに「交通・通勤の利便性がよいこと」については、前回調査(平成27年度調査)の42.8%よりも回答の割合が高くなっています。

一方、「子育ての環境がよいこと(保育所など)」などについては前回調査よりも回答の割合が低くなっています。



性別にみても、男女ともに「交通・通勤の利便性がよいこと」と「治安がよいこと」への回答が半数前後を占めてもっとも多くなっています。

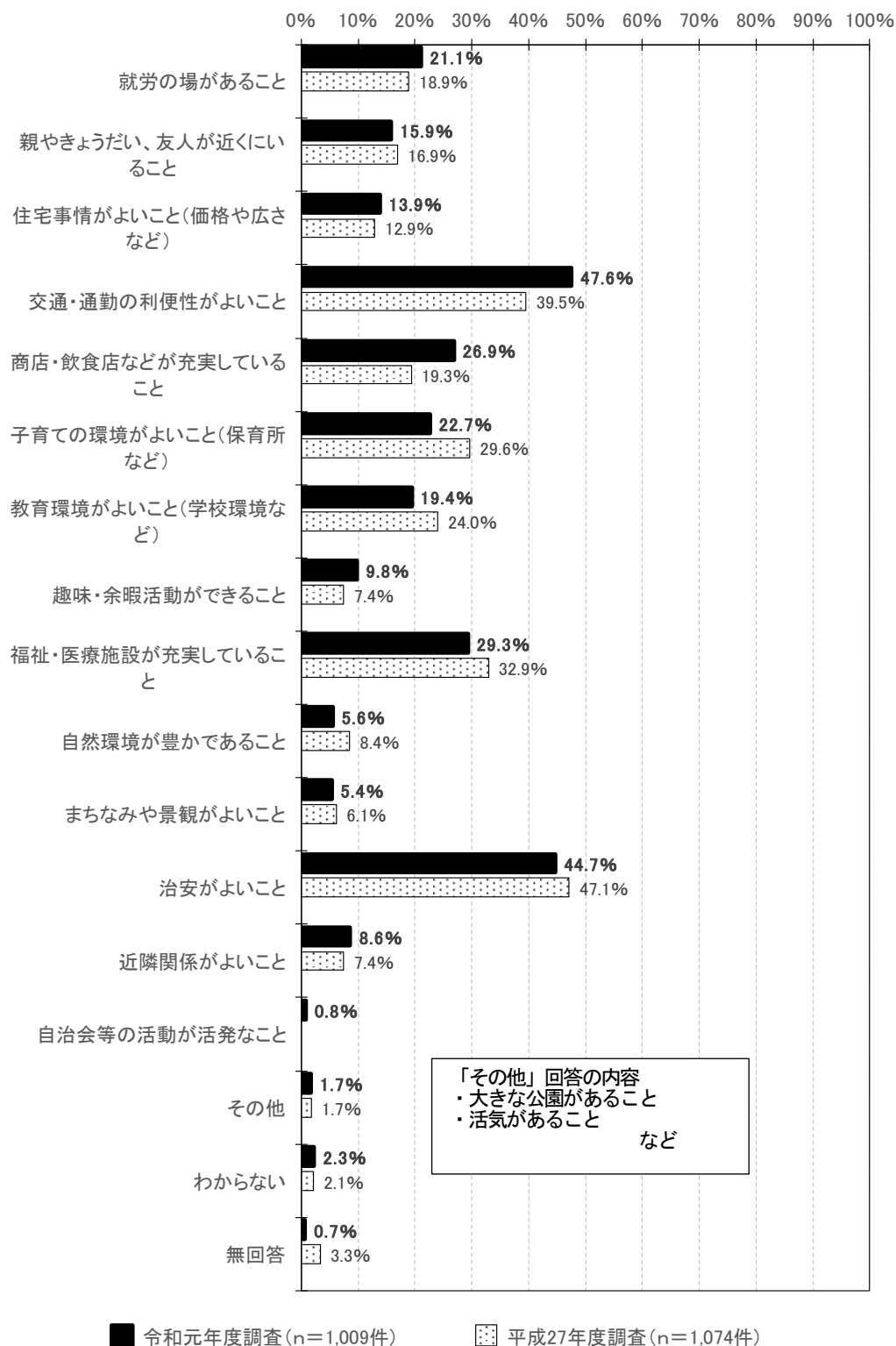
【年齢別】



年齢別にみても、すべての年齢層で「交通・通勤の利便性がよいこと」と「治安がよいこと」への回答が多く、とくに“20～24 歳”では67.0%が「交通・通勤の利便性がよいこと」をあげています。

(4) あま市に住み続けるための条件

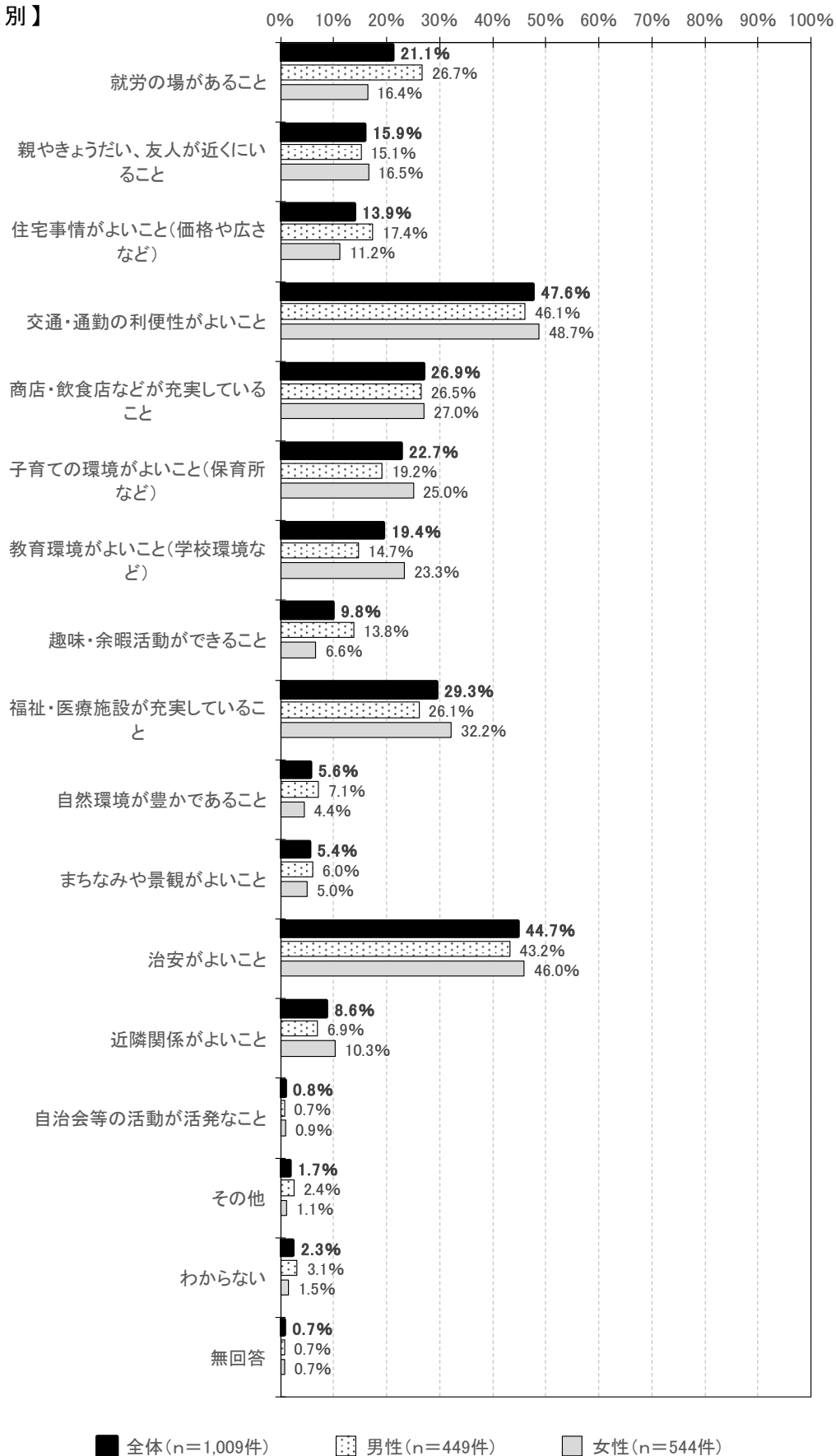
問3 今後あま市に住み続けるために必要な条件は何ですか。(主なものを3つまでに○)



住み続けるため条件としては、「交通・通勤の利便性がよいこと」(47.6%)と「治安がよいこと」(44.7%)への回答が4割を超えて多くなっています。

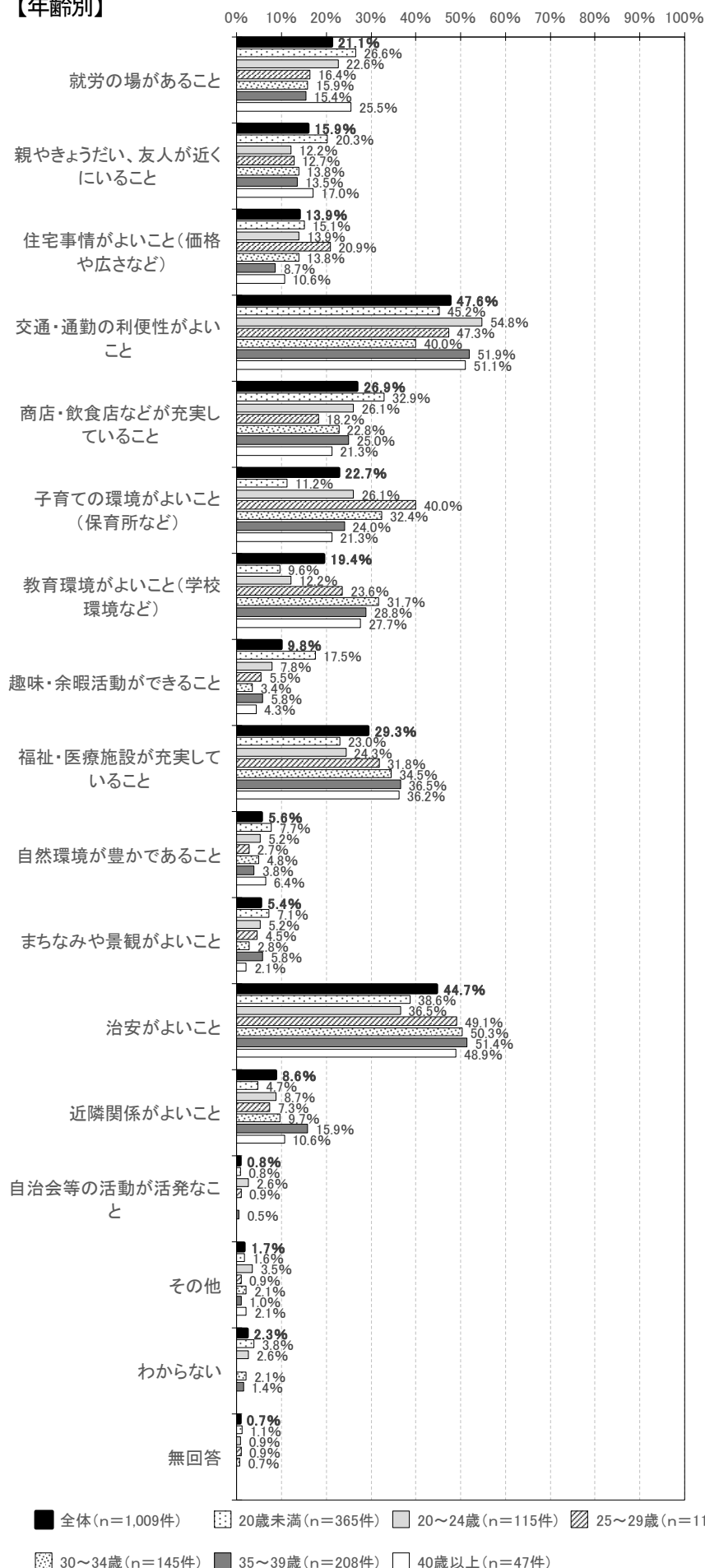
前回調査(平成27年度調査)においても「交通・通勤の利便性がよいこと」と「治安がよいこと」への回答が多く、おおむね前回と同様の回答結果となっています。

【性別】



性別にみても、男女ともに「交通・通勤の利便性がよいこと」と「治安がよいこと」への回答が4割以上を占めてもっとも多くなっています。

【年齢別】



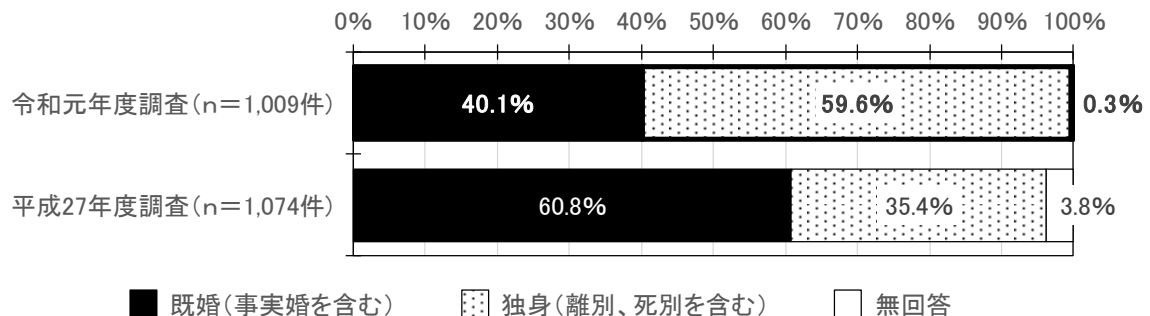
年齢別にみても、すべての年齢層で「交通・通勤の利便性がよいこと」と「治安がよいこと」への回答が多くなっています。

その他に“20歳未満”では「商店・飲食店などが充実していること」(32.9%)への回答が3割を超え、“25～29歳”では「子育ての環境がよいこと(保育所など)」への回答が40.0%となっています。また25歳以上では「福祉・医療施設が充実していること」への回答が3割を超えています。

3. 結婚について

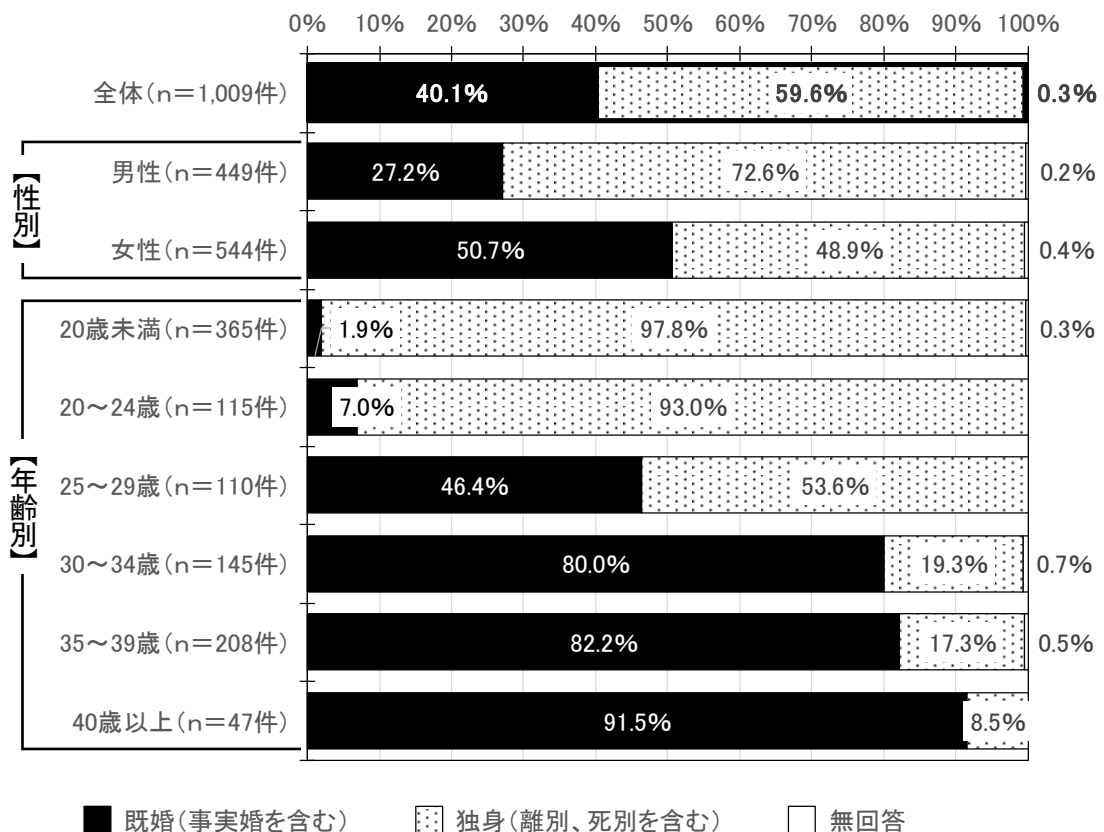
(1) 結婚の状況

問4 あなたは、次のうちどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)



回答者の結婚の状況をみると、40.1%が「既婚（事実婚を含む）」、59.6%が「独身（離別、死別を含む）」と、独身者が多くなっています。

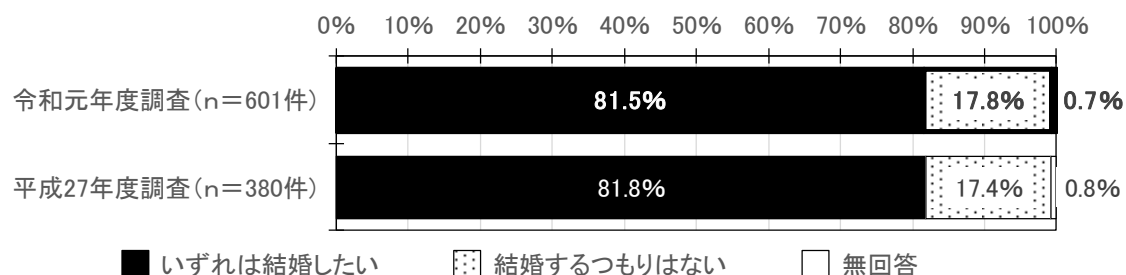
前回調査（平成27年度調査）では、既婚者が6割を占めており、前回よりも回答者は独身者が多くなっています。



性別にみると、“女性”の50.7%は「既婚（事実婚を含む）」で、年齢別にみると、25歳未満では「独身（離別、死別を含む）」が9割以上を占めていますが、30歳以上では8割以上が「既婚（事実婚を含む）」となっています。

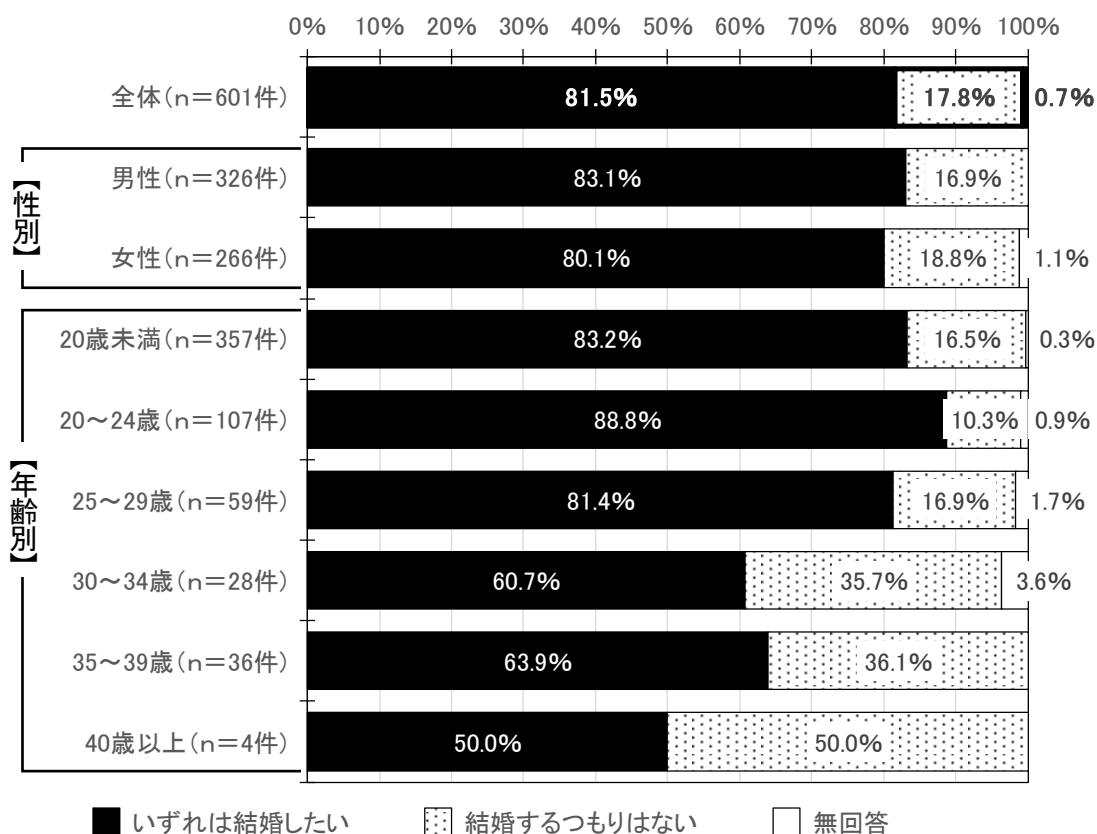
(2) 結婚の意向

問 4-1 将来、結婚したいですか。(○は1つだけ)



現在独身の回答者に対して将来の結婚について聞くと、81.5%が「いずれは結婚したい」としています。

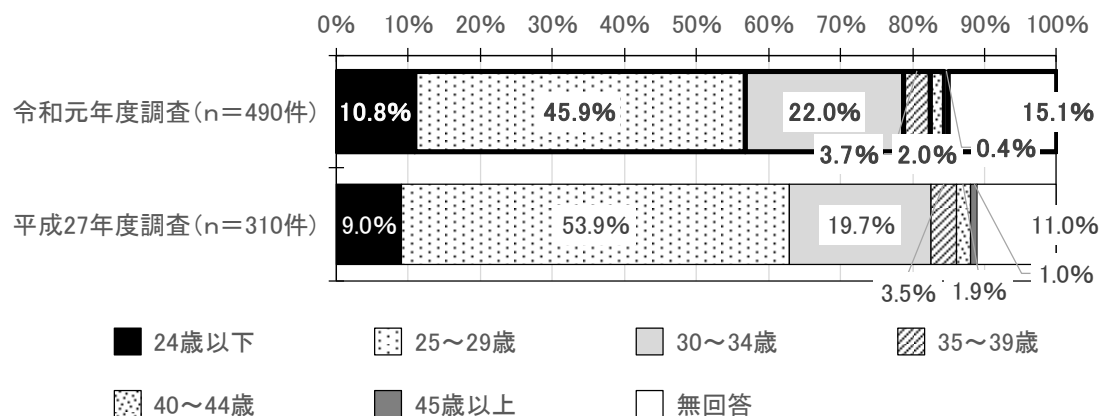
前回調査（平成 27 年度調査）でも、81.8%が「いずれは結婚したい」としており、将来の結婚の意向に大きな変化はみられません。



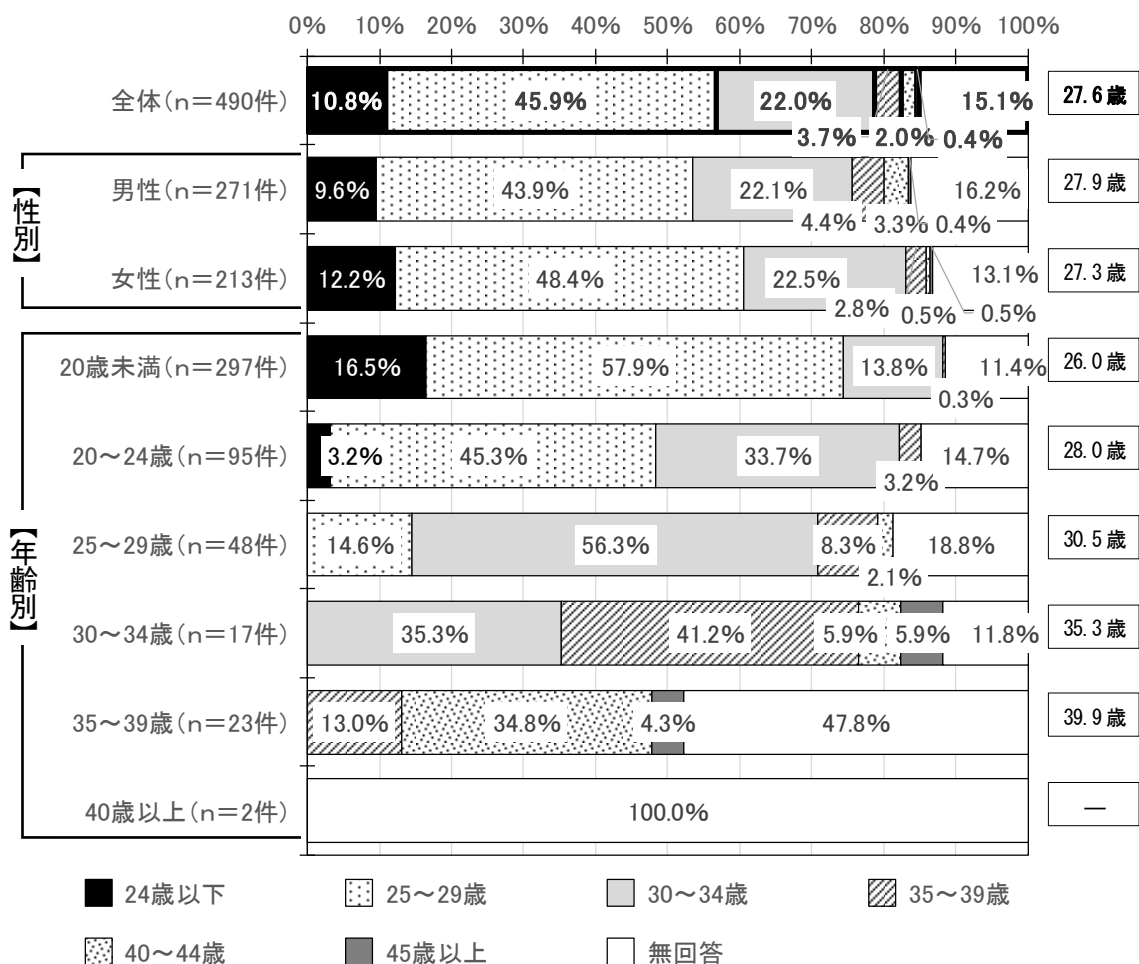
性別にみても、男女とも8割以上が「いずれは結婚したい」としており、男女間の結婚の意向に大きな差はみられません。

年齢別にみると、30歳未満では「いずれは結婚したい」との回答が8割を超えていますが、30代では6割台、40歳以上では50.0%と年齢が上がる则結婚の意向が低下しています。

(付問) 問4-1 結婚したい年齢



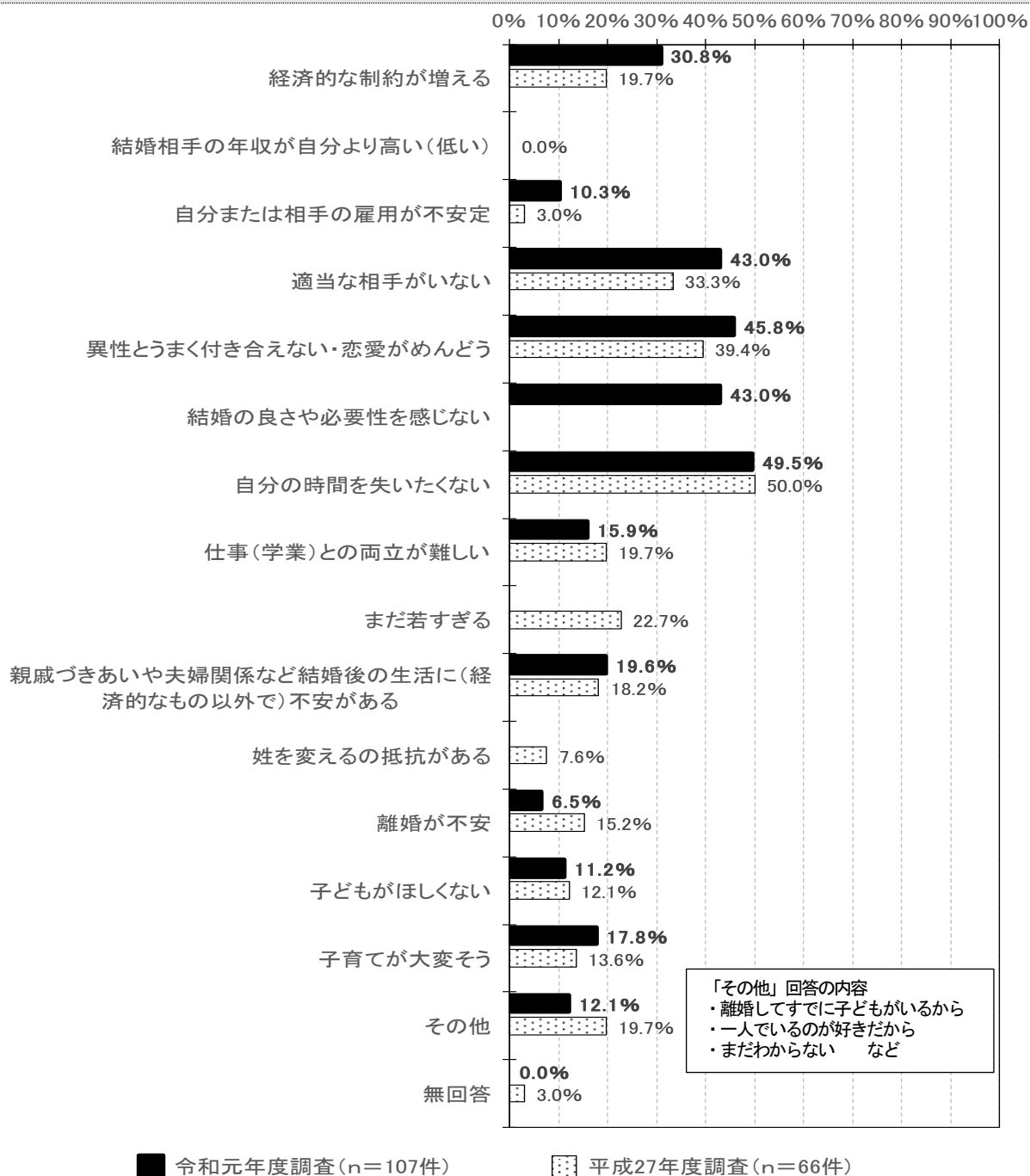
現在独身でいずれ結婚したいとした回答者に対して、結婚希望年齢について聞くと、「25～29歳」が45.9%でもっとも多く、平均で27.6歳となっています。



性別にみても、男女とも「25～29歳」が多くなっていますが、年齢別にみると、“20歳未満”では平均で26.0歳であるのに対して、“35～39歳”では39.9歳と、年齢が上がるにつれて結婚希望年齢は上昇し、現在の年齢との差も小さくなってきています。

(3) 結婚したくない理由

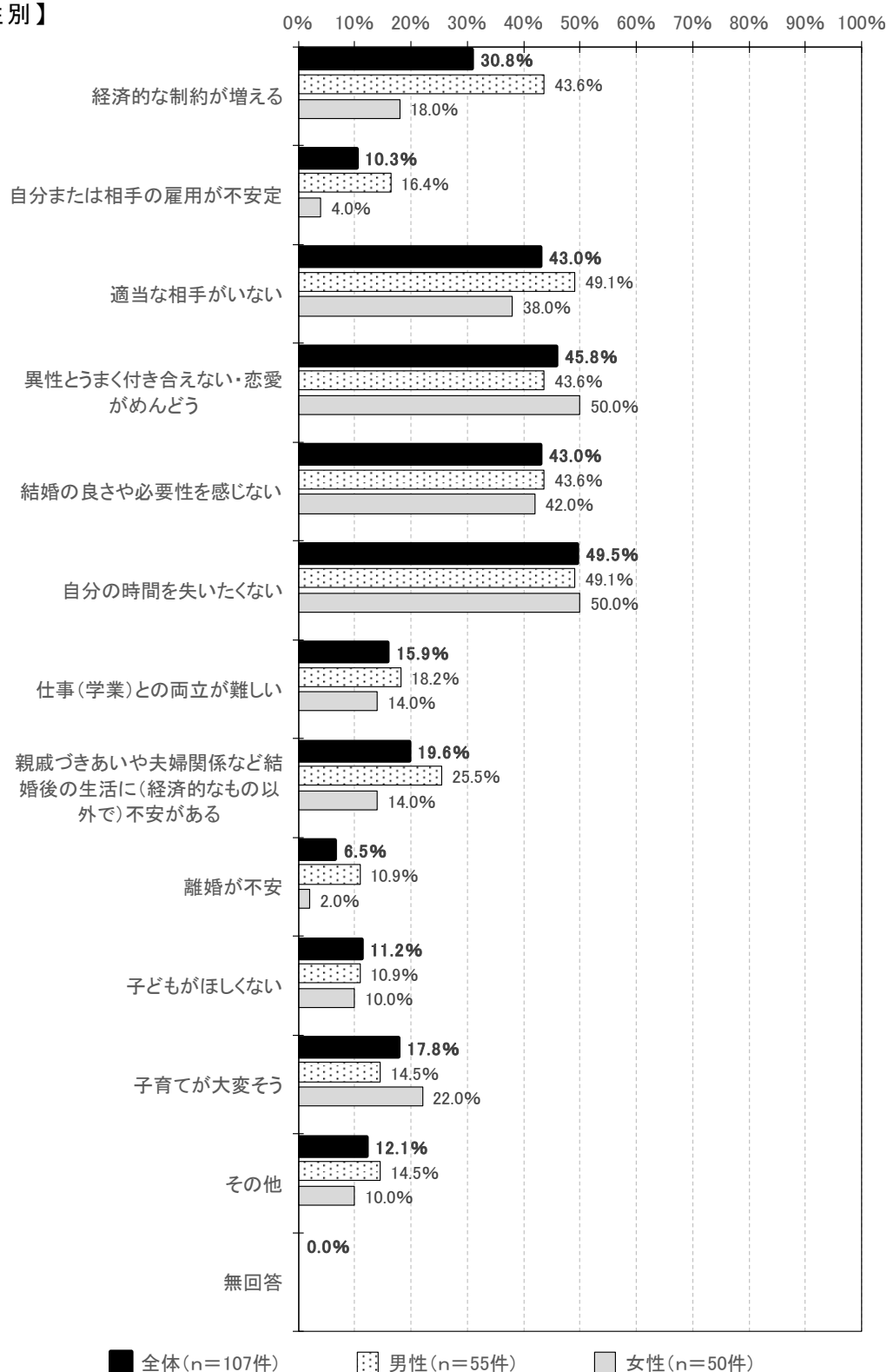
問4-2 結婚したくない理由は何ですか。(〇はいくつでも)



現在独身で将来も結婚するつもりはないとする回答者に対して、結婚したくない理由について聞くと、「自分の時間を失いたくない」(49.5%)、「異性とうまく付き合えない・恋愛がめんどろ」(45.8%)、「適当な相手がいない」(43.0%)、「結婚の良さや必要性を感じない」(43.0%)への回答が多くなっています。

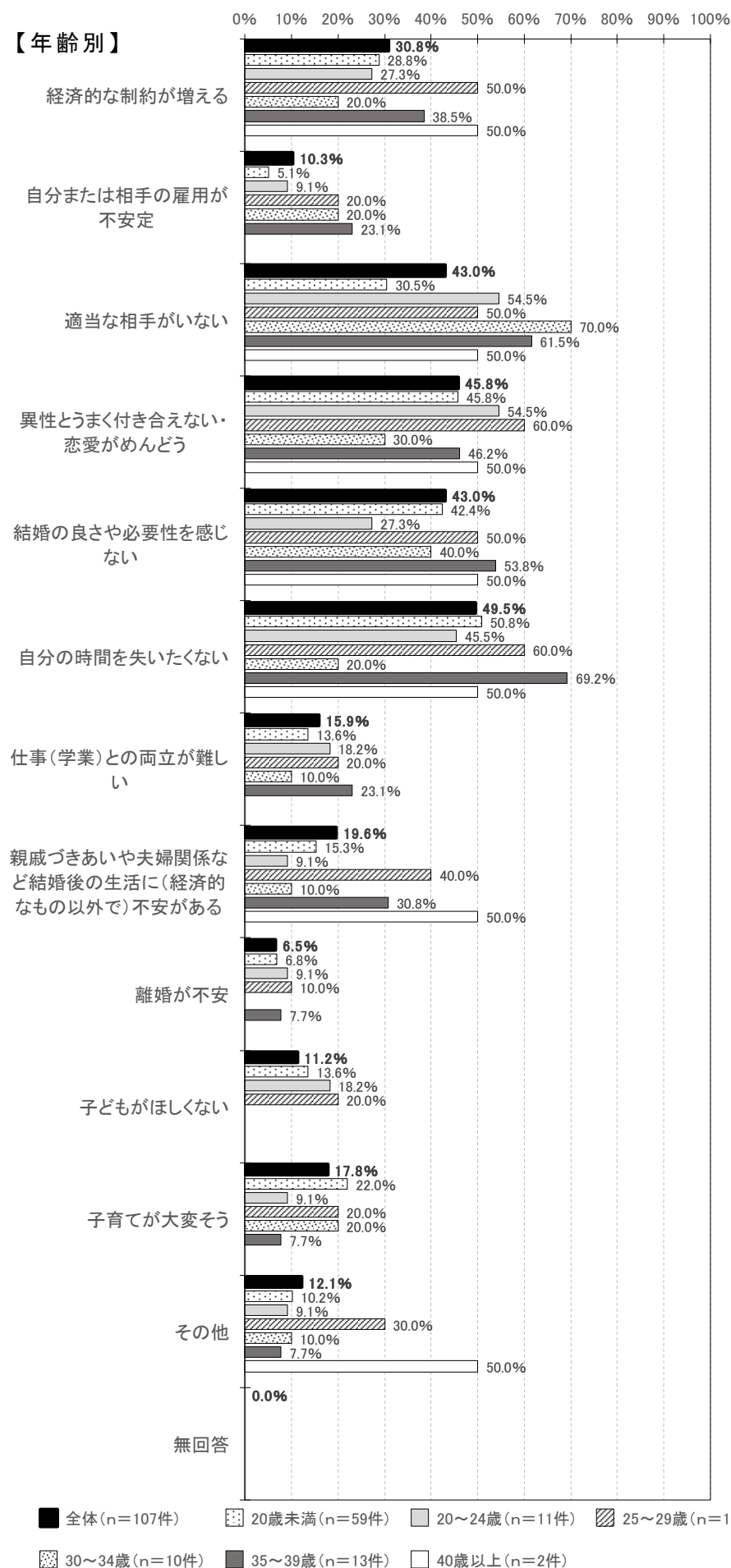
前回調査(平成27年度調査)とは選択肢が変更されているものの、前回も「自分の時間を失いたくない」、「異性とうまく付き合えない・恋愛がめんどろ」「適当な相手がいない」への回答が多く、回答傾向に大きな変化はみられません。

【性別】



性別にみても、男女ともに「自分の時間を失いたくない」、「異性とうまく付き合えない・恋愛がめんどろ」、「適当な相手がいない」、「結婚の良さや必要性を感じない」への回答が多くなっていますが、“男性”ではその他に「経済的な制約が増える」への回答が43.6%と4割を超えています。

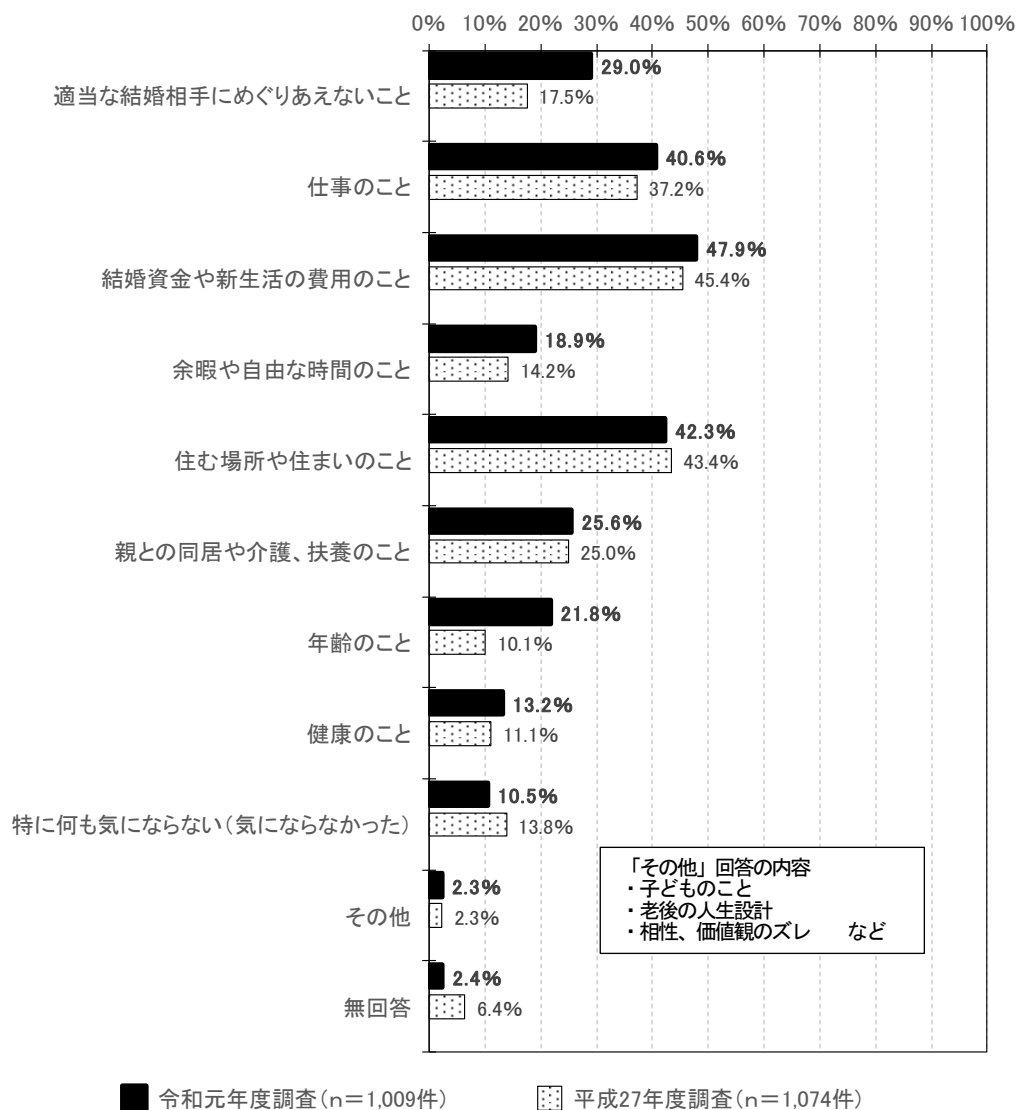
【年齢別】



年齢別にみると、30代では「適当な相手がいない」への回答が6割以上と多く、20代では「異性とうまく付き合えない・恋愛がめんどろ」への回答が他の年齢よりもやや多くなっています。

(4) 結婚を考える時に気になること

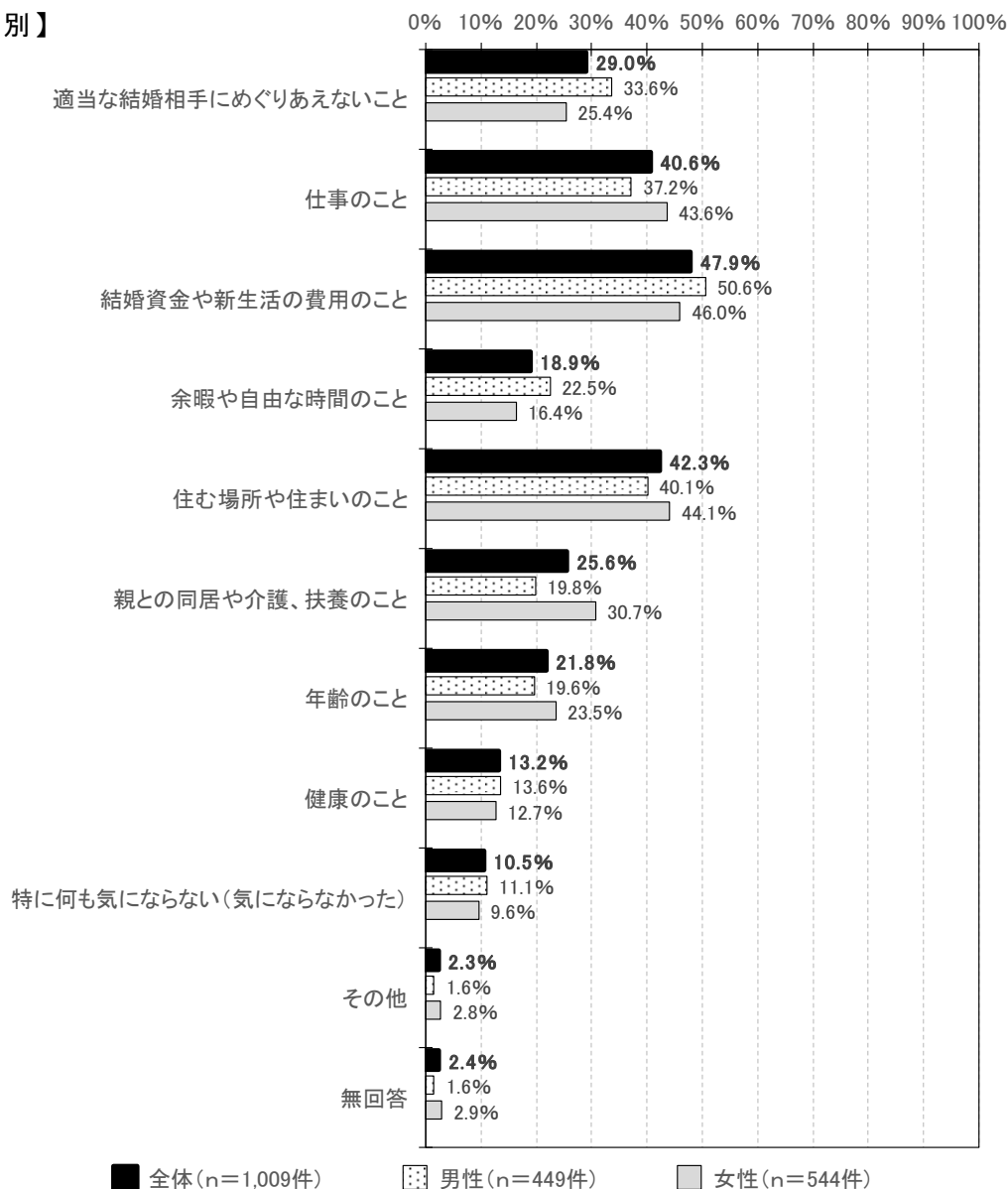
問5 結婚を考える時、どのようなことが気になりますか（気になりましたか）。
（○はいくつでも）



結婚を考える際に気になることとしては、「結婚資金や新生活の費用のこと」（47.9%）、「住む場所や住まいのこと」（42.3%）、「仕事のこと」（40.6%）への回答がいずれも4割を超え、多くなっています。

前回調査（平成27年度調査）においても、「結婚資金や新生活の費用のこと」、「住む場所や住まいのこと」、「仕事のこと」への回答が多く、今回も前回と同様の傾向となっていますが、「適当な結婚相手にめぐりあえないこと」や「年齢のこと」などについては前回よりも回答の割合が高くなっています。

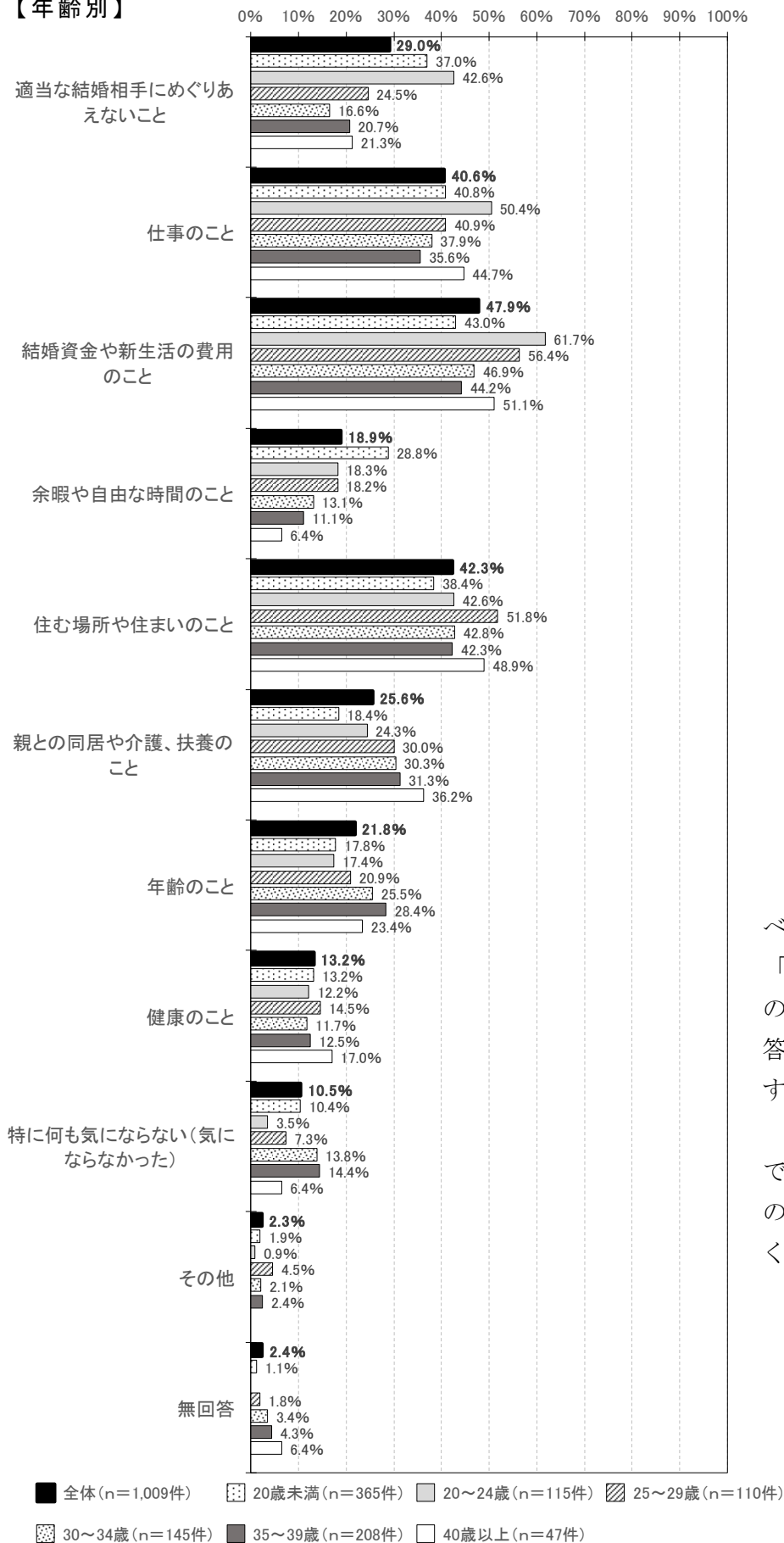
【性別】



性別にみても、男女ともに「結婚資金や新生活の費用のこと」、「住む場所や住まいのこと」、「仕事のこと」への回答が多くなっています。

その他に“男性”では「適当な結婚相手にめぐりあえないこと」への回答の割合が“女性”よりも高く、“女性”では「親との同居や介護、扶養のこと」への回答の割合が“男性”よりも高くなっています。

【年齢別】



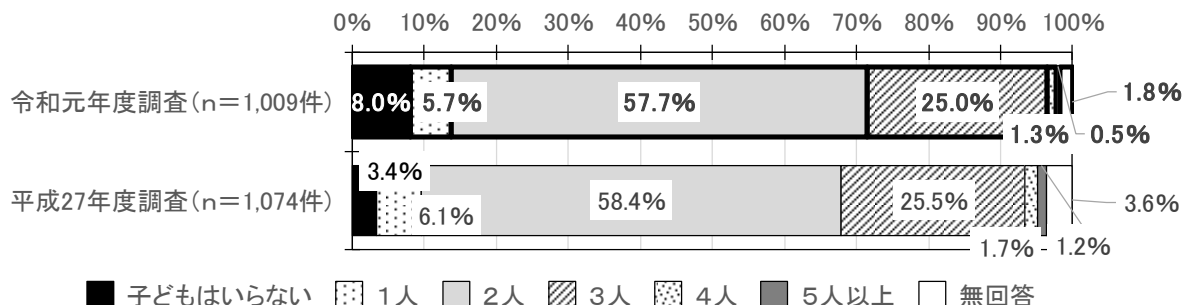
年齢別にみても、すべての年齢において「結婚資金や新生活の費用のこと」への回答は多くなっています。

25歳以上では、ついで「住む場所や住まいのこと」への回答が多くなっています。

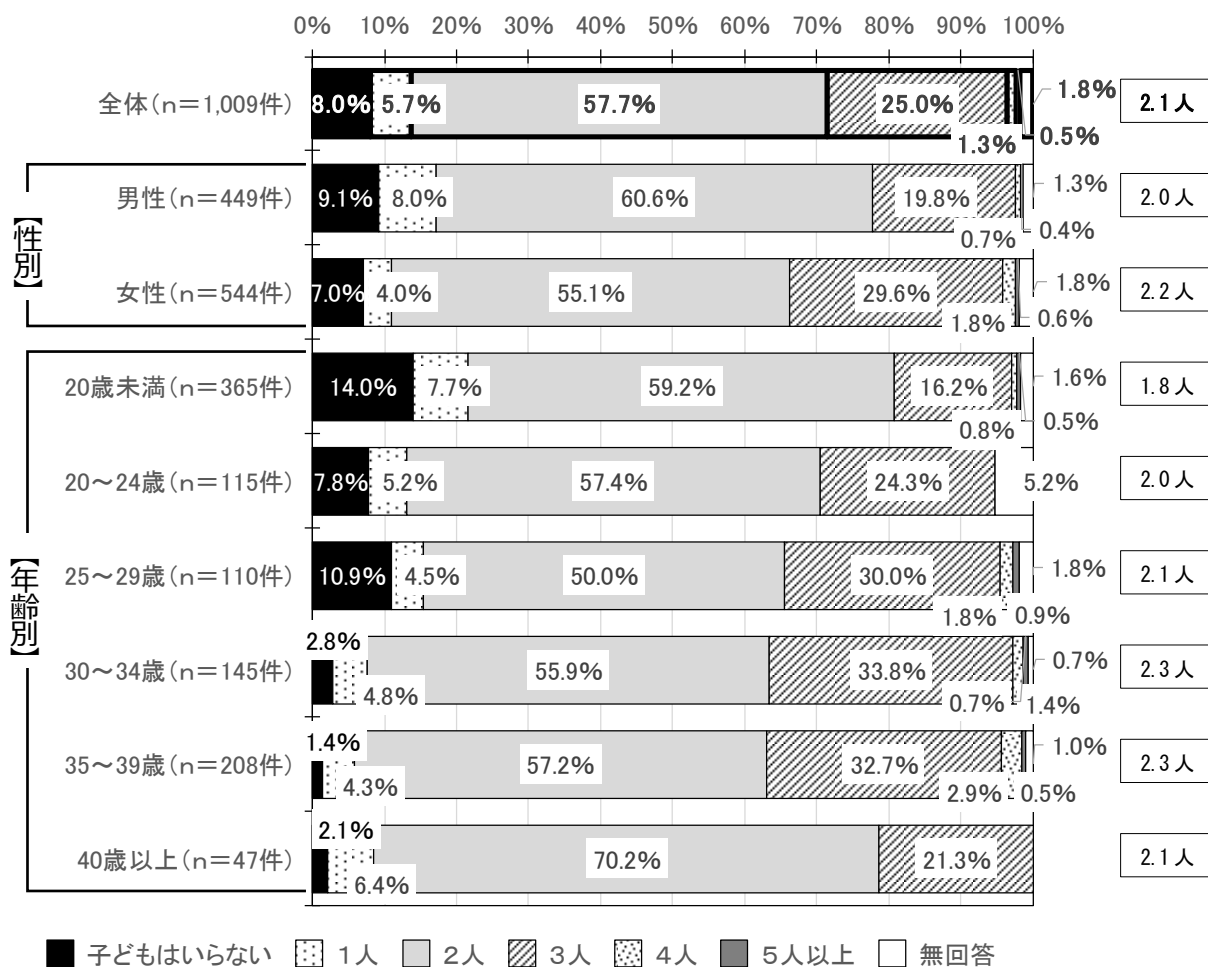
4. 子どもについて

(1) 理想的な子どもの人数

問6 あなたの理想的な子どもの人数は何人ですか。



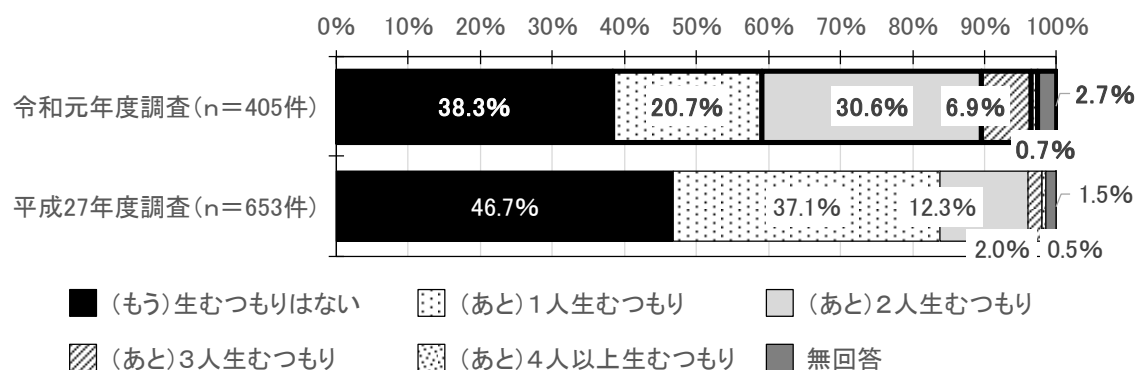
理想的な子どもの人数については、「2人」が57.7%でもっとも多く、平均で2.1人となっています。



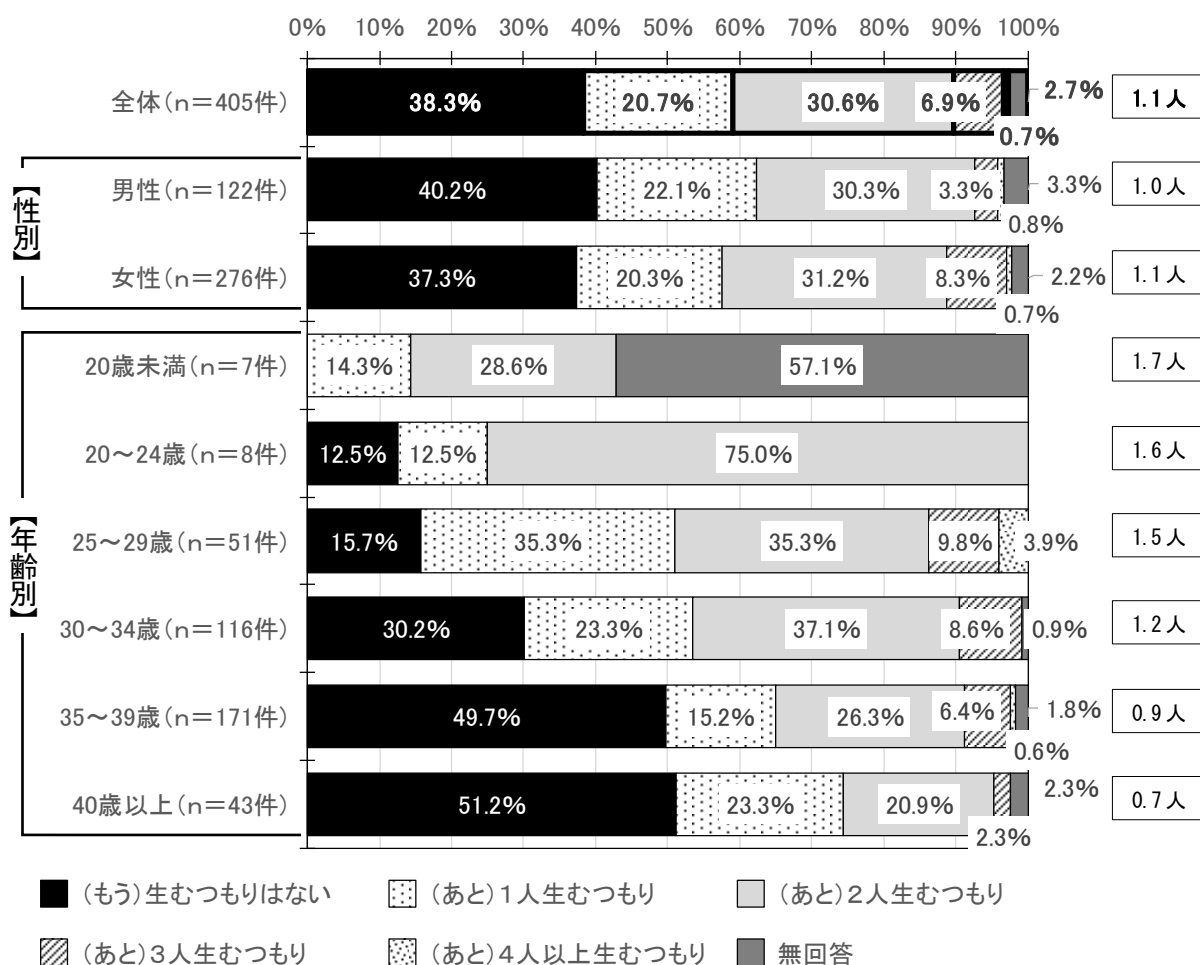
性別、年齢別にみても、「2人」が多くなっていますが、“20歳未満”では平均1.8人、“20～24歳”では2.0人なのに対して、“30～34歳”と“35～39歳”では2.3人と、若い世代の方が希望する子どもの人数は少なくなっています。

(2) 今後希望する子どもの人数

問7 今後お子さんの予定はどのようにお考えですか（現在妊娠中のお子さんも含めて）。



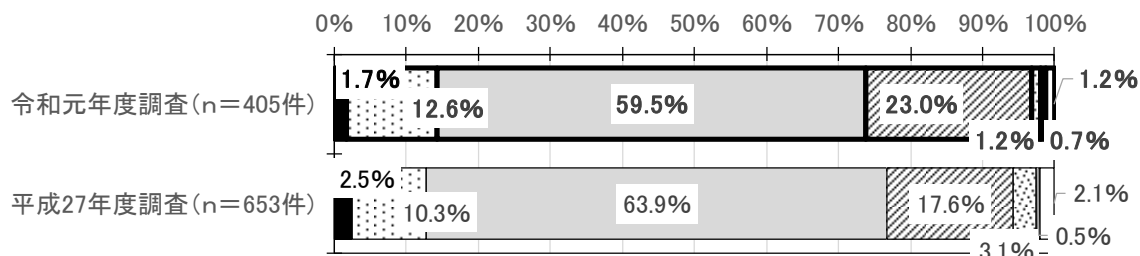
既婚の回答者に今後の子どもの予定について聞くと、平均であと1.1人となっていますが、「(もう)生むつもりはない」という回答も38.3%となっています。



性別にみると、「男性」よりも「女性」の方が今後希望する子どもの人数はやや多く、年齢別にみると、「20歳未満」では平均1.7人なのに対して、「40歳以上」では0.7人と、年齢が上がるほど今後希望する子どもの人数は少なくなっています。

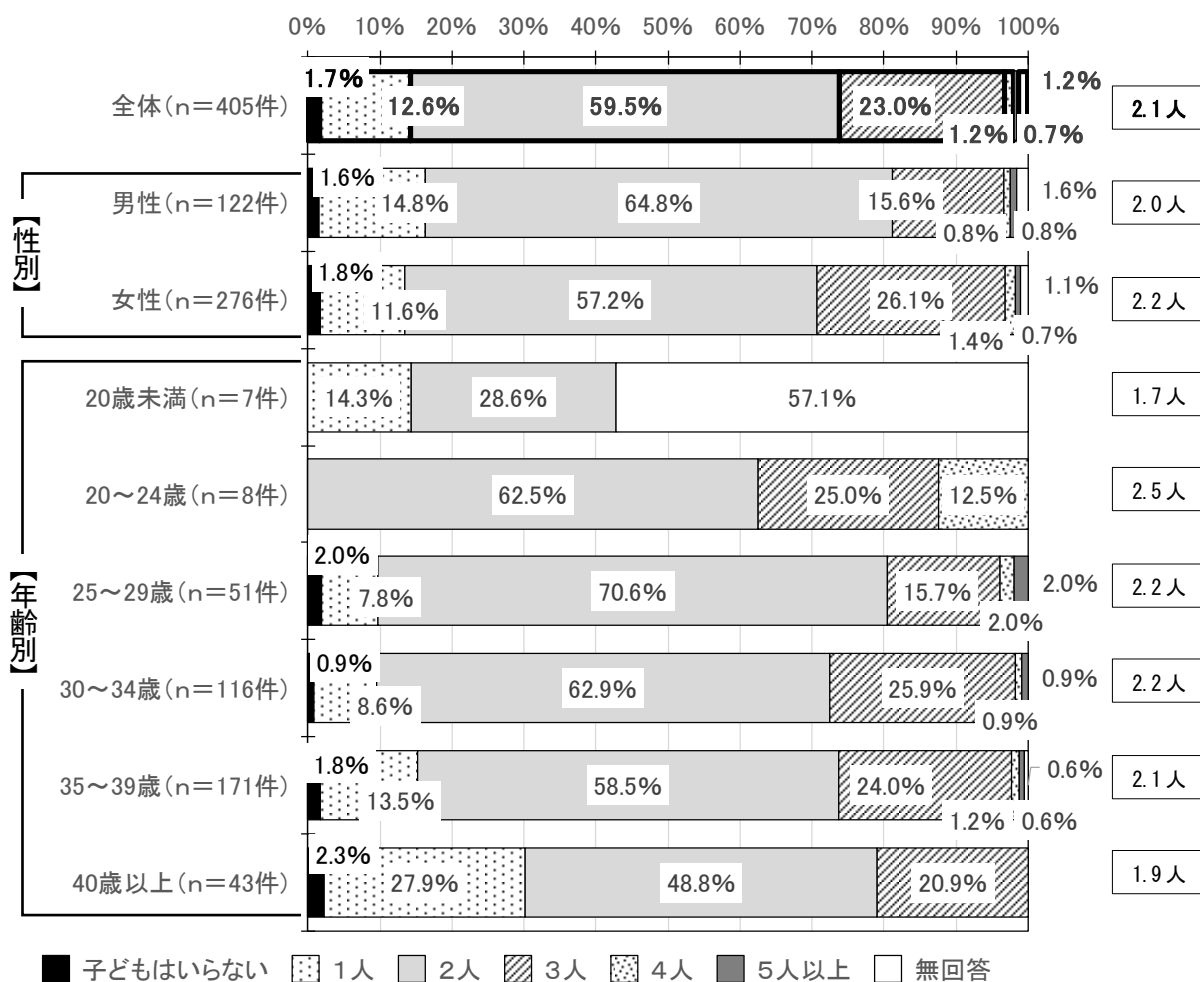
(3) 子どもの人数の見込み

問8 実際には、あなた方ご夫婦は全部で何人のお子さんを見込んでいますか（現在のお子さんの人数と問7で回答した人数をあわせて）。



■ 子どもはいらない □ 1人 □ 2人 □ 3人 □ 4人 ■ 5人以上 □ 無回答

既婚の回答者に見込みの子どもの数について聞くと、平均で2.1人となっています。

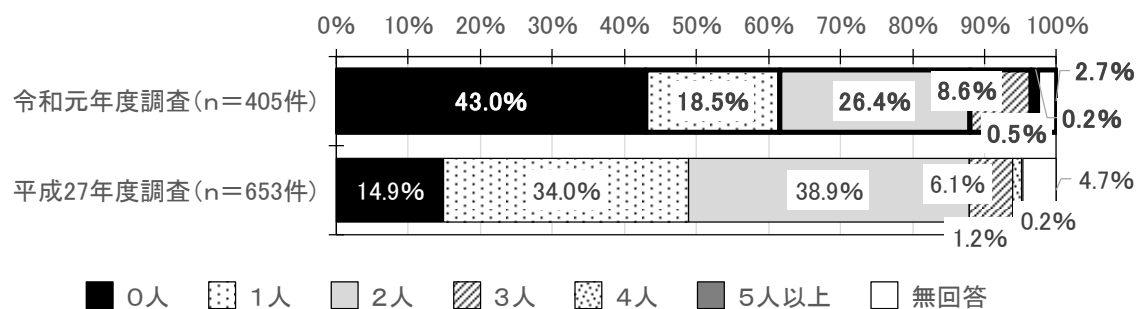


■ 子どもはいらない □ 1人 □ 2人 □ 3人 □ 4人 ■ 5人以上 □ 無回答

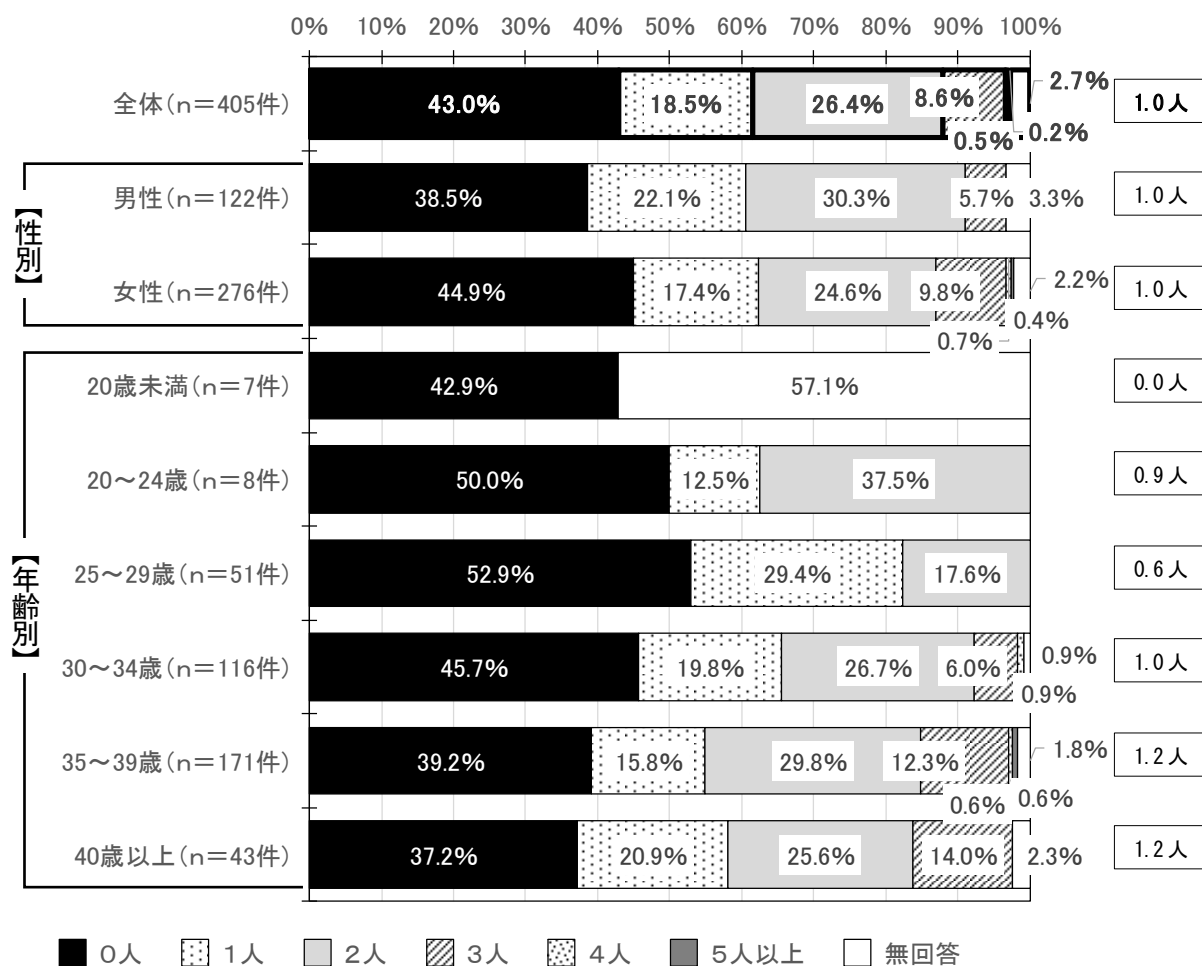
性別にみると、“男性”よりも“女性”の方が見込みの子ども的人数はやや多く、年齢別にみると、“20歳未満”では平均1.7人となっているものの、“20～24歳”では2.5人なのに対して、“40歳以上”では1.9人と、おおむね年齢が上がるほど子ども的人数の見込みは少なくなっています。

(4) 現在の子どもの人数

※問8と問7の回答の差により算出



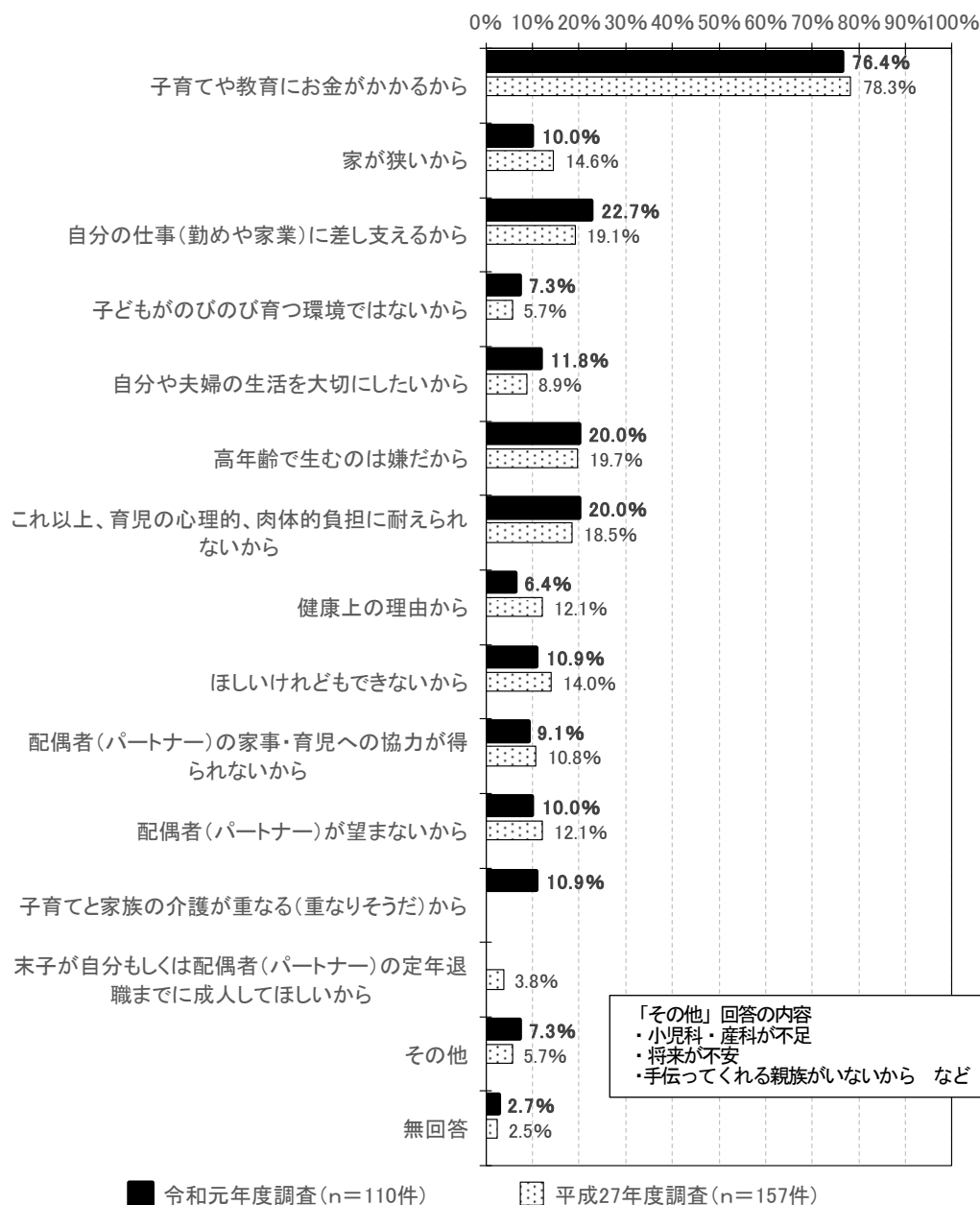
理想とする子どもの人数と今後希望する子どもの人数から、既婚の回答者の現在の子どもの人数をみると、「0人」が43.0%と4割を占め、平均で1.0人となっています。



性別にみると、“男性”よりも“女性”の方が「0人」の割合がやや高く、年齢別にみると、20代では「0人」が半数を超え、30代以上では平均で1.0～1.2人となっています。

(5) 理想よりも少なく子どもを見込んでいる理由

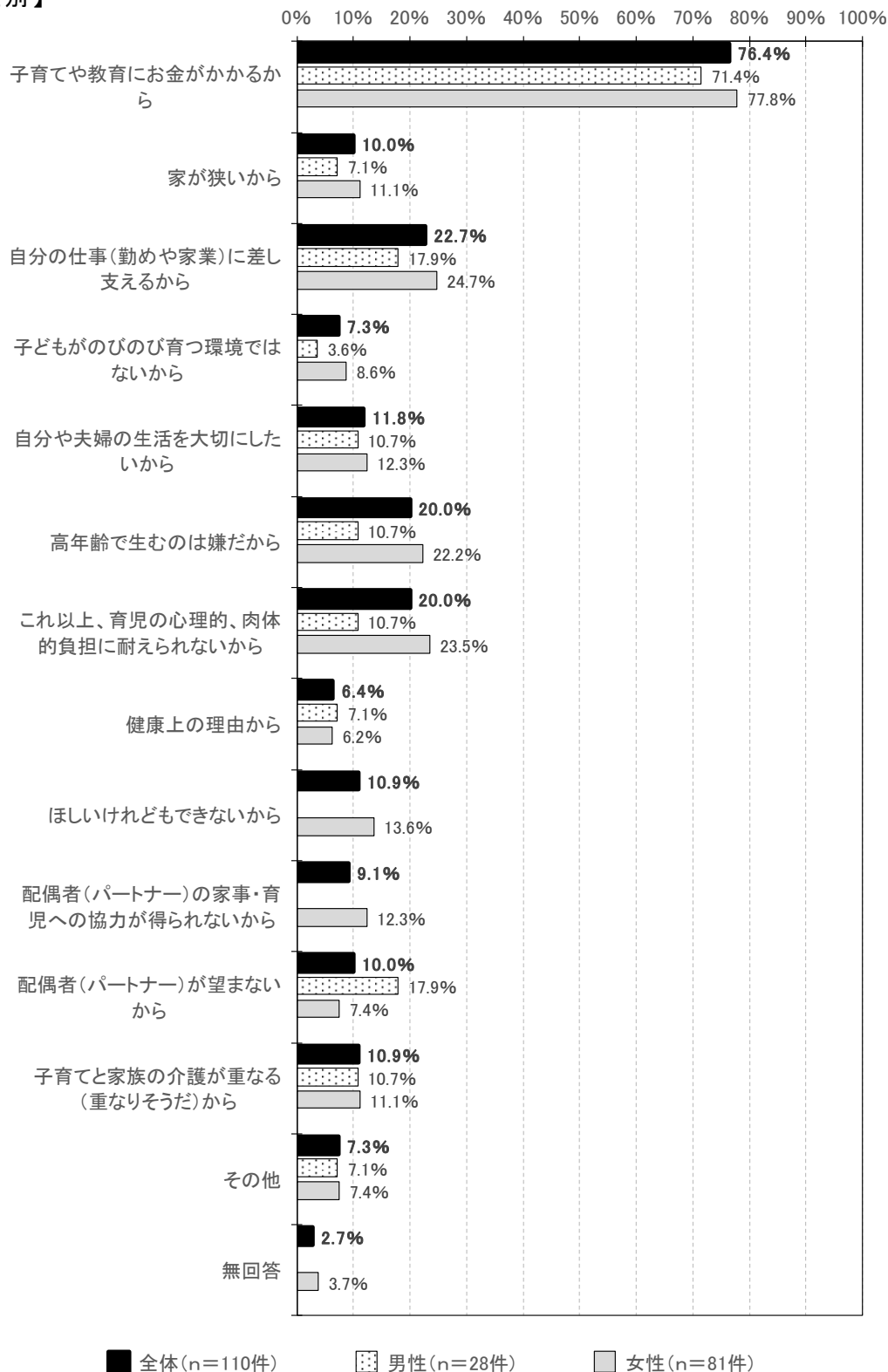
問9 お子さんの見込みの数が、理想の人数よりも少ない理由は何ですか。(〇はいくつでも)



理想ほど子どもの人数を見込めないという回答者にその理由について聞くと、「子育てや教育にお金がかかるから」が76.4%でもっとも多くなっています。

前回調査(平成27年度調査)においても、「子育てや教育にお金がかかるから」への回答が78.3%でもっとも多く、回答の傾向に大きな変化はみられません。

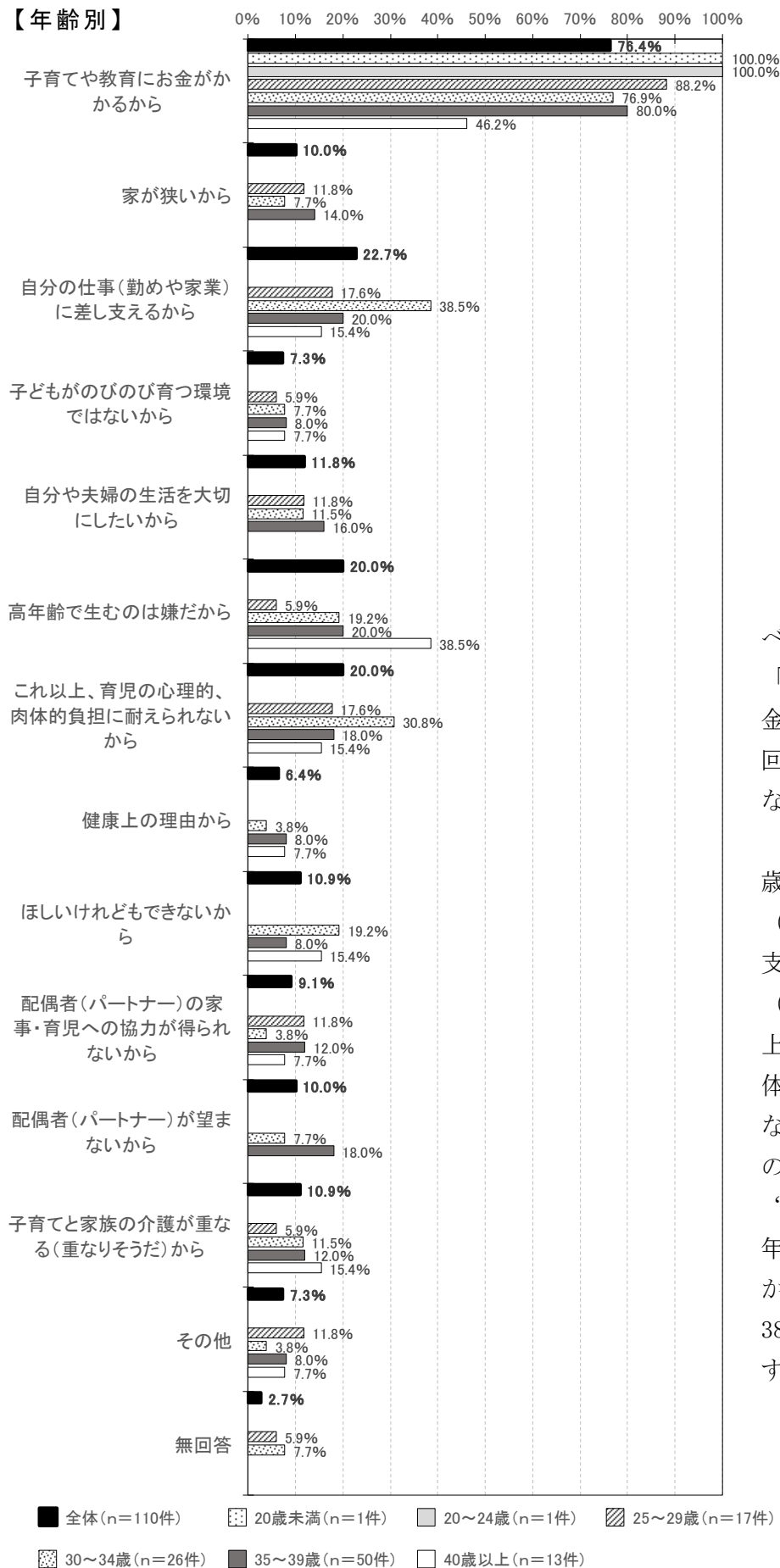
【性別】



性別にみても、男女ともに「子育てや教育にお金がかかるから」への回答がもっとも多くなっています。

その他に“女性”では「ほしいけれどもできないから」、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」、「配偶者（パートナー）の家事・育児への協力が得られないから」、「高年齢で生むのは嫌だから」などへの回答の割合が“男性”よりも高くなっています。

【年齢別】

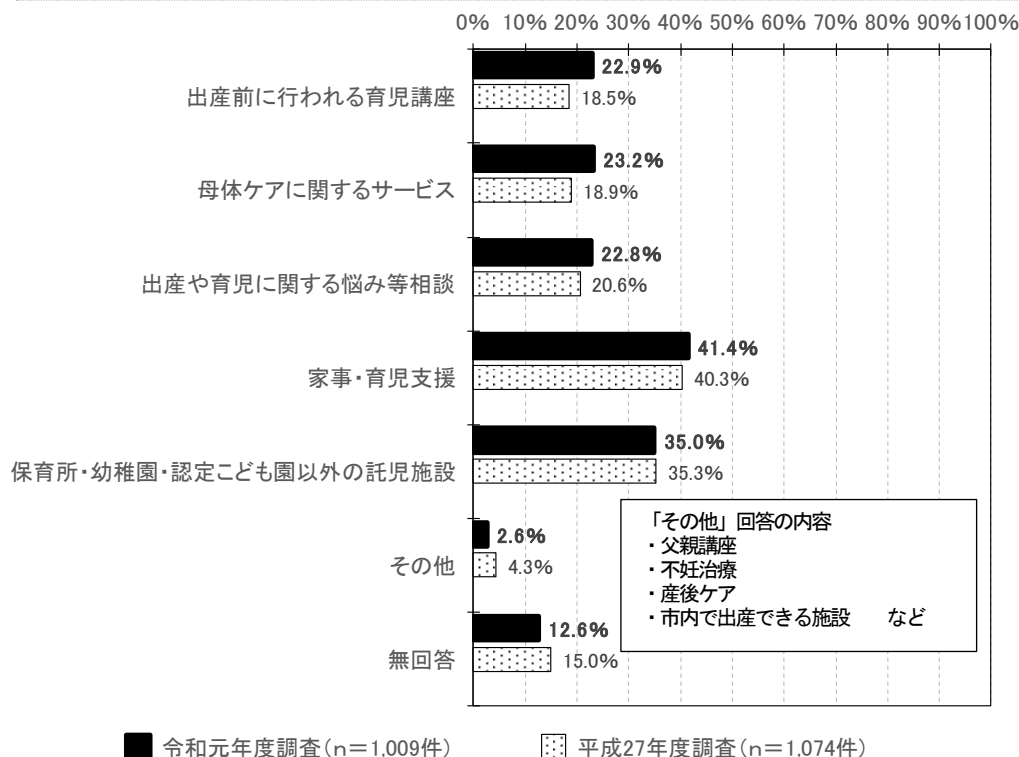


年齢別にみても、すべての年齢において「子育てや教育にお金がかかるから」への回答がもっとも多くなっています。

その他に“30～34歳”では「自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから」(38.5%)、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」(30.8%)への回答が3割を超え、“40歳以上”では「高年齢で生むのは嫌だから」への回答が38.5%となっています。

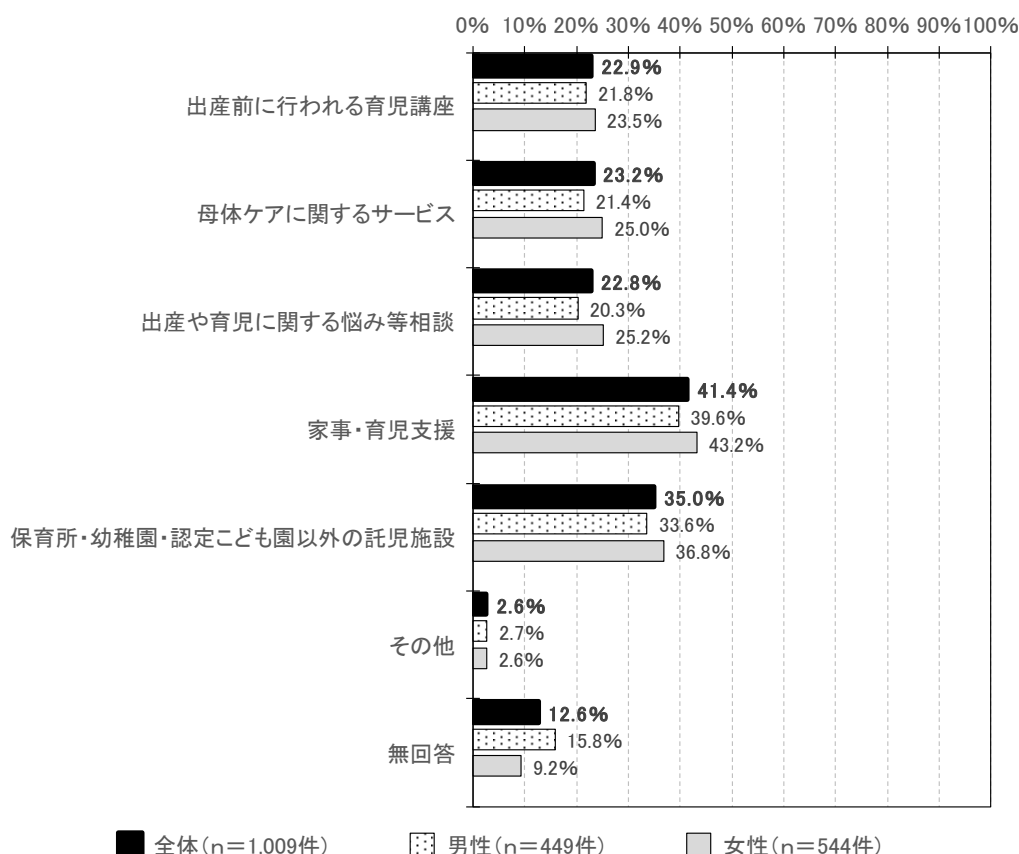
（６）妊娠、出産、育児において利用したいサービス

問 10 妊娠、出産、育児において、利用してみたい（利用してみたかった）、あるいはあればいい（あったらよかった）と思うサービスは何ですか。（○は2つまで）



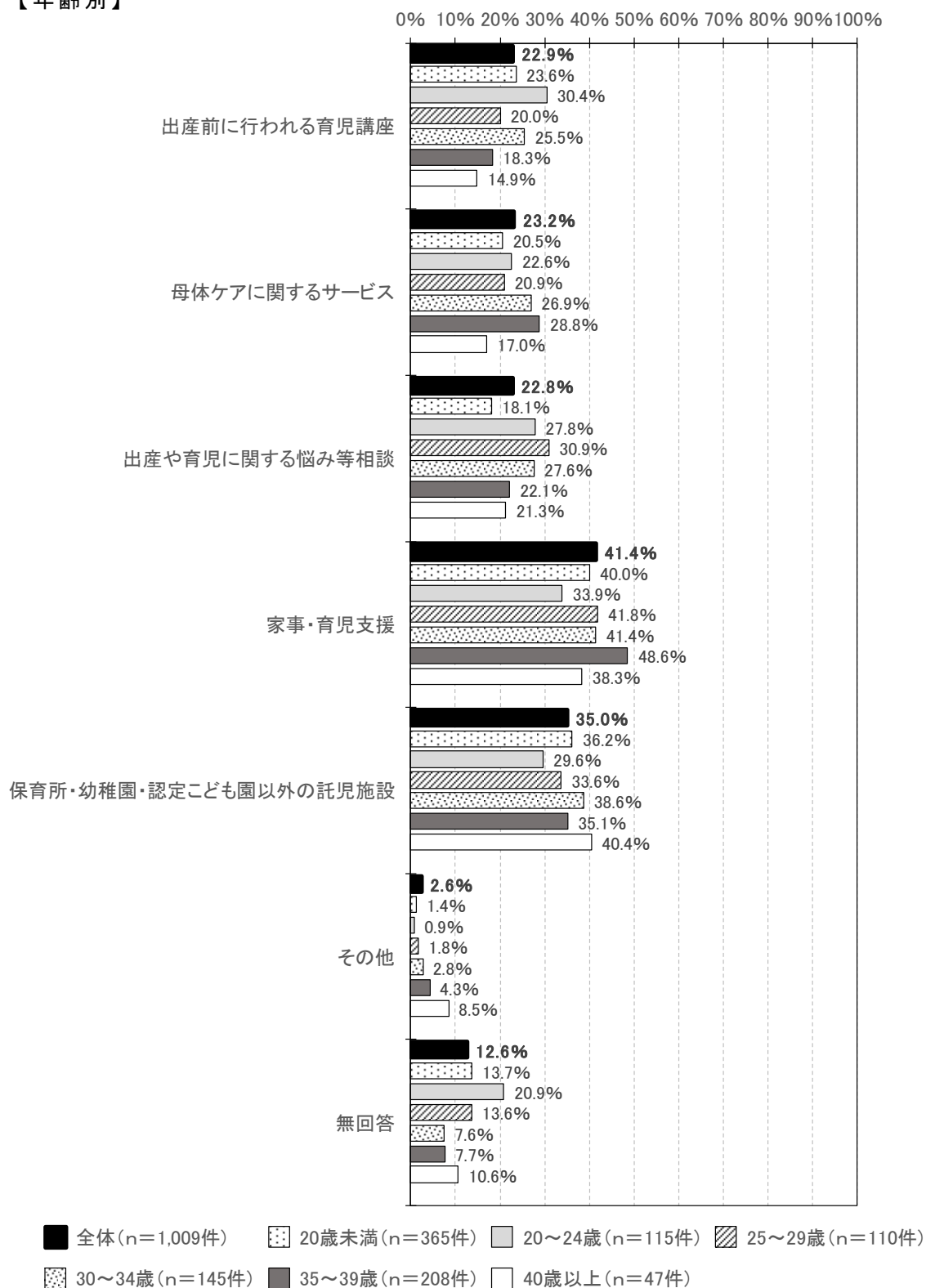
妊娠、出産、育児において、利用してみたいサービスとしては、「家事・育児支援」（41.4%）、「保育所・幼稚園・認定こども園以外の託児施設」（35.0%）への回答が多く、前回調査（平成27年度調査）と同様の傾向となっています。

【性別】



性別にみても、男女ともに「家事・育児支援」、「保育所・幼稚園・認定こども園以外の託児施設」への回答が多くなっていますが、どちらも“男性”よりも“女性”の方がやや回答の割合が高くなっています。

【年齢別】

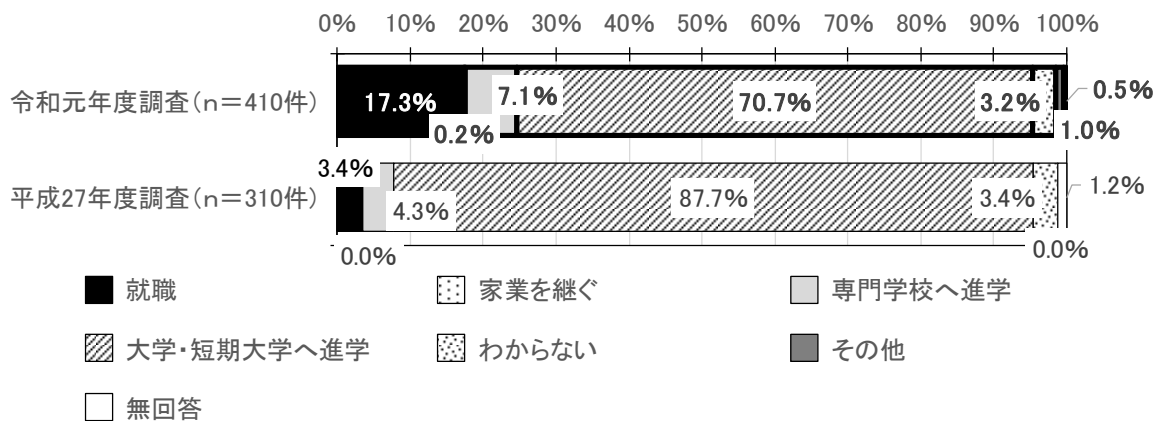


年齢別にみても、おおむねすべての年齢において「家事・育児支援」、「保育所・幼稚園・認定こども園以外の託児施設」への回答が多く、その他に“20～24歳”では「出産前に行われる育児講座」への回答が、“25～29歳”では「出産や育児に関する悩み等相談」への回答が3割を超えています。

5. 進路について

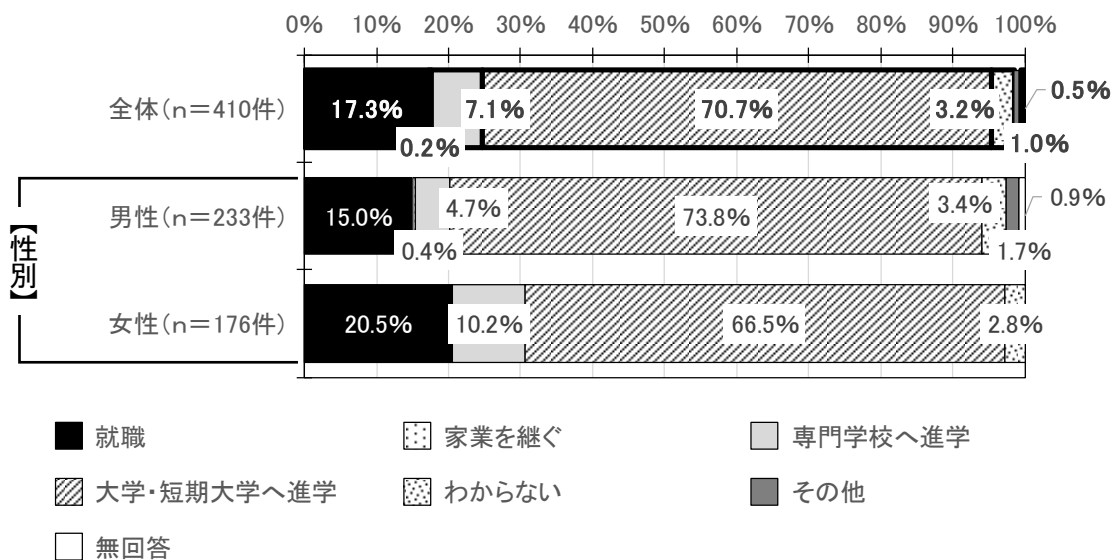
(1) 卒業後の進路希望

問 11 卒業後に、どのような進路を希望しますか。(○は1つだけ)



現在学生の方に卒業後の進路について聞くと、70.7%は「大学・短期大学へ進学」としています。

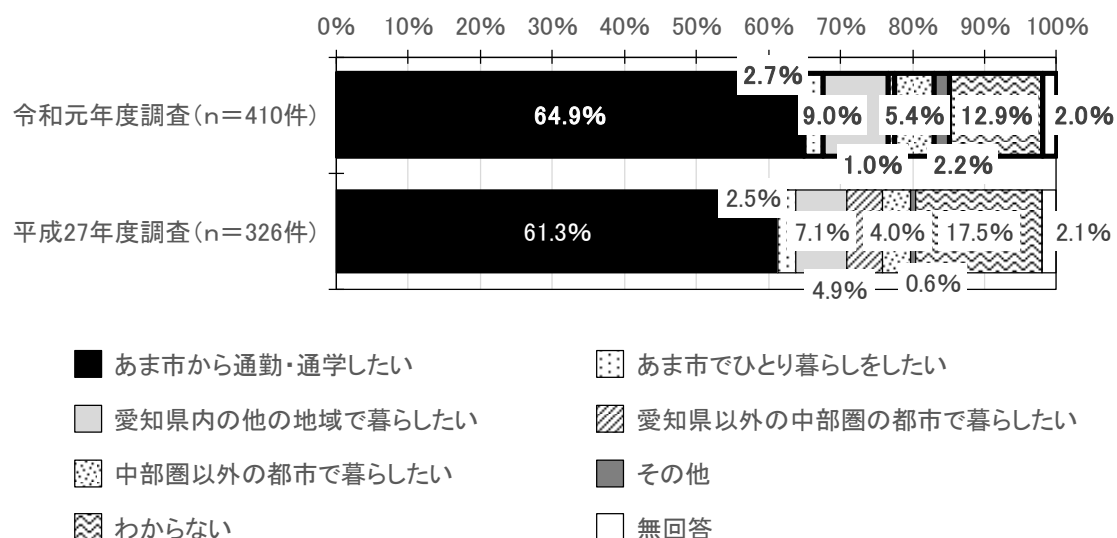
前回調査（平成 27 年度調査）では 87.7%が「大学・短期大学へ進学」としており、大学等への進学を希望する回答の割合は減少しています。一方、「就職」については前回 3.4%でしたが、今回は 17.3%と就職を希望する回答の割合は増加しています。



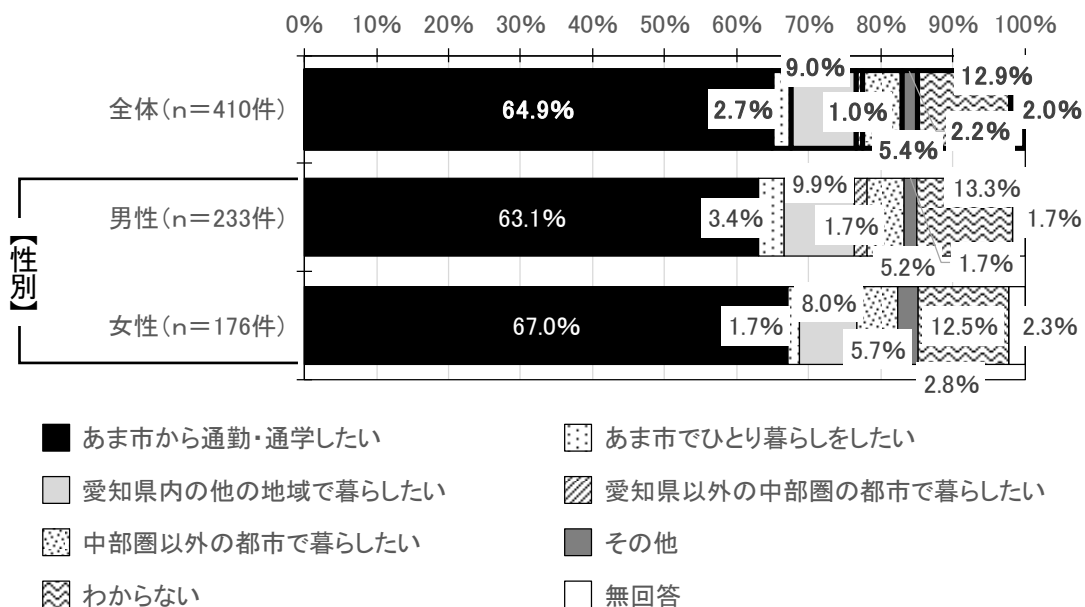
性別にみると、男女ともに「大学・短期大学へ進学」への回答がもっとも多くなっていますが、“女性”では「就職」への回答が 20.5%と、“男性”の 15.0%よりもやや割合が高くなっています。また「専門学校へ進学」への回答も“女性”の方が“男性”よりも回答の割合が高くなっています。

(2) 卒業後に住みたい場所

問 12 「問 11」で回答した進路に進む場合、どこに住みたいです。(○は1つだけ)



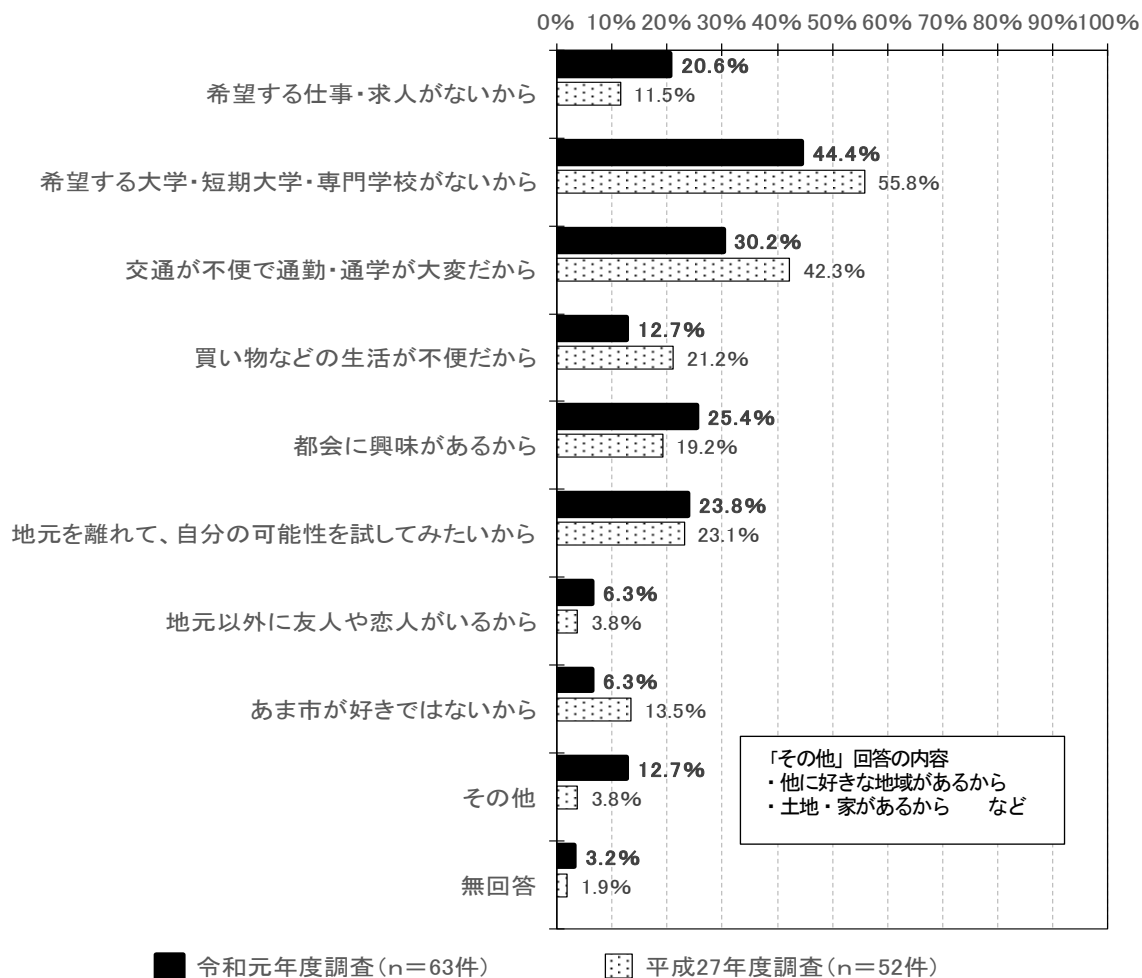
現在学生の方に卒業後に希望する進路に進んだ場合に住みたい場所について聞くと、64.9%は「あま市から通勤・通学したい」としており、前回調査（平成 27 年度調査）の 61.3%と同様の傾向となっています。



性別にみても、男女ともに「あま市から通勤・通学したい」への回答がともに6割を超えてもっとも多くなっています。

(3) あま市から転居したい理由

問 12-1 あま市を出たい理由は何ですか。(〇はいくつでも)

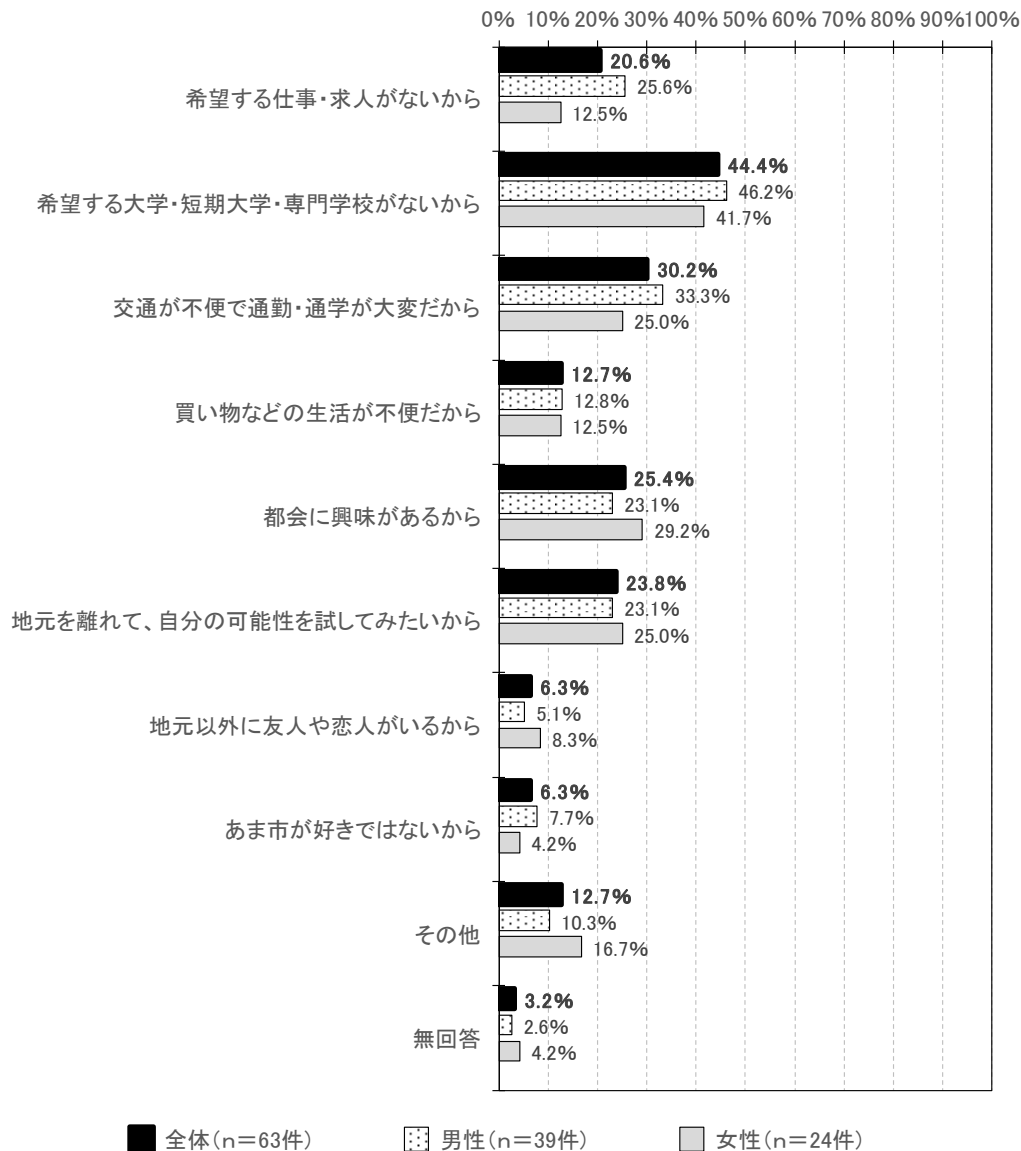


現在学生で卒業後に希望する進路に進んだ場合にあま市以外の場所で暮らしたいとした回答者に、あま市を出たい理由について聞くと、「希望する大学・短期大学・専門学校がないから」が44.4%、「交通が不便で通勤・通学が大変だから」が30.2%となっています。

前回調査（平成27年度調査）においても、「希望する大学・短期大学・専門学校がないから」（前回：55.8%）、「交通が不便で通勤・通学が大変だから」（前回：42.3%）への回答が多くなっていますが、回答の割合は前回よりも減少しています。

反対に、前回に比べて今回調査で回答の割合が高くなったものは、「希望する仕事・求人がないから」（20.6%）、「都会に興味があるから」（25.4%）などとなっています。

【性別】

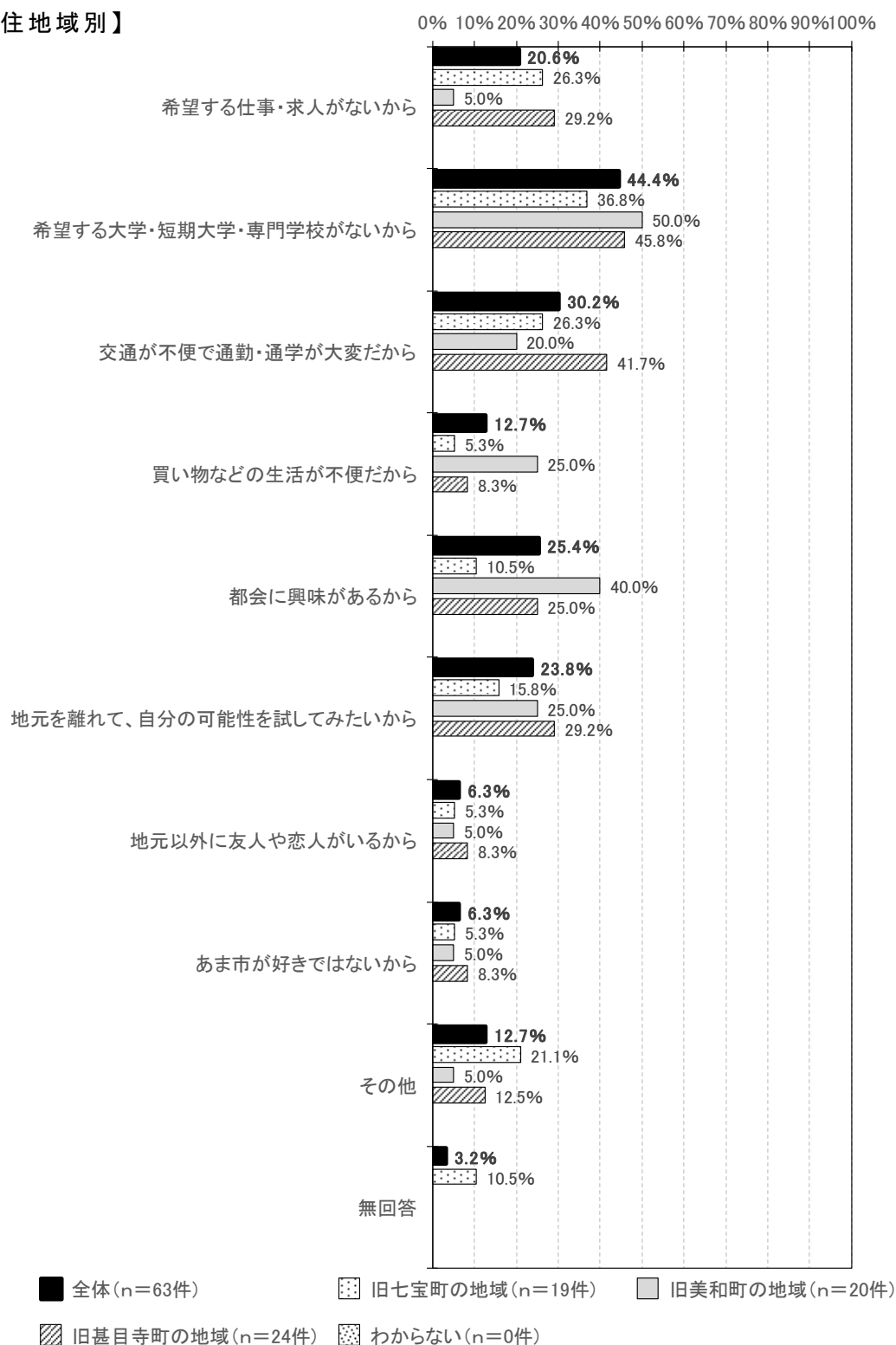


性別にみても、男女ともに「希望する大学・短期大学・専門学校がないから」への回答が多くなっています。

ついで“男性”では「交通が不便で通勤・通学が大変だから」への回答が多く、“女性”では「都会に興味があるから」への回答が多くなっています。

また「希望する仕事・求人がないから」については、“男性”では 25.6%を占めていますが、“女性”では 12.5%と“男性”において回答の割合が高くなっています。

【居住地域別】

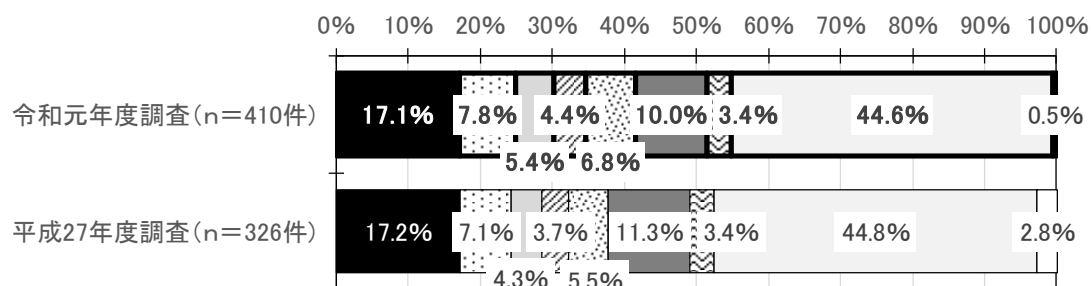


居住地域別にみると、すべての地域において「希望する大学・短期大学・専門学校がないから」への回答が多くなっています。

「交通が不便で通勤・通学が大変だから」については、“旧甚目寺町の地域”では41.7%、「都会に興味があるから」については“旧美和町の地域”で40.0%と他の地域よりも回答の割合が高くなっています。また「希望する仕事・求人がないから」については“旧七宝町の地域”と“旧甚目寺町の地域”では2割台を占めているのに対して、“旧美和町の地域”では5.0%と他の地域よりも回答の割合が低くなっています。

(4) 将来的なあま市での居住意向

問 13 将来、あま市で暮らしていきたいと思いますか。(〇は1つだけ)



- ずっと、あま市で暮らしていきたい
- ▤ 進学で一度あま市を離れても、就職の時に戻ってきたい
- ▥ 進学や就職のためにあま市を離れても、結婚する時に戻ってきたい
- ▧ 進学や就職のためにあま市を離れても、子どもを持つ時に戻ってきたい
- ▨ 定年退職後など、老後にあま市に戻ってきたい
- 他の地域に移り住んで、あま市に戻りたくない
- ▩ その他
- わからない
- 無回答

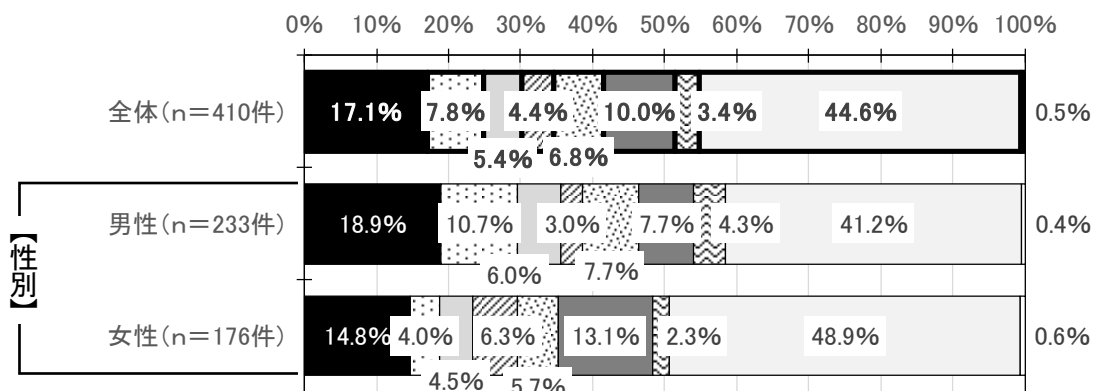
「その他」の内容

「時々帰る」、「永住したいと思わない」など

現在学生の方に将来的なあま市での居住意向について聞くと、44.6%は「わからない」としています。

「ずっと、あま市で暮らしていきたい」は 17.1%で、「進学で一度あま市を離れても、就職の時に戻ってきたい」(7.8%)、「進学や就職のためにあま市を離れても、結婚する時に戻ってきたい」(5.4%)、「進学や就職のためにあま市を離れても、子どもを持つ時に戻ってきたい」(4.4%)、「定年退職後など、老後にあま市に戻ってきたい」(6.8%) という“いつかはあま市に戻ってきたい”という回答をあわせると 41.5%と4割を占めています。

前回調査(平成27年度調査)においても「ずっと、あま市で暮らしていきたい」は 17.2%で、回答傾向に大きな変化はみられませんが、“いつかはあま市に戻ってきたい”という回答をあわせると 37.8%で、若干、今回調査で回答の割合が高まっています。

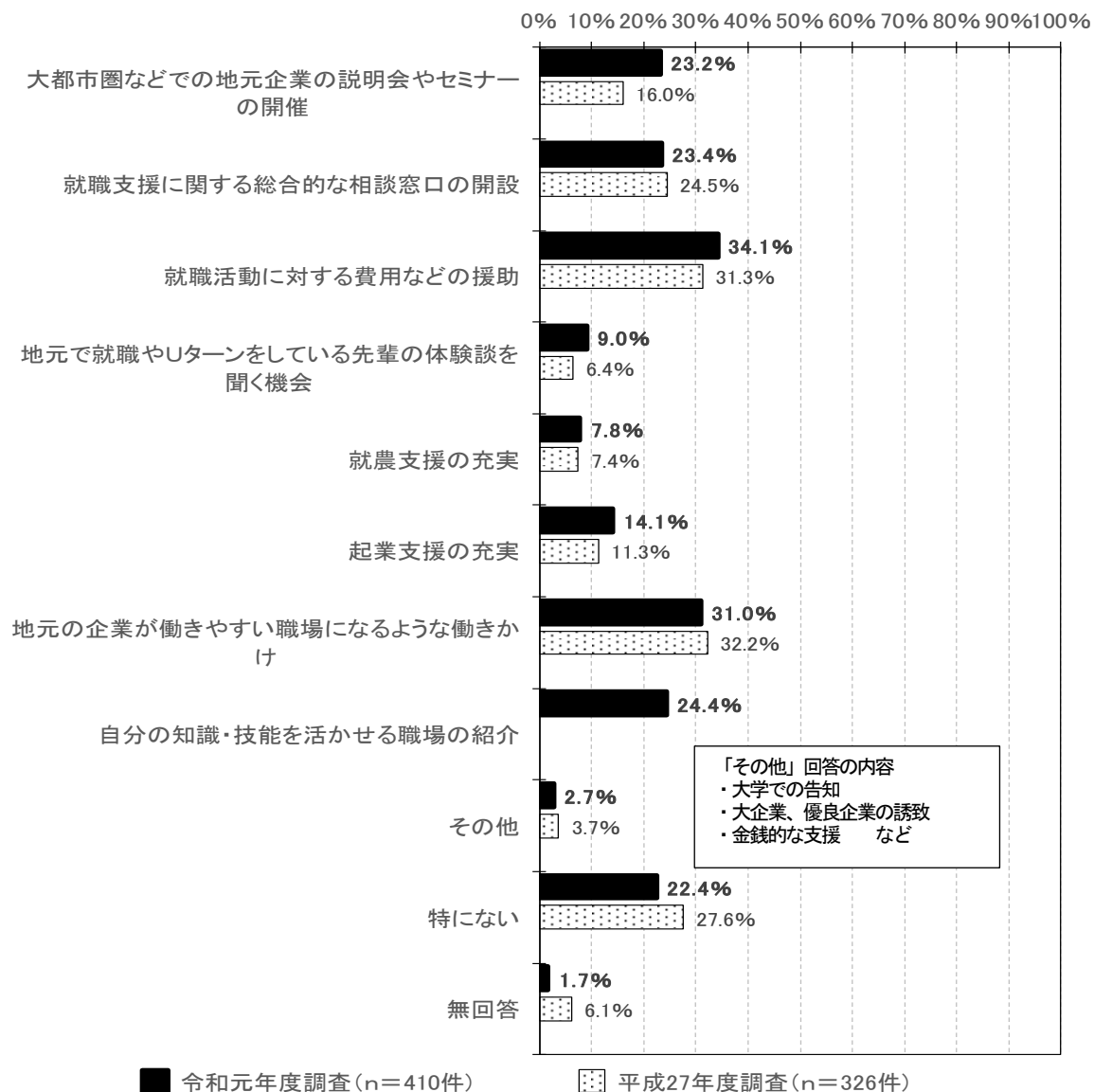


- ずっと、あま市で暮らしていきたい
- ▤ 進学で一度あま市を離れても、就職の時に戻ってきたい
- ▥ 進学や就職のためにあま市を離れても、結婚する時に戻ってきたい
- ▧ 進学や就職のためにあま市を離れても、子どもを持つ時に戻ってきたい
- ▨ 定年退職後など、老後にあま市に戻ってきたい
- ▩ 他の地域に移り住んで、あま市に戻りたくない
- その他
- わからない
- 無回答

性別にみると、“女性”の方が「わからない」という回答の割合が“男性”よりも高く、「ずっと、あま市で暮らしていきたい」については“男性”よりも低くなっています。“いつかはあま市に戻ってきたい”という回答については、“男性”が46.4%であるのに対して、“女性”は35.2%で、“女性”の方が居住意向が低くなっています。

（５）あま市での就労のために必要な支援

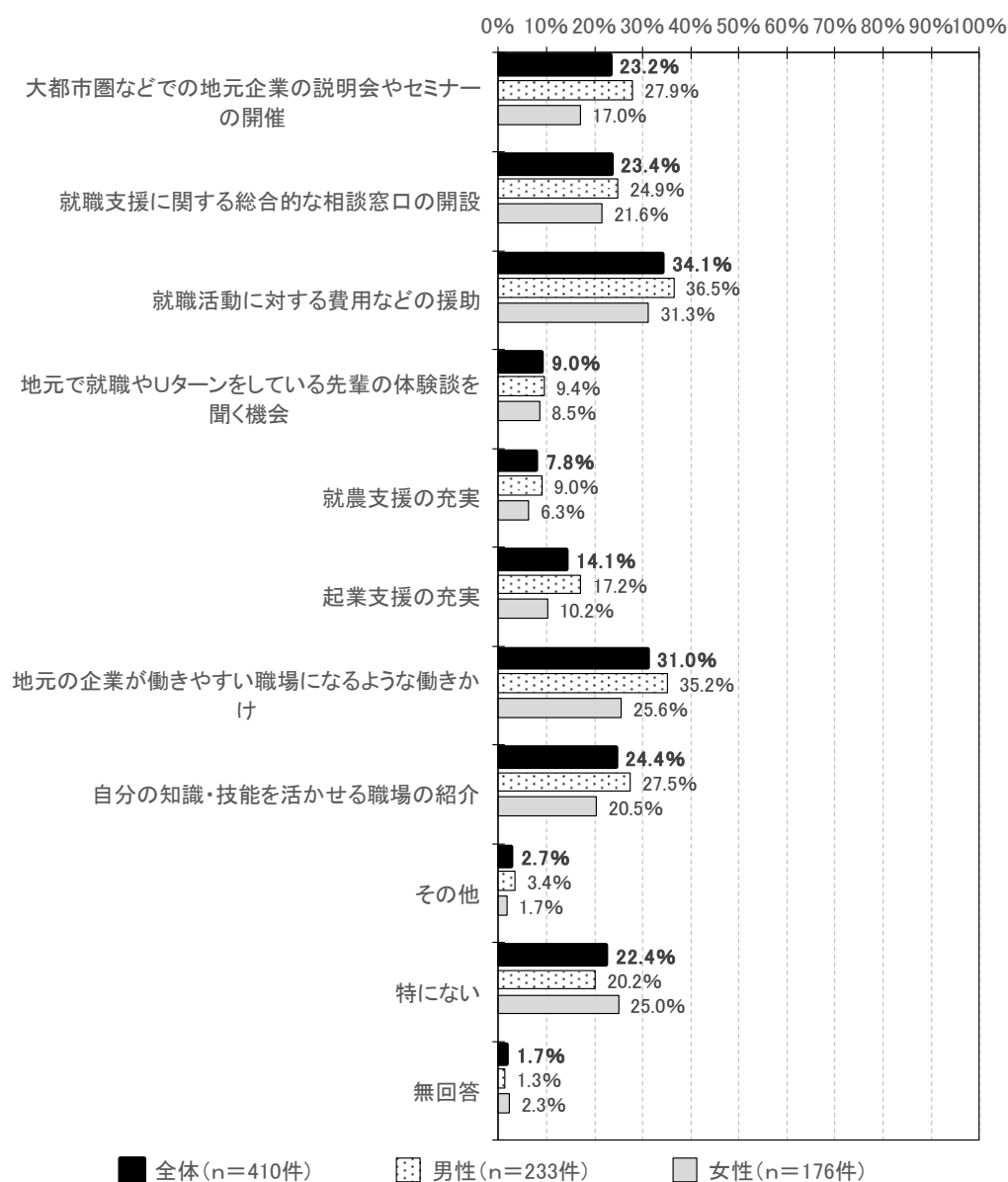
問 14 あま市で働いたり、Ｕターンして就職するために、どのような支援が必要だと思いますか。
(○はいくつでも)



あま市での就労のために必要な支援としては、「就職活動に対する費用などの援助」(34.1%)、「地元の企業が働きやすい職場になるような働きかけ」(31.0%) などへの回答が多くなっています。

前回調査（平成 27 年度調査）においても、「就職活動に対する費用などの援助」と「地元の企業が働きやすい職場になるような働きかけ」への回答が多く、今回も前回と同様の傾向となっていますが、「大都市圏などでの地元企業の説明会やセミナーの開催」などについては前回よりも回答の割合が高くなっています。

【性別】



性別にみると、男女ともに「就職活動に対する費用などの援助」、「地元の企業が働きやすい職場になるような働きかけ」への回答が多くなっています。

全般的に“女性”よりも“男性”の方が各項目に対する回答の割合が高く、とくに「大都市圏などでの地元企業の説明会やセミナーの開催」への回答は“男性”では27.9%と“女性”の17.0%を上回っています。

（６）地域の担い手としてやってみたいこと

問 15 あま市で地域の担い手の一員としてやってみたい（できそう）と思う取組がありましたら具体的に記入してください。（自由回答）

【回答（抜粋）】

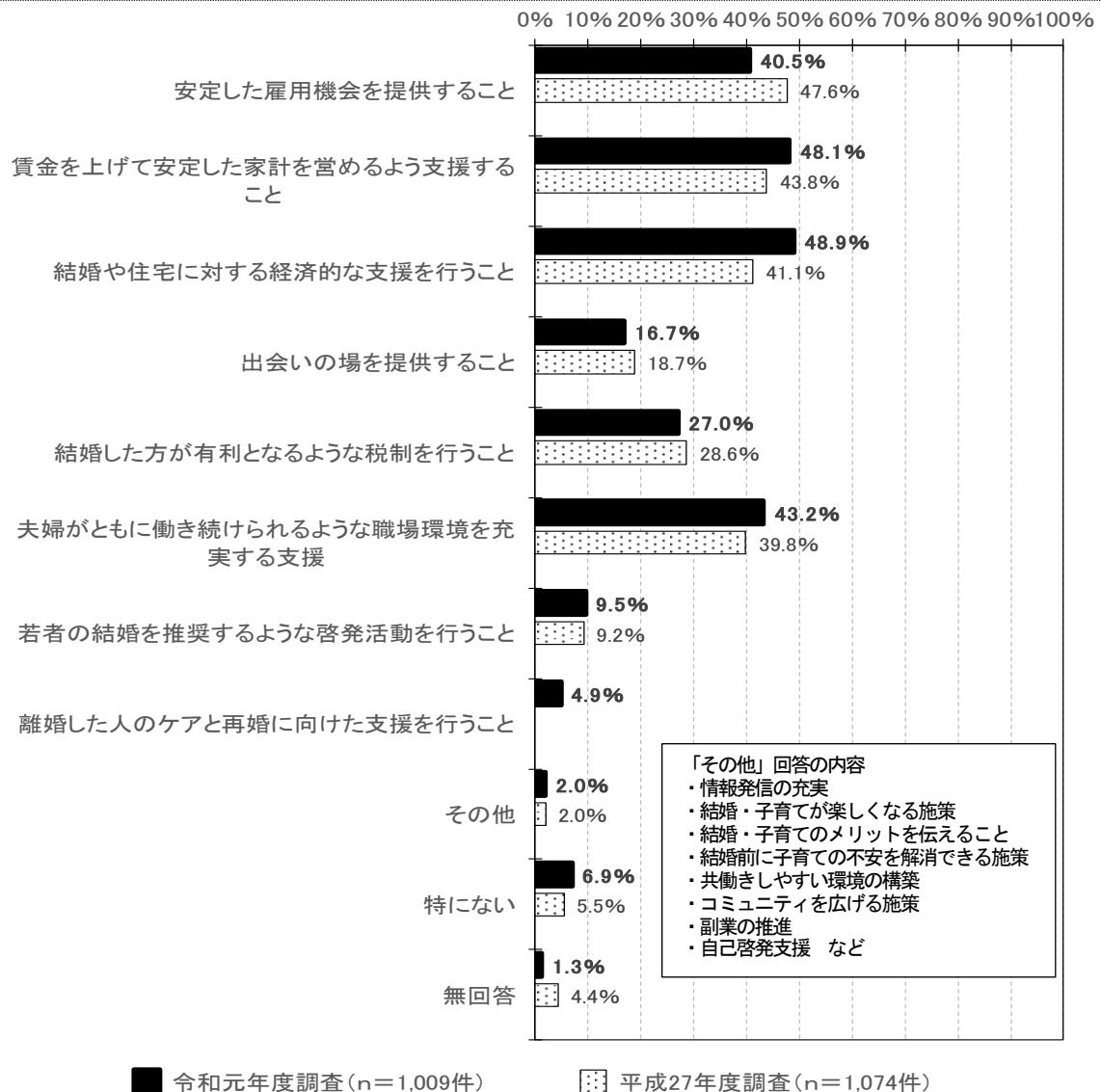
「図書館での読みきかせ」、「ボランティア」、「ボーイスカウト」、
「掃除、ゴミ拾い、ゴミゼロ運動」、「道路の草刈り」、「まちの緑化」
「祭り等の作業」、「祭りに出店」、「あまつりの手伝い」、
「七宝焼の活性化」、「七宝焼、刷毛を利用したギネス記録に挑戦」、
「地域の行事の手伝い」、「地域の活性化に関係する仕事」、
「若者が夢を持てるまちづくり」、「市民向けの市内巡りツアー」、
「チラシ、パンフレットづくり」、「姉妹都市の交流」、「人気店舗の誘致」
「大災害時に率先して地域の援助」、「恋愛相談カフェ」、
「福祉の充実」、「高齢者の手助け」、「子育て家族の手助け」、
「買い物支援」、「子どもの学力向上」、「養育里親」、「こども食堂」、
「ひきこもり支援」、「気軽に参加できる活動」、「何かあればやりたい」、
「やれることなら何でも」

など

6. あま市の施策について

(1) 結婚希望者への結婚支援のために必要な施策

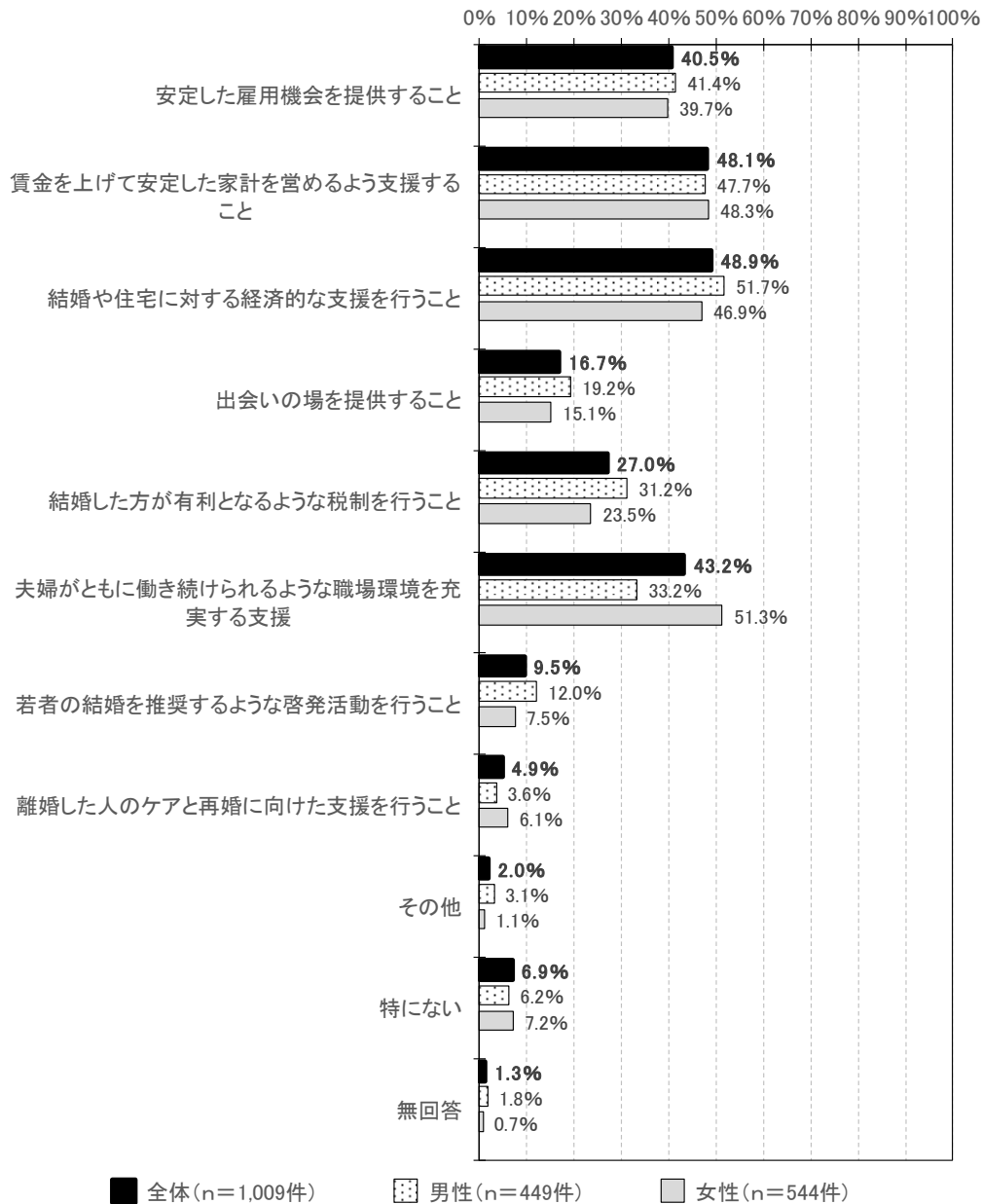
問 16 結婚を希望する人の結婚を支援する施策として重要だと思うものは何ですか。
(主なもの3つまでに○)



結婚を希望する人の結婚を支援する施策として重要なものとしては、「結婚や住宅に対する経済的な支援を行うこと」(48.9%)、「賃金を上げて安定した家計を営めるよう支援すること」(48.1%)、「夫婦がともに働き続けられるような職場環境を充実する支援」(43.2%) など、経済的な支援や職場環境の改善支援といった働くことを通じて安定的な家計運営を行えるようにするための支援への回答が多くなっています。

前回調査(平成27年度調査)においても同様の傾向がうかがえますが、「安定した雇用機会を提供すること」(前回:47.6%、今回:40.5%)については回答の割合が減少し、「夫婦がともに働き続けられるような職場環境を充実する支援」(前回:39.8%、今回:43.2%)については反対に回答の割合がやや高くなっています。

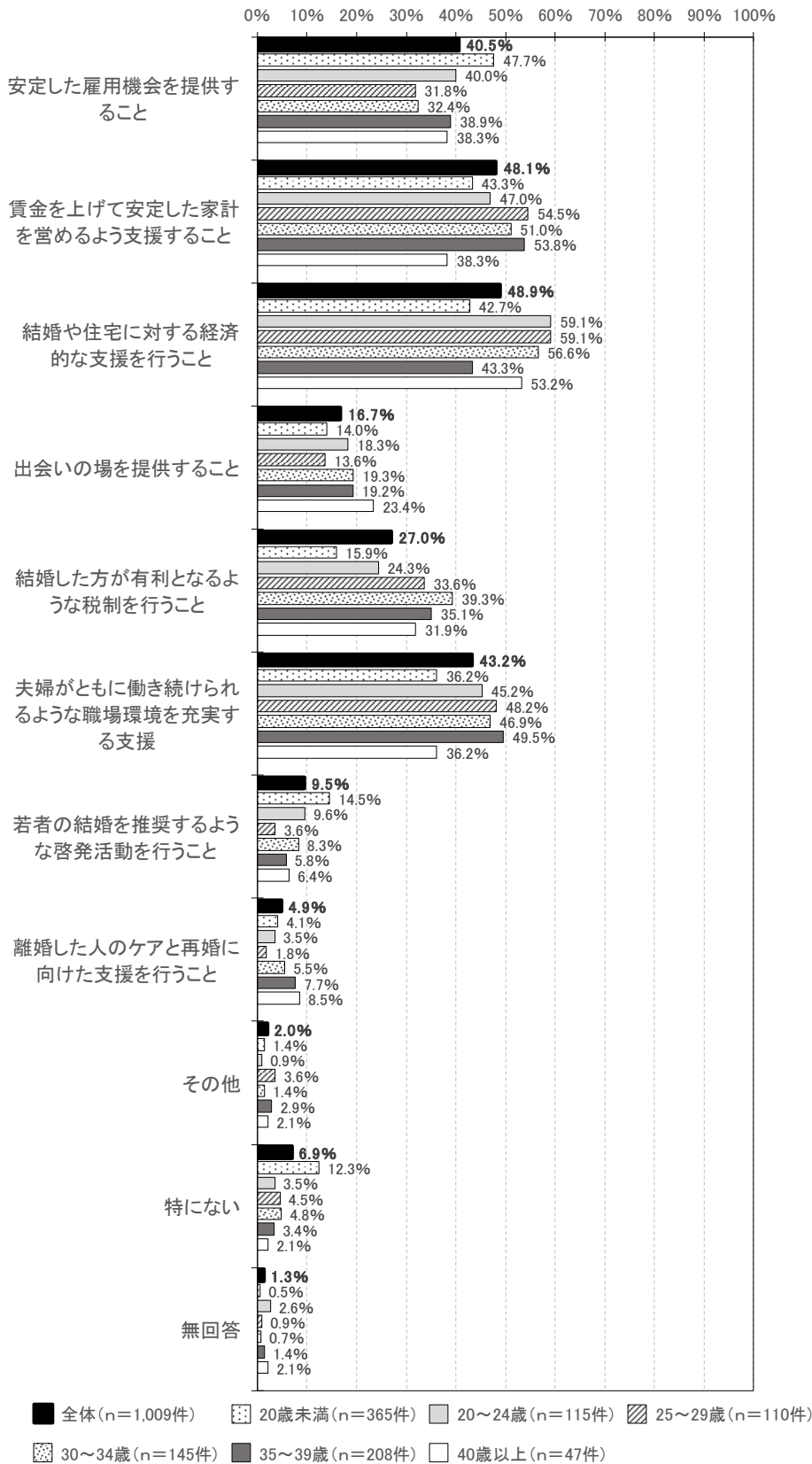
【性別】



性別にみても、「賃金を上げて安定した家計を営めるよう支援すること」、「結婚や住宅に対する経済的な支援を行うこと」への回答が男女ともに4割以上を占めて多くなっています。

その他に“女性”では「夫婦がともに働き続けられるような職場環境を充実する支援」が51.3%と半数以上を占め、“男性”よりも回答の割合が高く、反対に「結婚した方が有利となるような税制を行うこと」については“女性”よりも“男性”の方が回答の割合が高くなっています。

【年齢別】



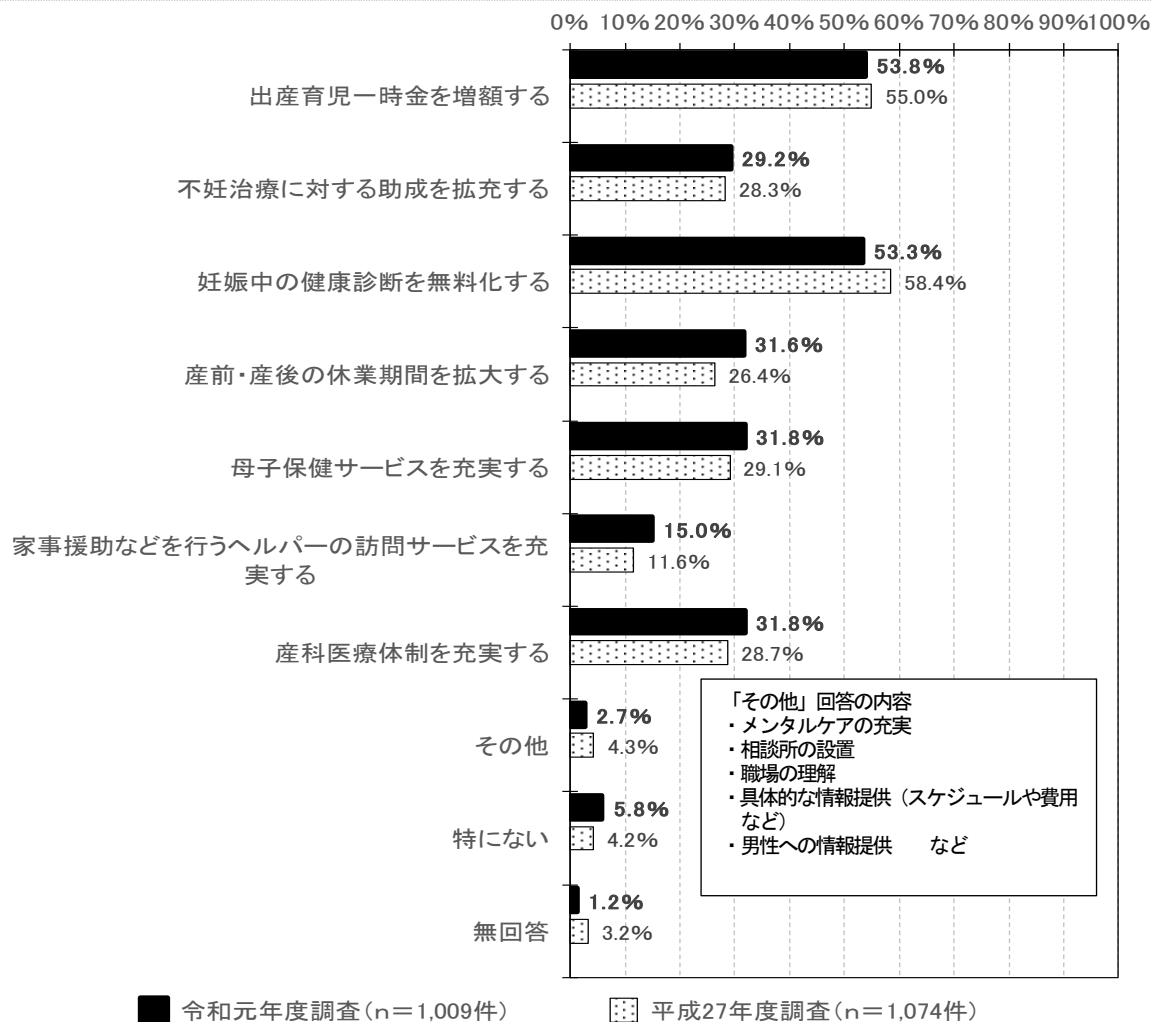
年齢別にみても、「賃金を上げて安定した家計を営めるよう支援すること」、「結婚や住宅に対する経済的な支援を行うこと」への回答がすべての年齢において上位を占めています。

「夫婦がともに働き続けられるような職場環境を充実する支援」については20～39歳では4割以上を占めています。また「20歳未満」と「40歳以上」では3割台とやや回答の割合が低くなっています。

また「20歳未満」では「安定した雇用機会を提供すること」への回答が47.7%と他の年齢よりも割合が高くなっています。

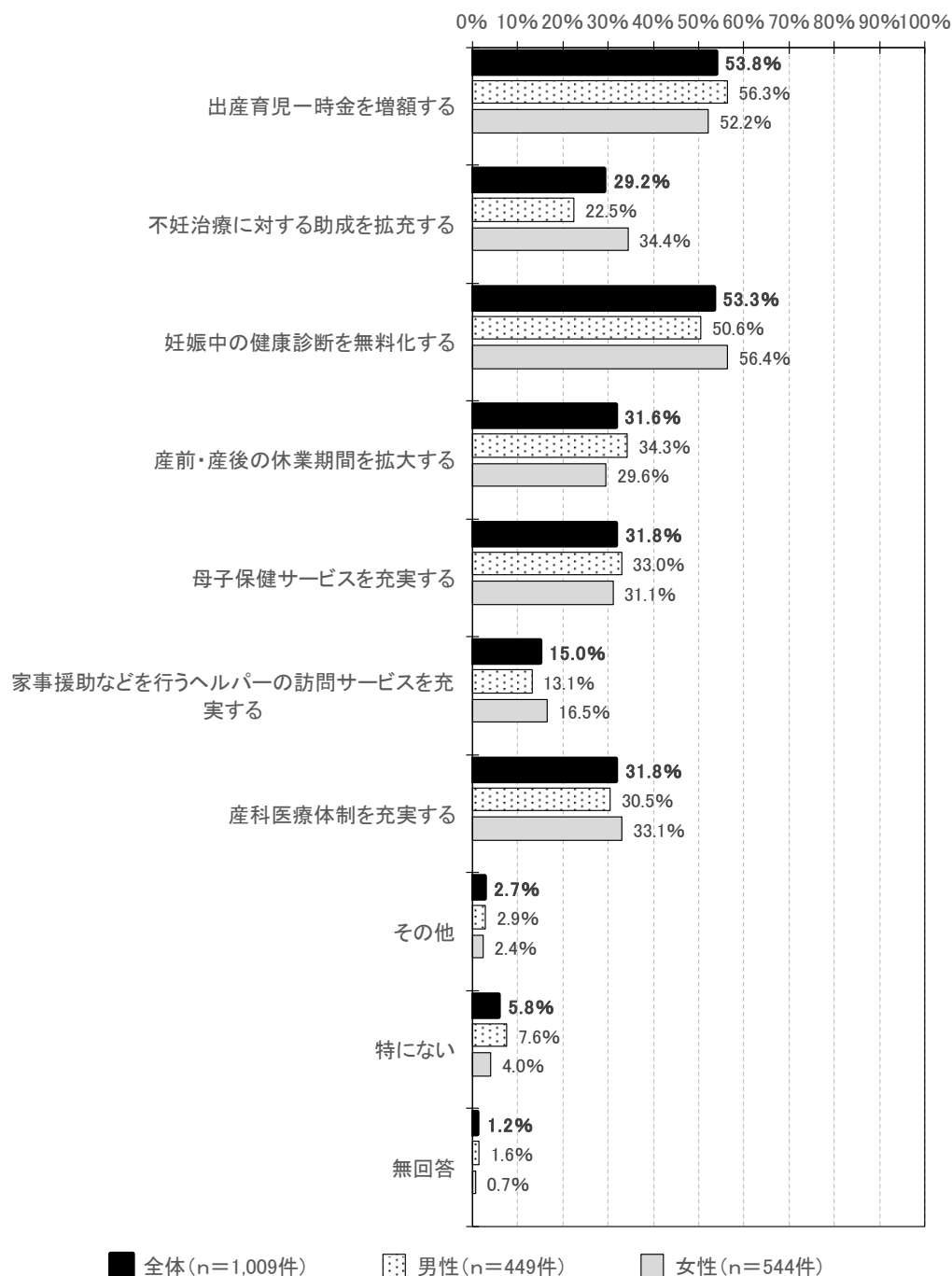
（２）妊娠・出産の環境整備のために重要な施策

問 17 安心して妊娠・出産ができる環境を整備する施策として重要だと思うものは何ですか。
(主なもの3つまでに○)



安心して妊娠・出産ができる環境を整備する施策として重要なものとしては、前回調査（平成 27 年度調査）と同様に、「出産育児一時金を増額する」（53.8%）と「妊娠中の健康診断を無料化する」（53.3%）への回答がともに半数以上を占めて多くなっています。

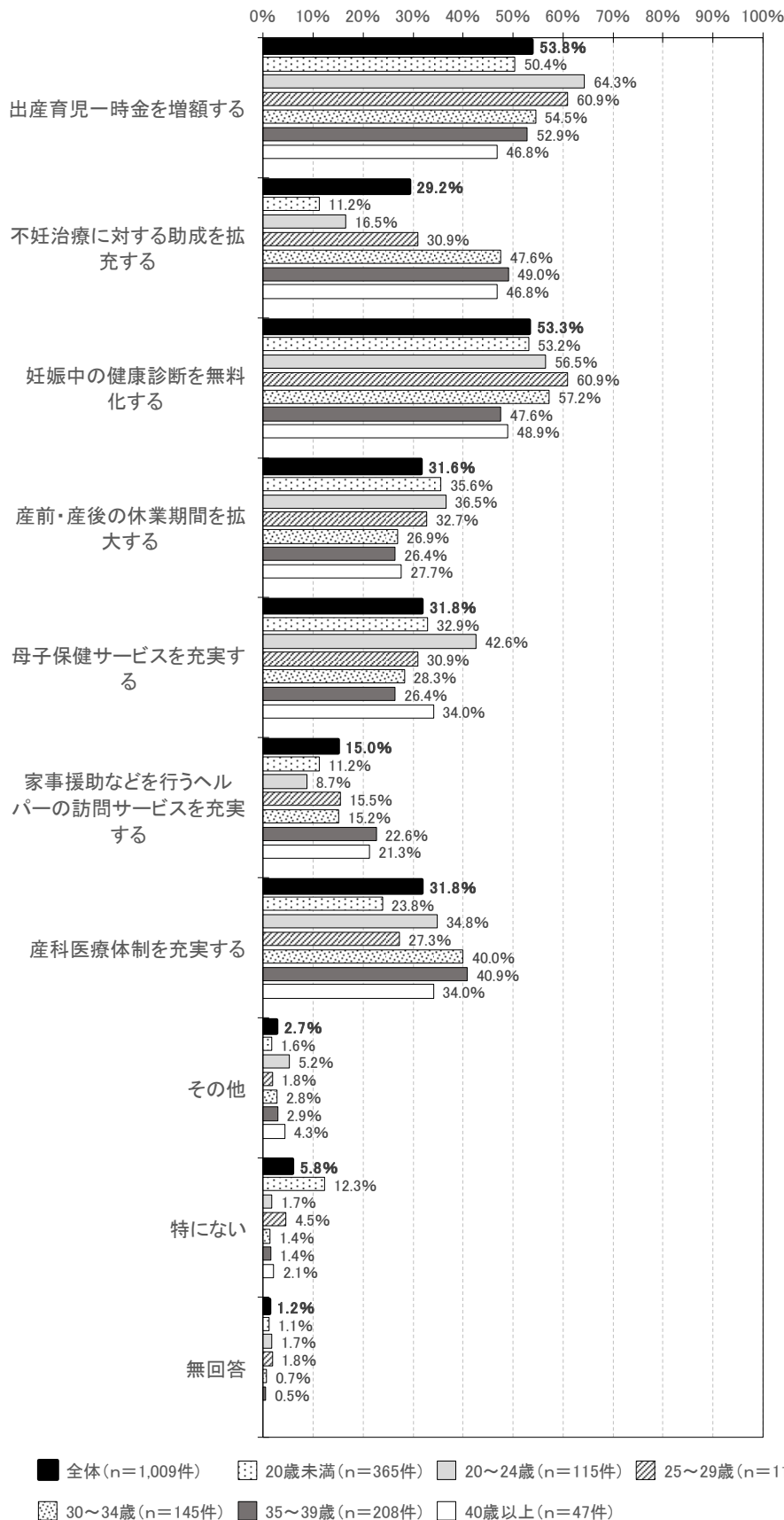
【性別】



性別にみても、男女ともに、「出産育児一時金を増額する」と「妊娠中の健康診断を無料化する」への回答が多くなっています。

その他に“女性”では「不妊治療に対する助成を拡充する」への回答が 34.4%と、“男性”に比べて回答の割合が高くなっています。

【年齢別】



年齢別にみると「出産育児一時金を増額する」については“20～24 歳”の 64.3%をピークに、以降、年齢が上がるほど回答の割合が低くなっています。

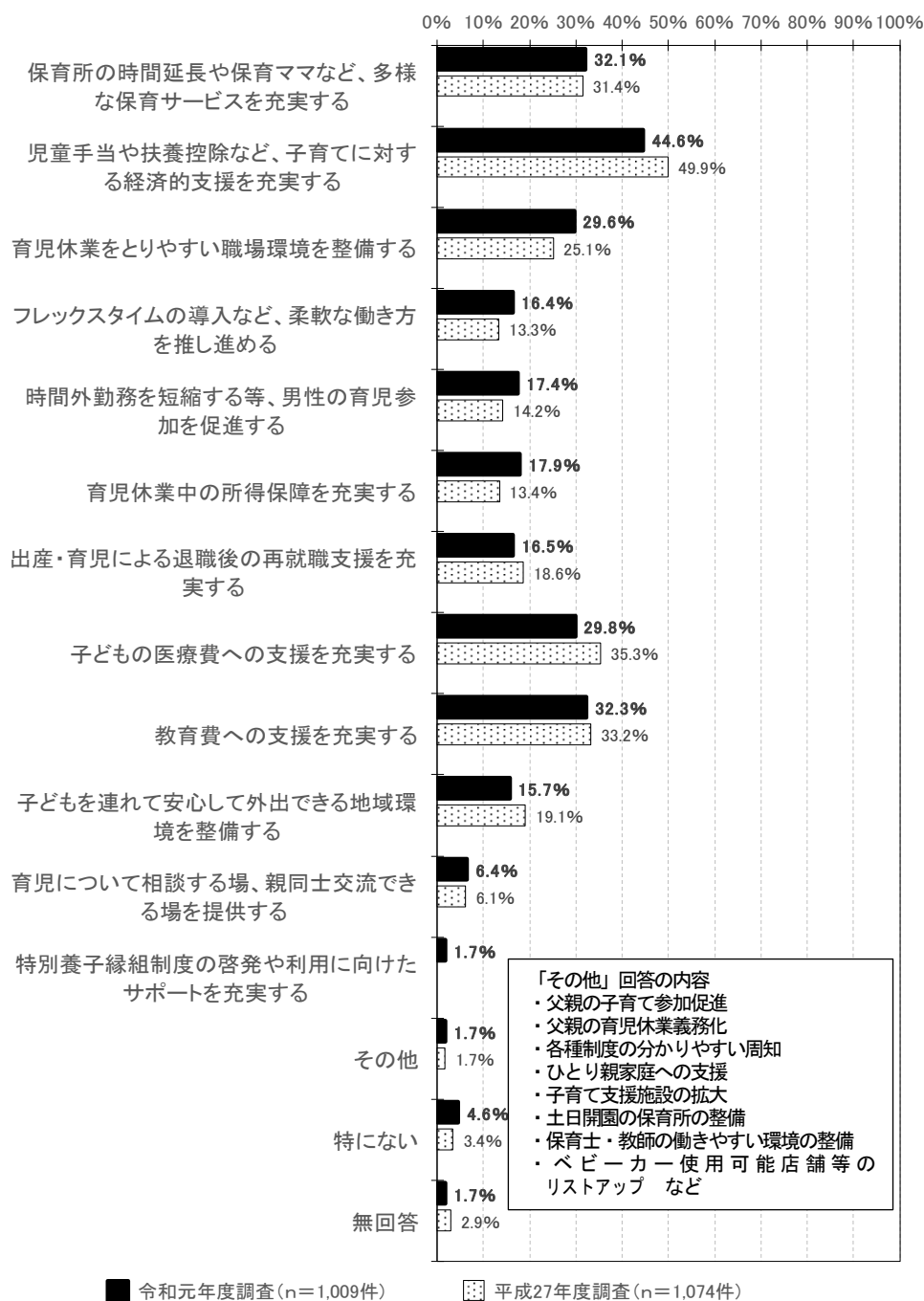
また「不妊治療に対する助成を拡充する」については 30 歳以上では 4 割を超えて、30 歳未満よりも回答の割合が高くなっています。

反対に「産前・産後の休業期間を拡大する」については 30 歳未満では 3 割台と、30 歳以上に比べて回答の割合が高くなっています。

その他に、“20～24 歳”では「母子保健サービスを充実する」への回答が 42.6%と、他の年齢よりも割合が高く、「産科医療体制を充実する」については 30 代で回答の割合が高くなっています。

(3) 子育て支援のために重要な施策

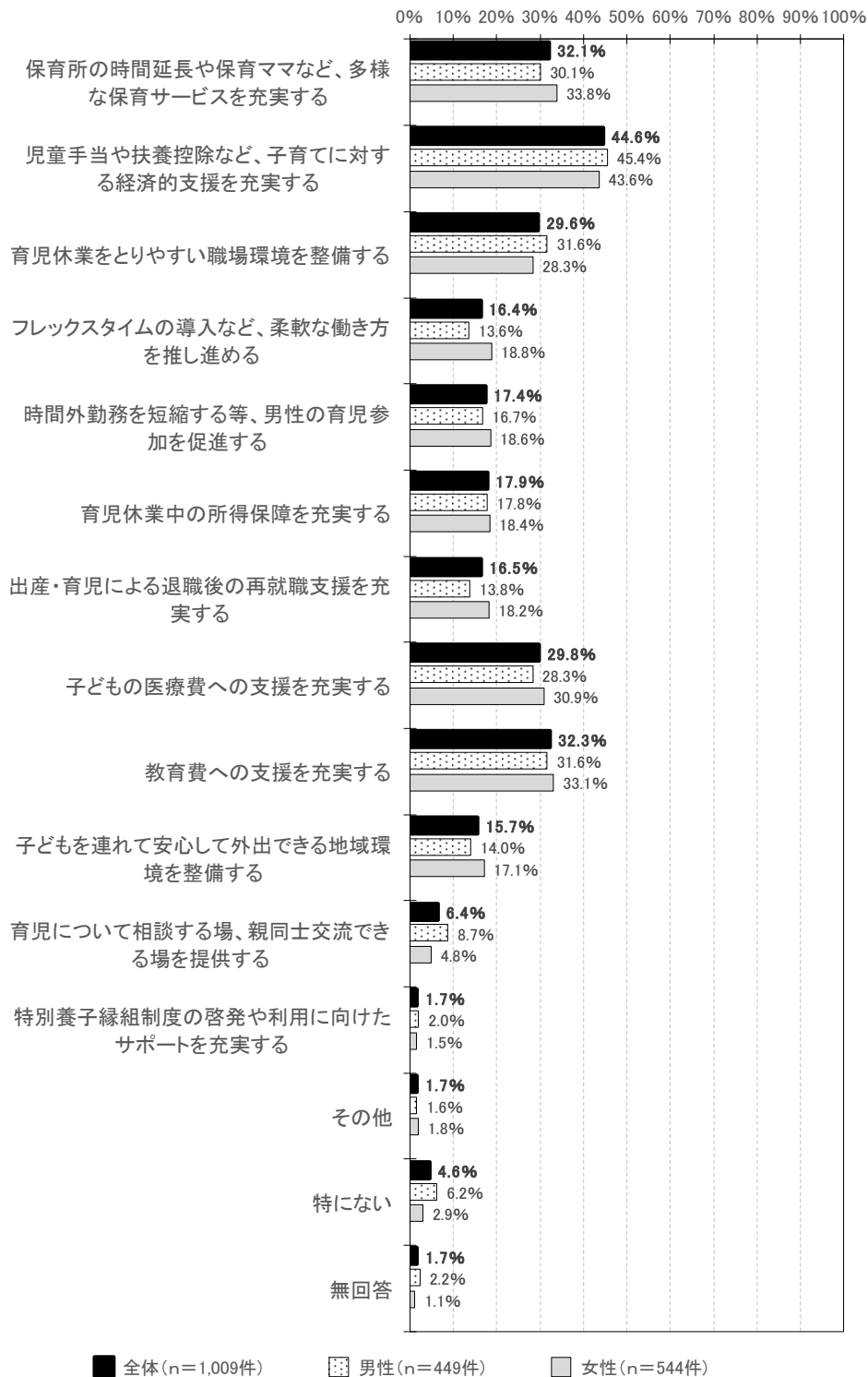
問 18 子育てを支援する施策として重要だと思うものは何ですか。(主なものを3つまでに○)



子育てを支援する施策として重要なものとしては、「児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援を充実する」が44.6%でもっとも多くなっています。ついで「教育費への支援を充実する」(32.3%)、「保育所の時間延長や保育ママなど、多様な保育サービスを充実する」(32.1%)、「子どもの医療費への支援を充実する」(29.8%)、「育児休業をとりやすい職場環境を整備する」(29.6%)への回答が3割前後と多くなっています。

前回調査(平成27年度調査)においても上位項目は同様となっており、今回も前回と同じ回答傾向を示しています。

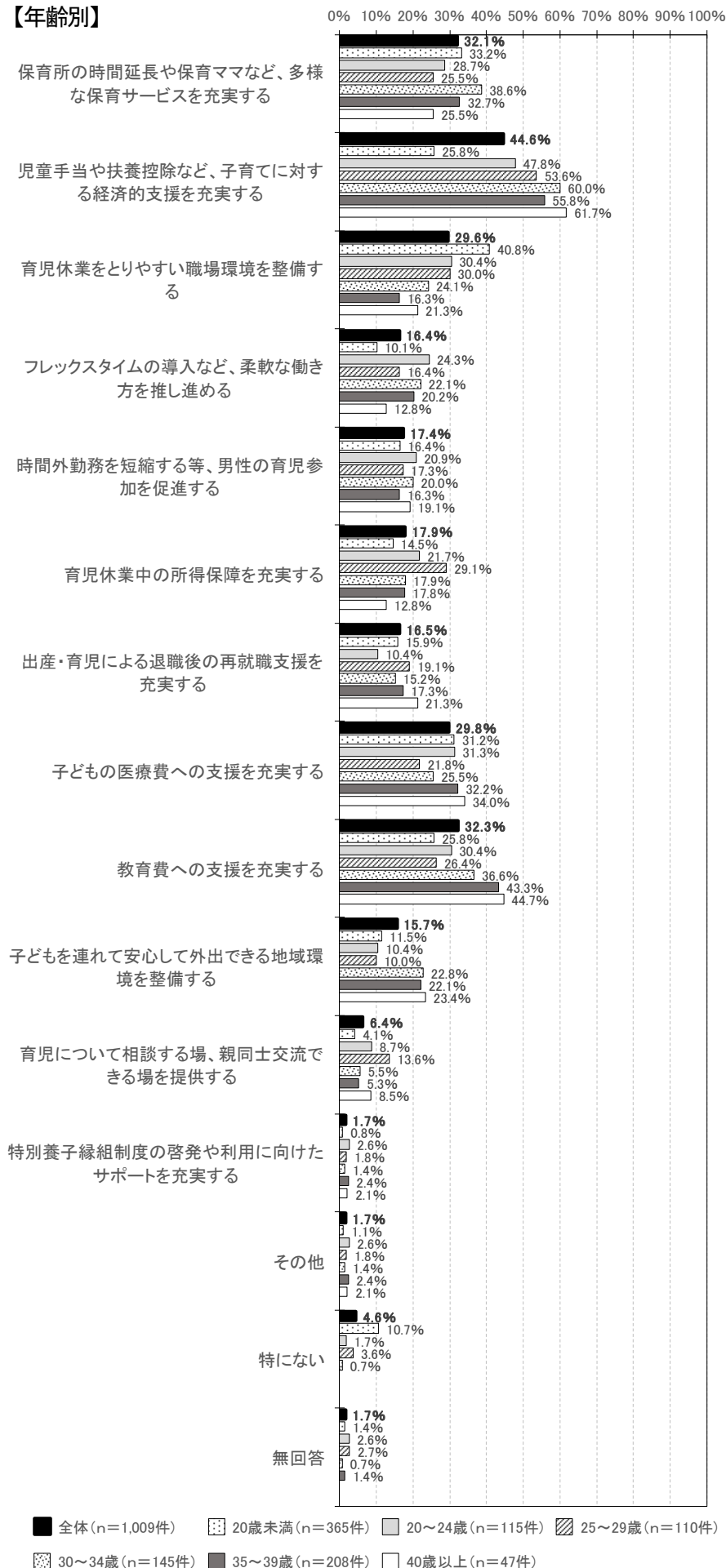
【性別】



性別にみても、男女ともに「児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援を充実する」への回答が多くなっています。

その他に「教育費への支援を充実する」、「保育所の時間延長や保育ママなど、多様な保育サービスを充実する」、「子どもの医療費への支援を充実する」、「育児休業をとりやすい職場環境を整備する」への回答が男女ともに多くなっています。

【年齢別】



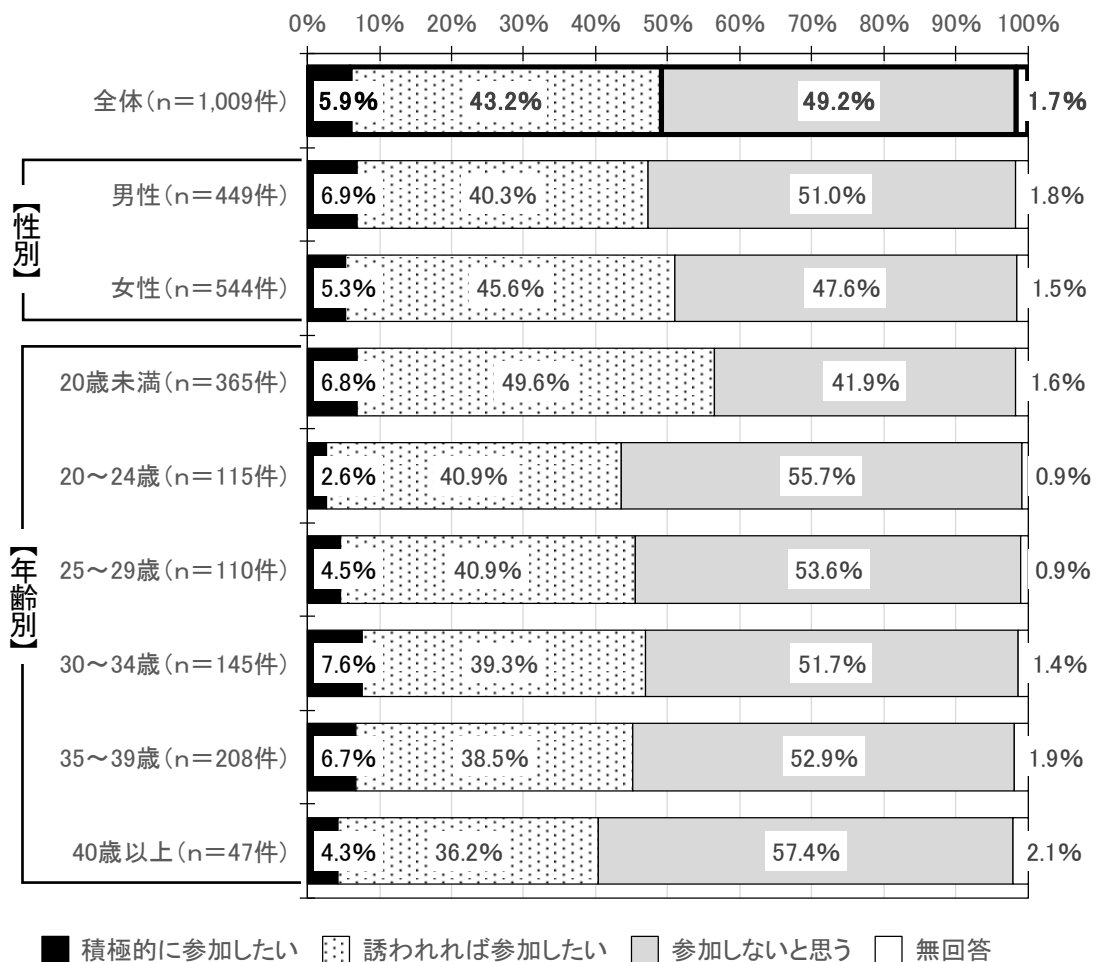
年齢別にみても、20 歳以上では「児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援を充実する」への回答がもっとも多くなっています。

“20 歳未満”では「育児休業をとりやすい職場環境を整備する」への回答が40.8%でもっとも多くなっています。

その他に、「教育費への支援を充実する」については35 歳以上で 4 割以上を占め、35 歳未満よりも回答の割合が高くなっています。

(4) まちづくりワークショップ等への参加意向

問 19 あま市では、まちづくりに関するワークショップ等に若い方が参加することを推進しています。ワークショップ等に参加したいと思いますか。(〇は1つだけ)



ワークショップ等への参加意向についてみると、全体では49.2%とほぼ半数が「参加しないと思う」としています。「積極的に参加したい」は5.9%となっているものの、「誘われれば参加したい」は43.2%で、あわせると49.2%は参加意向があるとしています。

性別にみると、「積極的に参加したい」という回答は“男性”よりも“女性”の方がやや少ないものの、「誘われれば参加したい」は“女性”の方がやや多く、両者をあわせた参加意向があるとの回答も“女性”では50.9%と“男性”の47.2%をやや上回っています。

年齢別にみると、参加意向はおおむね年齢が上がるほど低くなっており、「積極的に参加したい」と「誘われれば参加したい」をあわせた参加意向は、“20歳未満”では56.4%と半数以上を占めているのに対して、“40歳以上”では40.4%となっています。

(5) 自由意見

問 20 結婚・出産・子育て、少子化、人口問題などの観点から、あま市のまちづくりで充実してほしいと感じている施策やご意見などがありましたら、自由にご記入ください。

【回答（抜粋）】

テーマ	回答内容
結婚	・結婚や出産などの支援金制度の充実 ・離婚を抑制する活動 ・結婚に前向きになれる多様な支援制度の充実 など
出産	・産婦人科の充実 ・出産年齢が高齢化していることに対する支援 ・不妊治療の充実 など
子育て	・小児科の充実 ・保育施設の充実 ・子ども医療費の18歳無料化 ・ファミリーサポートセンターの広域利用 ・子どもの英才教育 ・図書館の充実 ・ひとり親家庭への住宅支援 ・子どもが安全に遊べる公園の整備 ・障がい児への助成 など
少子化	・人口減少を抑制する施策 ・多子世帯への支援充実 ・出産人数による段階的な支援拡大 ・子一人当たりの定額補助 ・不妊治療の充実（再掲） など
人口問題	・市内で働く職場の整備 ・土地開発による住宅建設用地の提供 ・結婚・出産を促進する施策 など
まちづくり（全般）	・大企業の誘致 ・大都市近隣の立地条件を活かしたまちづくり ・明確なビジョンを示した都市計画 ・大型商業施設の整備 ・都市化の促進 ・地方分散型のスマートシティの構築 など
道路交通	・駅前賑わいづくり ・利用者が多い甚目寺駅にバスを接続 ・七宝駅周辺の駅前開発 ・街灯の整備 ・子どもの安全のための道路改良 ・高齢化に対応する公共交通の充実 ・バリアフリーのまちづくり ・遊歩道の整備 ・名古屋へのアクセス強化 など
安全・安心	・治安の良いまちづくり ・災害に強いまちづくり ・災害時の避難所の増設（民間企業の建物使用など） など
その他	・市民の交流の場の整備 ・若者世代の人生設計支援 ・負担の少ない地域コミュニティの構築 ・外国人との共生 ・地域自治会活動との相互理解 ・二ツ寺親水公園の戦略的活用 ・性的マイノリティへの理解 など

結婚・出産・子育て及びまちづくりに関するアンケート調査
【調査結果報告書】
令和2年3月

編集	あま市企画財政部企画政策課 〒490-1292 愛知県あま市木田戊亥 18 番地 1 T E L : 052-444-1001 (代表)
----	--